

## Remote Control コントローラー・ユーザー・ガイド



# 目次

<b>第 1 章. BigFix Remote Control コントローラー・ユーザーズ・ガイド</b> .....	<b>4</b>
BigFix Remote Control サーバー・インターフェース.....	4
サーバー・インターフェースへのアクセス.....	4
ターゲット・メニューのオプション.....	5
「ユーザー」メニューで使用可能なオプション.....	15
セッション・メニューのオプション.....	16
レポート・メニューのオプション.....	18
オプション・メニュー.....	19
ツール・メニューのオプション.....	22
ヘルプの使用.....	27
リモート・コントロール・セッション.....	28
確立可能なリモート・コントロール・セッションのタイプ.....	29
サーバーからのリモート・コントロール・セッションの開始.....	39
P2P セッションの開始.....	40
ブローカーを使用したリモート・コントロール・セッションの開始.....	42
既にセッションに参加しているターゲットへの接続.....	44
コントローラー・ユーザーとしてのコントローラー・インターフェースの使用.....	46
コントローラー・インターフェースの概要.....	46
リモート・コントロール・セッション中のセッション・タイプの変更.....	50
ローカル入力を使用可能および使用不可にする.....	51
Remote Control でのリモート・コントロール・セッション中におけるターゲットの Num lock の状態の設定.....	51
ターゲットで実行できるアクション。.....	52
ターゲット・システム情報の取得.....	55
リモート・コントロール・セッション中のターゲット・ユーザーとのチャット.....	56
リモート・コントロール・セッションへの複数の参加者の招待.....	56
コントローラー・ツール.....	74
リモート・コントロール・セッションの記録.....	77
アクティブ・セッション中のファイルの転送.....	81
コントローラーとターゲットの間のクリップボード情報のコピー.....	84
セッション中のスマート・カード・リーダーへの接続.....	85

ネットワーク応答標識.....	86
複数のターゲット画面の表示.....	86
セッション中のターゲット画面のスクロール.....	87
セッション・ウィンドウ内でのターゲットのフルスクリーン表示.....	87
セッション・パフォーマンスの向上のためのセッション・ウィンドウのカラー品質の変更 .....	87
コントローラーのローカル構成の作成.....	89
ヘルプの取得 .....	93
セッションの終了.....	94
コマンド・ラインからのリモート・コントロール・コマンドの使用.....	95
コマンド行からのリモート・コントロール・セッションの開始.....	96
コマンド・ラインからのターゲット上でのコマンドの実行.....	98
wrc および wrcmdpcr コマンドのエラー・メッセージ .....	100
グローバル・コントローラー・プロパティの構成.....	104
P2P セッション中のターゲット上でのツールの実行.....	105
キー・シーケンスのターゲットへの送信.....	108
P2P セッション用のログオン資格情報の保持.....	110
マスター・コントローラーの受け入れウィンドウの非表示化.....	112
リモート・セッション中のターゲットにおけるツールの実行の有効化と無効化.....	113
監査.....	114
ユーザーの受け入れの監査イベント.....	114
監査イベントの認証 .....	116
スマート・カード監査イベント.....	117
現在のデータが報告されるようにする.....	119
エラーメッセージ .....	119
ブローカーを使用して接続されたセッションのセッション回復力.....	122
スマート・カードのステータス・メッセージ.....	124
のキーボード・ショートカット BigFix® Remote Control Target for macOS.....	125
プロキシのオーバーライド.....	125
Notices.....	125
<b>索引.....</b>	<b>a</b>

# 第 1 章. BigFix Remote Control コントローラー・ユーザーズ・ガイド

本書は、リモート・コントロール・セッションに参加してリモート・コンピューターを制御するユーザーを対象としています。リモート・コントロール・セッション中にコントローラー・ユーザーがターゲット・ユーザーとの通信に使用できるインターフェースの詳細を示します。Remote Control サーバー・インターフェースを使用するときにコントローラー・ユーザーが使用できる機能についても詳細に説明します。

## BigFix Remote Control サーバー・インターフェース

Remote Control サーバー UI には、さまざまな機能が備わっており、ユーザーやターゲットの作成および管理、リモート・コントロール・セッションの開始、レポートの実行、データのインポート、セッション・アクティビティの記録などを行うことができます。

このセクションで説明する機能を実行できるのは、ユーザー、スーパーユーザー、および管理者です。管理者が実行できる追加の機能について詳しくは、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。

## Remote Control サーバー・インターフェースへのアクセス

Remote Control サーバー・ソフトウェアのインストールが完了したら、ユーザー・インターフェースにログオンできます。サーバーのインストールおよび構成について詳しくは、BigFix® Remote Control インストール・ガイドを参照してください。

## Remote Control サーバーへのログオン

BigFix® Remote Control サーバー を使用するには、サーバー・ユーザー・インターフェースにログオンします。

1. Web ブラウザーで、以下を入力します。

`http://SERVERNAME/trc.`

`SERVERNAME`: BigFix® Remote Control サーバー の名前。名前が不明の場合は、Remote Control のシステム管理者にお問い合わせください。

2. 正しい ID およびパスワードを入力してください。

ID およびパスワードが無効の場合、または欠落している場合、エラー・メッセージが生成されます。

ユーザーが管理者であり、初めてログオンする場合、デフォルトの管理者 ID は `admin` で、パスワードは `password` です。初めてログオンした場合は、パスワードを変更する必要があります。

パスワード・ルールは、`trc.properties` ファイル内の `password` で始まる変数セット内で設定されます。パスワード・ルールについて詳しくは、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。

3. 「ログオン」をクリックします。

BigFix® Remote Control サーバー UI が表示されます。

## 一時ログオン・パスワードの取得

パスワードを忘れた場合、サーバー・ログオン画面で「パスワードを忘れたとき」オプションを使用します。

電子メールで一時パスワードがユーザーに送信されます。この機能は、システムにEメールがセットアップされて有効になっていると使用できます。電子メール機能は、インストール時に有効にすることも、`trc.properties` ファイルを編集して有効にすることもできます。詳しくは、「BigFix® Remote Control インストール・ガイド」および「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。



**注:** 電子メールと LDAP がどちらも有効になっている場合、「パスワードを忘れたとき」オプションは表示されません。

一時パスワードを入手するには、「**ログオン**」ウィンドウで以下のステップを実行します。

1. ID を入力します。
2. 「**パスワードを忘れたとき**」をクリックします。
3. 「**ログオン**」をクリックします。

メッセージが表示されます。ユーザー ID が既存のユーザーと一致する場合、新しいパスワードが登録されている E メール・アドレスに送信されました。

4. ID および一時パスワードを使用してログオンします。

パスワードを変更できる「**詳細を編集**」画面が表示されます。

5. 新しいパスワードを入力し、確認します。
6. 「**送信**」をクリックします。

新しいパスワードが保存されます。電子メールが有効の場合、「**ログオン**」ウィンドウのリンクを使用して、システム管理者に問い合わせることができます。

## Remote Control サーバーからのログオフ

Remote Control サーバー UI からログオフするには、「**サイン・アウト**」を選択します。**ウェルカム画面**が表示されます。

## ターゲット・メニューのオプション

Remote Control システムで、ターゲットとは、ターゲット・ソフトウェアをインストールするエンドポイントのことです。ターゲットが初めてインストールされると、ターゲットはサーバーに接続し、シリアル番号、モデル、製造メーカー、ログオン・ユーザーなどのターゲット詳細を送信します。この情報はデータベースに保管され、サーバー UI を介して使用できます。ターゲットは定期的に BigFix® Remote Control サーバー と連絡を取り、ターゲットのステータスや状態の変化について報告します。例えば、ユーザーのログオン時、リモート・コントロール・セッションの実行時、システムの電源投入またはシャットダウン時などです。ターゲット情報を扱うには、「**ターゲット**」メニューを使用します。例えば、特定のターゲットを検索したり、お気に入りのターゲットのリストを作成したり、リモート・コントロール・セッションを開始したりします。

## ブローカー・セッションの開始

直接アクセスできないターゲットとの間でインターネット経由でリモート・コントロール・セッションを開始するには、「**ターゲット**」メニューの「**ブローカー・セッションの開始**」オプションを使用します。ブローカー・セッションを開始し、ブローカーを使用して、コントローラーとターゲットの間の必要な接続を行います。ブローカー・セッションの開始について詳しくは、[ブローカーを使用したリモート・コントロール・セッションの開始](#)を参照してください。

## ブローカー・セッションへの参加

ブローカーを使用して開始され、コラボレーションが開始されたリモート・コントロール・セッションに参加するには、「**ターゲット**」メニューの「**ブローカー・セッションに参加**」オプションを使用します。このオプションを使用したブローカー・コラボレーション・セッションへの参加について詳しくは、[接続コードを使用したコラボレーション・セッションへの参加](#)を参照してください。

## ターゲットの参照

「**ターゲットをブラウズ**」アクションを使用して、特定のターゲットの定義済みターゲット・グループをブラウズします。「**ターゲットをブラウズ**」を選択すると、ターゲット・グループの拡張可能リストが表示されます。ターゲットのメンバーのリストを表示するには、ターゲット・グループを選択します。選択されたターゲット・グループのターゲットにアクセスする許可がユーザーにない場合は、いずれのターゲットも表示されません。ターゲットにアクセスする許可は、ユーザーとターゲットが属するグループ間で生成される許可リンクから生じます。詳しくは、『BigFix® Remote Control 管理者ガイド』を参照してください。

ターゲットをブラウズするには、以下のステップを実行します。

1. 「**ターゲット**」 > 「**ブラウズ**」をクリックします。
2. セレクター・ボタンをクリックして、ターゲット・グループのリストを表示します。
3. 必要なターゲット・グループを選択します。  
ユーザーが、選択されたグループのターゲット・メンバーにアクセスする許可を持っている場合は、選択可能なターゲットのリストが右方に表示されます。許可を持っていない場合は、いずれのターゲットも表示されません。
4. 必要なターゲットを選択し、セレクター・ボタンをクリックします。
5. 「**送信**」をクリックします。

ターゲットの詳細が表示されます。ターゲットが選択されている場合は、選択可能なアクションのリストが表示されます。これらのアクションについては、本書の他のセクションで説明されています。

「**キャンセル**」をクリックすると、前に表示されていた画面に戻ります。

## すべてのターゲットの表示

ターゲットが BigFix® Remote Control サーバー に登録済みである場合、「**すべてのターゲット**」アクションを使用して、これらのターゲットのリストを表示できます。

ターゲットのリストを表示するには、「**ターゲット**」「**すべてのターゲット**」をクリックします。

システム内で定義されているすべてのターゲットの詳細を示す「**すべてのターゲット**」画面が表示されます。

## ターゲットの検索

特定のターゲットにアクセスしたり、非特定情報を使用してターゲットを見つけたりするには、検索ユーティリティを使用します。ターゲットを検索するには、以下のステップを実行します。

1. 「**ターゲット**」 > 「**検索**」をクリックします。  
「検索」画面が表示されます。
2. 検索に使用するターゲット情報を入力します。  
この情報は、製造メーカー、モデル、シリアル番号、コンピューター名、ログオン・ユーザー名、または IP アドレスの全部または一部です。例えば、2327、te、se\* です。



**注:** 入力フィールドで許可される文字数またはワイルドカード文字は、trc.properties ファイルの **target.search.minimum.nonwildcards** プロパティおよび **target.search.maximum.wildcards** プロパティによって決定されます。詳しくは、BigFix® Remote Control 管理者ガイド を参照してください。

最も高速で検索するには、固有のターゲット情報を「ターゲットの検索」フィールドに入力します。例えば、シリアル番号またはコンピューター名を入力します。

3. 「**送信**」をクリックします。

入力画面をクリアしたり、前の値を復元したりするには、「**リセット**」をクリックします。

前に表示されていた画面に戻るには、「**キャンセル**」をクリックします。

すべてのターゲットのリストを表示するには、入力フィールドを空白のままにして、「**送信**」をクリックします。

検索条件に一致するすべてのターゲットが表示されます。入力された情報は、大/小文字が区別されません。例えば、「Test」は「test」にも一致します。一致するターゲットが見つからなかった場合、メッセージが表示され、ターゲット・リストは空白になります。

## お気に入りターゲット・リストの作成

定期的に同じターゲットにアクセスまたは接続する場合は、お気に入りターゲットのリストを作成することができます。「**お気に入りに追加**」アクションを使用して、1 つ以上のターゲットをリストに追加します。

お気に入りリストを作成するには、以下のステップを実行します。

1. 必要なターゲットを選択するための適切な方法を、以下から選択します。
  - 必要なターゲットを検索によって選択するには、[ターゲットの検索](#)のステップを実行し、次にステップ 2 に進みます。
  - 「すべてのターゲット」リストから選択するには、以下のようにします。
    - 「ターゲット」 > 「すべてのターゲット」をクリックします。
    - 必要なターゲットを選択します。
2. ターゲットを「お気に入り」に追加するための適切な方法を選択します。
  - 「ターゲット」 > 「お気に入りに追加」を選択します。
  - 左側のアクション・リストから「お気に入りに追加」を選択します。
3. 「お気に入り」画面が表示され、「お気に入り」リストに追加されたすべてのターゲットのリストが表示されます。

## お気に入りにターゲット・リストの表示

お気に入りにターゲット・リストを作成した後、ターゲット・メニューの「**お気に入り**」オプションを使用して、このリストを表示します。

お気に入りにリストを表示するには、「**ターゲット**」 > 「**お気に入り**」をクリックします。

「お気に入り」リストが表示されます。

## お気に入りからのターゲットの除去

お気に入りにリストからターゲットを除去するには、以下の手順を実行します。

1. 「**ターゲット**」 > 「**お気に入り**」をクリックします。  
「**お気に入り**」リストが表示されます。
2. 必要なターゲットを選択します。
3. 適切な方法を選択して「お気に入りから除去」を選択します。
  - 「**ターゲット**」 > 「**お気に入りから除去**」を選択します。
  - 左側のアクション・リストから「**お気に入りから除去**」を選択します。

リストからターゲットが除去されます。



**注:** 更新されたリストを表示するには、右上にある「**最新表示**」リンクをクリックします。

## 最近アクセスされたターゲットの表示

「**最近アクセスされたターゲット**」アクションを使用して、リモート・コントロール・セッションを行ったターゲットのリストを表示します。このリストの項目の最大数は、`common.properties` ファイルで設定されている変数 `limit.recently.accessed` によって決定されます。このファイルについて詳しくは、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。

最近アクセスされたターゲットのリストを表示するには、「**ターゲット**」 > 「**最近アクセスされたターゲット**」をクリックします。



「最近のターゲット」画面が表示されます。ターゲットの数によっては、ターゲットが複数ページに表示される場合があります。

## ターゲットのセッション履歴の表示

「セッション履歴」アクションを使用して、ターゲットに関する以前のセッションのリストを表示します。

特定のターゲットのセッション履歴を表示するには、以下の手順を実行します。

1. 必要なターゲットを選択するための適切な方法を、以下から選択します。
  - 必要なターゲットを検索によって選択するには、[ターゲットの検索](#)のステップを実行し、次にステップ 2 に進みます。
  - 「すべてのターゲット」リストから選択するには、以下のようにします。
    - 「ターゲット」 > 「すべてのターゲット」をクリックします。
    - 必要なターゲットを選択します。
2. 適切な方法を選択して、セッション履歴を選択します。
  - 「ターゲット」 > 「セッション履歴」を選択します。
  - 左側のアクション・リストから「セッション履歴」を選択します。

「セッション履歴」画面が表示され、ターゲットの以前のセッションがすべてリストされます。

## ターゲット状況の詳細表示

特定のターゲットに関する情報を表示するには、「ターゲット状況」アクションを使用します。例えば、インストールされているオペレーティング・システム、インストールされている Remote Control のターゲット・ソフトウェアのバージョン、ターゲットの IP アドレス、ターゲットのホスト名があります。

ターゲット状況の詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

1. 必要なターゲットを選択するための適切な方法を、以下から選択します。
  - 必要なターゲットを検索によって選択するには、[ターゲットの検索](#)のステップを実行し、次にステップ 2 に進みます。
  - 「すべてのターゲット」リストから選択するには、以下のようにします。
    - 「ターゲット」 > 「すべてのターゲット」をクリックします。
    - 必要なターゲットを選択します。
2. ターゲット状況を選択するための適切な方法を、以下から選択します。
  - 「ターゲット」 > 「ターゲット状況」を選択します。
  - 左側のアクション・リストから「ターゲット状況」を選択します。

ターゲットの詳細を示す「ターゲット状況」画面が表示されます。

前に表示されていた画面に戻るには、「キャンセル」をクリックします。

## ユーザーとターゲットの間で有効になるセッション・ポリシーの表示

「**有効なポリシーの表示**」アクションを使用して、選択されたユーザーとターゲットとの間のリモート・コントロール・セッションで有効となるポリシーおよび許可を表示します。ポリシーは、以下の形式で表示されます。

### 検討対象のポリシー

選択されたユーザーおよびターゲットが属するユーザー・グループおよびターゲット・グループに定義されたアクセス許可リンクをすべて表示します。これらのリンクのそれぞれから取得されたポリシーおよびアクセス許可もリストされます。これらのポリシーは、セッションに付与されるポリシーおよびアクセス許可の最終セットを決定するために使用されます。セッションのポリシーが取得される方法、ポリシーの定義、およびアクセス許可の定義について詳しくは、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。

### 解決済みポリシー

検討対象のポリシーの中から決定されたポリシーおよびアクセス許可の最終セットが表示されます。これらのポリシーは、選択されたユーザーとターゲットの間でリモート・コントロール・セッションが確立するときに割り当てられます。

有効なポリシーを表示するには、以下のステップを実行します。

1. 必要なターゲットを選択するための適切な方法を、以下から選択します。
  - 必要なターゲットを検索によって選択するには、[ターゲットの検索](#)のステップを実行し、次にステップ 2 に進みます。
  - 「すべてのターゲット」リストから選択するには、以下のようにします。
    - 「**ターゲット**」 > 「**すべてのターゲット**」をクリックします。
    - 必要なターゲットを選択します。
2. 有効なポリシーを表示するための適切な方法を、以下から選択します。
  - 「**ターゲット**」 > 「**有効なポリシーの表示**」を選択します。
  - 左側のアクション・リストから「**有効なポリシーの表示**」を選択します。

選択されたターゲットが示された「有効なポリシーを表示」画面が表示されます。
3. ユーザーを選択するには、「ユーザー」の隣にあるセレクトター・ボタンをクリックします。
4. ユーザー・グループを選択します。
5. ユーザーを選択してください。
6. 「**ユーザーを選択してください**」セレクトター・ボタンをクリックします。

検討対象のポリシーと決定済みのポリシーを示す、展開された「有効なポリシーを表示」画面が表示されます。決定済みのポリシーは、リモート・コントロール・セッション中、このユーザーとターゲットの間で有効になります。「**キャンセル**」をクリックすると、前に表示されていた画面に戻ります。

## リモート・コントロール・セッションの開始

「**セッションを開始**」アクションを使用してリモート・ターゲットに接続し、これを制御します。確立可能なリモート・コントロール・セッションのタイプについては、[確立可能なリモート・コントロール・セッションのタイプ](#)を参照してください。リモート・コントロール・セッションは、アクセス許可リンクが定義されているグループの

メンバーであるユーザーとターゲットの間で、サーバーから開始できます。メンバーの作成とユーザー・グループおよびターゲット・グループへのメンバーの割り当ての詳細、アクセス許可リンクの作成、リモート・コントロール・セッションのポリシーおよび許可の解決方法については、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。

「セッションを開始」アクションは、1 つ以上のターゲットを表示するレポートからターゲットを選択したときに使用できます。これらのレポートのいくつかの例を以下に示します。

### すべてのターゲット

『[すべてのターゲットの表示](#)』を参照してください。



**注:** このレポートには、ターゲットにログオンしているユーザーのユーザー ID も表示されます。

### 最近アクセスされたターゲット

『[最近アクセスされたターゲットの表示](#)』を参照してください。

### お気に入り

『[お気に入りターゲット・リストの表示](#)』を参照してください。

### ターゲットの検索

『[ターゲットの検索](#)』を参照してください。

サーバーからセッションを開始するのに必要な手順については、[サーバーからのリモート・コントロール・セッションの開始](#)を参照してください。

## ターゲットへの一時的アクセスの要求

Remote Control を使用して、アクセスする許可を持つターゲットにアクセスし、リモート・コントロール・セッションを確立することができます。アクセスのタイプは、ユーザーのグループ・メンバーシップと、これらのグループとターゲット・グループの間で設定されている関係によって決定されます。ただし、「**アクセス要求**」機能を使用することで、アクセス権限を持たない 1 つ以上のターゲットへの一時的アクセスを要求することもできます。この機能を使用して、必要なターゲットを選択し、確立するリモート・コントロール・セッションのタイプを定義し、一時的アクセスの期間を定義します。要求を送信すると、管理者に通知が送信されます。要求が回答されると、要求の結果が詳細に記載された E メールがユーザーに送信されます。



**注:** BigFix® Remote Control サーバー の E メール機能を有効にして、通知プロセスを実行できるようにする必要があります。E メールを有効にする方法について詳しくは、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。

以下のような理由の場合に、ターゲットへの一時的アクセスを要求できます。

- 1 つまたは複数のターゲットに問題があるという通知をユーザーが受けたが、それらはそのユーザーがアクセスする許可を持つターゲット・グループのメンバーではないため、問題を解決するために接続を確立する必要がある。
- これらのターゲットにアクセスする許可が、有効期限切れとなっているか、セッションに必要な操作の実行を許可していない。
- BigFix® Remote Control サーバー の登録済みユーザーではない。

アクセス要求を行うには、以下の情報を指定する必要があります。

### セッション・タイプ

選択されたターゲットとの間で確立するセッション・タイプを入力します。

### 理由

選択されたターゲットへのアクセスを要求する理由を入力します。



**注:** セッションで有効にしたいポリシーを追加する必要があります。特に、ターゲットにアクセスする許可を既に持っているが、これらの許可を一時的セッション用に変更することが必要な場合があります。変更しない場合、セッションでは既存のポリシーが有効になります。

例: ターゲットのレジストリ・キーへのアクセスまたは表示が許可されていないユーザーが、一時的セッションのためにこれらを実行する必要があるとします。レジストリー・キーにアクセスしなければならない理由を入力して、管理者が一時的セッション用のレジストリー・キー・ポリシーを使用可能にできるようにしてください。

### 開始日

日付を **yyyy-mm-dd** 形式で入力するか、カレンダーから選択します。これはアクセスを開始する日付です。

### 開始時刻

時刻を **hh:mm:ss** 形式で入力します。これはアクセスを開始する時刻です。

### 終了日

日付を **yyyy-mm-dd** 形式で入力するか、カレンダーから選択します。これはアクセスを終了する日付です。

### 終了時刻

時刻を **hh:mm:ss** 形式で入力します。これはアクセスを終了する時刻です。

### 電子メール・アドレス

必須。E メール・アドレスを入力します。このアドレスは、管理者が要求に応答するときに使用します。

## 登録済みユーザーとしての要求の実行

BigFix® Remote Control サーバー に既に登録されているユーザーは、以下の方法でターゲットへの一時的アクセスを要求できます。

- 「**ターゲット**」メニューの「**アクセス要求**」オプションを使用します。
- セッション開始時に「**アクセス要求**」ボタンをクリックします。

ユーザーの要求は、選択されたターゲットへの一時的アクセスを許可するかどうかを決定する管理者に送信されます。要求の結果を通知する E メールがユーザーに返されます。要求が認可された場合、ユーザーは指定された日時の間、選択されたターゲットにアクセスできます。要求が拒否された場合、選択されたターゲットにアクセスできません。

## 要求アクセス・オプションの使用

1 つ以上のターゲットに対する一時的アクセスを要求するには、以下の手順を実行します。

1. 「**ターゲット**」 > 「**すべてのターゲット**」をクリックします。
  2. 1 つ以上の**ターゲット**を選択します。
  3. 「**アクセス要求**」を選択するための適切な方法を、以下から選択します。
    - 「**ターゲット**」 「**アクセス要求**」を選択します。
    - 左側のアクション・リストから「**アクセス要求**」を選択します。
- 「**ターゲットへのアクセス要求**」画面が表示されます。
4. アクセス要求に必要な情報を入力します。  
詳しくは、『[ターゲットへの一時的アクセスの要求](#)』を参照してください。
  5. 「**送信**」をクリックします。

ユーザーの要求は、選択されたターゲットへの一時的アクセスを許可するかどうかを決定する管理者に送信されます。要求の結果を通知する E メールがユーザーに返されます。要求が認可された場合、ユーザーは指定された日時の間、選択されたターゲットにアクセスできます。要求が拒否された場合、選択されたターゲットにアクセスできません。

## セッション開始時における一時的アクセスの要求

アクセスする許可を持っていないターゲットとの間でリモート・コントロール・セッションを開始するには、「新規セッションを作成」画面の「アクセス要求」オプションを使用します。このオプションは、`trc.ticket.allow.access` プロパティが使用可能になっている場合にのみ選択できます。このプロパティは、管理者によって `trc.properties` ファイル内に設定されます。プロパティ・ファイルの編集について詳しくは、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。



**注:** プロパティが使用可能になっていない場合、アクセス要求のオプションは表示されません。

ターゲットへの一時的アクセスを「**新規セッションを作成**」画面から要求するには、以下の手順を実行します。

1. ターゲットを選択します。
2. 「セッションを開始」をクリックします。
3. 「新規セッションを作成」画面で「アクセス要求」をクリックします。
4. アクセス要求に必要な情報を入力します。  
詳しくは、『[ターゲットへの一時的アクセスの要求](#)』を参照してください。
5. 「送信」をクリックします。

ユーザーの要求は、選択されたターゲットへの一時的アクセスを許可するかどうかを決定する管理者に送信されます。要求の結果を通知する E メールがユーザーに返されます。要求が認可された場合、ユーザーは指定された日時の間、選択されたターゲットにアクセスできます。要求が拒否された場合、選択されたターゲットにアクセスできません。

## BigFix® Remote Control サーバー の登録されていないユーザーとしてのターゲットへのアクセスの要求

BigFix® Remote Control サーバー に登録されたユーザーではない場合は、ターゲットへの一時アクセスを要求することができます。BigFix® Remote Control サーバー アプリケーションを使用しないが、特定のターゲット上でソフトウェアを更新するためにアクセスが必要であるか、またはターゲット上の問題をデバッグする必要がある場合に、この手順を使用します。このオプションを使用できるかどうかは、`trc.properties` ファイルで設定されている `trc.ticket.allow.allaccess` プロパティによって決まります。プロパティ・ファイルの編集について詳しくは、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。

1 つ以上のターゲットに対する一時的アクセスを要求するには、以下の手順を実行します。

1. 以下の URL を、ご使用のブラウザで入力します。

```
http://servername/trc/requestAccessAnon.do
```

ここで、`servername` は BigFix® Remote Control サーバー のアドレスです。

2. アクセス要求に必要な情報を入力します。  
詳しくは、『[ターゲットへの一時的アクセスの要求](#)』を参照してください。
3. 「送信」をクリックします。



**注:** 要求にアクセスする管理者が選択すべきターゲットを判断できるようにするため、必要なターゲットの詳細を「管理 Notes®」フィールドに入力してください。

「送信」をクリックすると、要求を含む E メールが管理者に送信されます。要求の結果の詳細を示す E メールが返送されます。要求が認可された場合は、E メール内のリンクをクリックして「新規セッションを作成」画面に移動します。その画面から、指定された日時の範囲内で、選択されたターゲットとのセッションを開始できます。要求が拒否された場合は、選択されたターゲットへのアクセスは許可されません。

## 一時的アクセスの要求の表示

ターゲットへの一時的アクセスの要求を送信した後、「**ユーザーの要求**」オプションを使用して、これらの要求のリストを表示できます。

送信した要求を表示するには、「**レポート**」>「**マイ・アクセス要求**」をクリックします。

送信したすべてのアクセス要求を示す「**ユーザーの要求 (My Requests)**」リストが表示されます。

## 「ユーザー」メニューで使用可能なオプション

BigFix® Remote Control サーバー プログラムは、以下のユーザー権限タイプに対応します。ユーザー、スーパーユーザー、および管理者があります。最も広範な特権を持つ管理者の各ユーザー・アカウントを使用すると、さまざまな BigFix® Remote Control サーバー 機能を実行できます。「**ユーザー**」メニュー内のオプションの一部は、管理者権限を持つユーザーのみが使用可能です。管理者のみが実行できるユーザー・オプションについては、「*BigFix® Remote Control 管理者ガイド*」を参照してください。

## ユーザーの詳細の表示

「**詳細**」オプションを使用して、自分自身のユーザーの詳細を表示および更新します。

自分のユーザーの詳細を表示するには、以下のステップを実行します。

1. 「**ユーザー**」>「**詳細**」をクリックします。

「**詳細を変更**」画面が表示されます。



**注:** LDAP 同期が有効になっている場合、警告メッセージが表示され、変更または追加は次の同期で失われる可能性があることが示されます。

2. 関連のある詳細を変更または更新します。

以下のアイテムに注意してください。

- a. **user ID** フィールドを変更することはできません。
- b. 管理者ユーザーである場合は、定義されているユーザー・グループのリストも表示されます。自分がメンバーになっているグループを選択またはクリアすることができます。
- c. LDAP 認証が有効になっている場合、「**自分のパスワードの変更**」オプションは使用できません。

パスワードを変更するには、「**自分のパスワードの変更**」をクリックします。詳しくは、『[パスワードの変更](#)』を参照してください。

3. 「**送信**」をクリックします。

修正されたユーザーの詳細が保存されます。

## パスワードの変更

Remote Control サーバー UI にログオンすることにより、ご使用のパスワードを変更することができます。



パスワードを変更するには、現在のパスワードも入力する必要があります。パスワードを変更するには、以下のステップを実行します。



**注:** LDAP 認証が有効になっている場合、「**自分のパスワードの変更**」オプションは使用できません。

1. 「**ユーザー**」 > 「**自分のパスワードの変更**」をクリックします。
2. 現在のパスワードおよび新規パスワードを入力し、再度、新規パスワードを入力します。
3. 「**送信**」をクリックします。

入力した現在のパスワードがデータベースに保存されたパスワードと一致する場合は、新規パスワードが保存されます。一致しない場合は、エラーが表示され、現在のパスワードを再入力する必要があります。新規パスワードは、ご使用の環境で定義されているパスワードの規定に従っている必要があります。そうでない場合は、エラーが表示されます。

## 属するユーザー・グループのリストの表示

自分がメンバーになっているユーザー・グループのリストを表示するには、「**マイ・グループ**」オプションを使用します。

グループのリストを表示するには、「**ユーザー**」 > 「**マイ・グループ**」をクリックします。

「**選択されたユーザー・グループ**」画面が表示され、ユーザー・グループのリストが示されます。

## セッション・メニューのオプション

### セッション履歴の表示

「**ユーザーのセッション履歴**」オプションを使用して、ターゲットとの間でこれまでに確立したすべてのセッションのリストを表示します。

自分のセッション履歴リストを表示するには、「**セッション**」 > 「**ユーザーのセッション履歴**」をクリックします。

「**ユーザーのセッション履歴**」画面が表示されます。

### 特定のセッションの検索

セッションの検索ユーティリティを使用することによって、以前に確立された特定のセッションを検索したり、特定の検索条件または非特定の検索条件を使用してセッションを見つけたりすることができます。

セッションを検索するには、以下のステップを実行します。

1. 「**セッション**」 > 「**検索**」をクリックします。  
「セッションの検索」画面が表示されます。
2. セッション検索情報を入力します。



セッションに接続されたターゲットに関する情報を入力します。

。セッションを検索するには、以下のターゲット情報の全部または一部を使用します。

- 製造メーカー
- モデル
- シリアル番号
- コンピューター名



**注:** 入力された情報は、大/小文字が区別されません。

3. 「送信」をクリックします。

- セッション情報内に、一致するターゲットが見つかった場合、これらのターゲットについてのセッション詳細が表示されます。
- 一致するターゲットが見つからなかった場合、メッセージが表示され、セッション・リストは空白になります。

## セッションの詳細の表示

「セッション詳細」アクションは、ターゲットが「ユーザーのセッション履歴」レポートまたは「セッションの検索」レポートから選択される場合に使用できます。コントローラー・システムの詳細、セッションに対して設定されたポリシーおよび値、およびコントローラーとターゲットの両方についてのすべての監査ログ項目が表示されます。

特定のセッションのセッション詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

1. 「セッション」をクリックします。
2. 「ユーザーのセッション履歴」、「すべてのセッション履歴」、または「検索」のいずれかを選択します。  
「検索」を選択する場合は、「[セッションの検索](#)」の手順に従ってレポートを生成してください。
3. リストからターゲットを選択します。
4. 適切な方法を選択して「セッション詳細」を選択します。
  - 。 「セッション」 > 「セッション詳細」を選択します。
  - 。 左側のアクション・リストから「セッション詳細」を選択します。

リモート・コントロール・セッション情報画面が表示され、コントローラー・システムの詳細と、セッションに適用されたポリシーおよび許可が表示されます。セッションの「セッション監査を強制 (Force Session Audit)」ポリシーが「はい」に設定されている場合、コントローラーおよびターゲットについて保存されているすべての監査項目も表示されます。「セッション記録を強制」ポリシーが「はい」に設定されている場合は、セッションの記録を再生するためのリンクも表示されます。ポリシーおよび許可の設定について詳しくは、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。

## 「セッション詳細」 ページからの記録の再生

特定のリモート・コントロール・セッションのセッション詳細ページの表示中に、「**このセッションの記録を再生します**」リンクを使用すると、セッションの記録を表示することができます。



**注:** このリンクは、セッションで「**セッション記録を強制**」ポリシーが「はい」に設定されている場合にのみ使用できます。

記録を再生するには、以下のステップを実行します。

「セッション詳細」画面で、「**このセッションの記録を再生します**」をクリックします。

「セッションのレコード・プレイヤー」ウィンドウが開き、記録の再生が始まります。

再生時に使用可能なボタンおよび機能は次のとおりです。

#### 一時停止

記録の再生を一時停止します。

#### 停止

記録を停止し、再生ウィンドウをクリアします。

#### 自動スクロール表示を使用可

再生ウィンドウの各端にマウスを移動することにより、上下左右にスクロールします。

#### 拡大縮小表示を使用可

記録のウィンドウが再生ウィンドウの内側に完全に収まるように記録の表示を縮小します。

## レポート・メニューのオプション

レポートを作成または実行するには「**レポート・メニュー**」を使用します。表示されるメニュー項目は、ログオンしているユーザーの権限によって決定されます。このセクションでは、ユーザー権限を持つユーザーが使用できるオプションについて説明します。スーパーユーザーおよび管理者の権限には、より多くのオプションがあります。これらのオプションについては「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」で説明されています。

ユーザーに対する「レポート」メニューには、ユーザーが実行アクセス権限をもつすべての標準およびカスタムのレポートが示されます。



**注:** どのカスタム・レポートにもアクセスできない場合、「レポート」メニューには何も項目が示されません。

## 標準レポートの実行

BigFix® Remote Control サーバー には、ユーザー、ターゲット、およびグループに関する情報を提供するいくつかの標準レポートが用意されています。

標準レポートを実行するには、次のステップを完了します。

1. 「レポート」 > 「標準レポート」をクリックします。
2. 必要な標準レポート名をクリックします。

標準レポートの出力が画面に表示されます。

## カスタム・レポートの実行

カスタム・レポートは、スーパーユーザーまたはアドミニストレーターによって作成されます。カスタム照会を保存するときに、このレポートを実行する権限を持つグループ (複数可) を選択することができます。選択されたグループのすべてのメンバーに対して表示されるレポート・メニューに、カスタム・レポート項目が組み込まれます。この項目を選択すると、使用可能なカスタム・レポート・メニューとそれらに対応するレポートのリストが表示されます。カスタム・レポートの作成について詳しくは、BigFix® Remote Control 管理者ガイドを参照してください。

カスタム・レポートを実行するには、次のステップを完了します。

1. 「レポート」 > 「カスタム・レポート」をクリックします。
2. カスタム・レポートが属するメニュー項目をクリックします。
3. 必要なカスタム・レポート名をクリックします。

カスタム・レポートの出力が画面に表示されます。

## オプション・メニュー

「オプション」メニューを使用して、レポートに対するアクションを実行します。スーパーユーザーおよび管理者ユーザーのみが使用できる追加的なオプションについては、BigFix® Remote Control 管理者ガイドを参照してください。「オプション」メニューを使用して、自分のホーム・ページを設定したり、ページの表示オプションを選択したり、他のアプリケーションへの出力のためにデータのフォーマットを設定したりすることができます。



**注:** レポート・フォーマットではない画面 (例えば、検索画面や入力画面など) では、「オプション」メニューはメニュー・バーには表示されません。

「オプション」メニューで作業するには、「オプション」をクリックし、以下の選択項目から選択します。

- 現行のレポートをホーム・ページとして設定
- デフォルト・ホーム・ページ・レポートにリセット
- 結果を最新表示
- ページ・オプション
- 出力

## ホームページの設定

このオプションを使用して、現在表示されているレポートをホーム・ページに設定します。これは BigFix® Remote Control サーバー ユーザー・インターフェースにログインしたときに表示される初期画面です。

デフォルト・ホーム・ページを設定するには、以下の手順を実行します。

1. BigFix® Remote Control サーバー のいずれかのメニューから標準レポートを実行して必要なレポートを生成するか、カスタム・レポート・メニューからアクセスできるカスタム・レポートを実行します。
2. 「オプション」 > 「現行のレポートをホーム・ページとして設定」をクリックします。

例えば、お気に入りレポートをユーザーのホーム・ページにするには、次のようにします。

- a. 「ターゲット」 > 「お気に入り」をクリックします。
- b. 「オプション」 > 「現行のレポートをホーム・ページとして設定」をクリックします。

BigFix® Remote Control サーバー に次回ログオンするときには、「お気に入り」レポートが初期画面として表示されます。

## ホームページのリセット

BigFix® Remote Control サーバー のデフォルト・ホーム・ページは、trc.properties ファイルの **default.query** プロパティによって定義されます。このプロパティは、設定されているデフォルト・ホーム・ページが**他にない場合**に、ユーザーがアプリケーションにログオンしたときに表示される最初のページを決定するために使用されます。プロパティ・ファイルの編集について詳しくは、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。以前に「**現行のレポートをホーム・ページとして設定**」オプションを選択してホーム・ページを別のページに設定した場合、「**デフォルト・ホーム・ページ・レポートにリセット**」を選択することでデフォルト・ホーム・ページに戻すことができます。



**注:** 次回ログオンしたときに最初に表示されるページは、**default.query** に設定された値か、ユーザーがメンバーであるグループに対して設定されているデフォルト・ホーム・ページのいずれかによって決定されます。ホーム・ページが決定される方法について詳しくは、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。

デフォルト・ホーム・ページをリセットするには、「オプション」 > 「デフォルト・ホーム・ページ・レポートにリセット」をクリックします。

**例 1:** 「すべてのターゲット」レポートがデフォルト・ホーム・ページとして定義されていて、ユーザーが「お気に入り」レポートをホーム・ページとして選択したとします。ユーザーが属しているいずれのグループにもデフォルト・ホーム・ページが設定されておらず、ユーザーが「**デフォルト・ホーム・ページ・レポートにリセット**」を選択した場合、ログオフしてログオンすると、最初に表示されるページは「すべてのターゲット」レポートです。

**例 2:** ユーザーはユーザー・グループ testtargets のメンバーであって、そのグループにはデフォルト・ホーム・ページ「**targets manufactured by companyX**」が設定されています。「**デフォルト・ホーム・ページ・レポートにリセット**」を選択し、ログオフして再びログオンすると、最初に表示されるページは「targets manufactured by companyX」です。

## 画面に表示されているデータの更新

BigFix® Remote Control サーバー でレポートが生成されると常に、必要なデータを取り出して画面に表示するための照会が、データベースに対して実行されます。このデータは、次に同じレポートが実行されるための一時的なクエリに保持されており、データが画面に表示されるまでの時間が短縮されるようになっています。最新の

データ (レポート・データが前回表示された後に実行されたすべての更新を含む) が画面に表示されるようにするには、「オプション」>「結果を最新表示」をクリックします。実行された変更または更新によってレポートが更新されます。



**注:** 右上の「更新」リンクも同じ目的で使用できます。

## ページの表示オプションの設定

このオプションを使用して、画面上に表示される出力の行数を選択します (特に、表示されるレポートのサイズが大きい場合)。表示する 1 ページ当たりの行数をリストから選択します。

## さまざまな形式でのデータのエクスポート

「出力」メニュー内のオプションを使用して、レポート・データをさまざまな形式にエクスポートします。データを保存、E メール送信、および印刷することができます。

レポート・データをエクスポートするには、以下のステップを実行します。

「オプション」>「出力」をクリックし、以下のオプションのいずれか 1 つを選択します。

### CSV ファイル (UTF-8)

現在表示されているレポートからのデータを含む、**UTF-8** エンコードを使用したコンマ区切り値ファイルを生成します。

ファイルのダウンロード・ウィンドウで、以下のオプションのいずれか 1 つを選択します。

- 「開く」をクリックして、レポートを csv 形式で開きます。
- 「保存」をクリックして、レポート・データを **.csv** ファイルとして保存します。

### CSV ファイル (UTF-16LE)

現在表示されているレポートからのデータを含む、**UTF-16LE** エンコードを使用した csv ファイルを生成します。

ファイルを作成および保存するには、CSV ファイル (UTF-8) の説明に示された指示に従います。

### TSV ファイル (UTF-8)

現在表示されているレポートからのデータを含む、**UTF-8** エンコードを使用したタブ区切り値ファイルを生成します。

ファイルのダウンロード・ウィンドウで、以下のオプションのいずれか 1 つを選択します。

- 「開く」をクリックして、レポートを tsv 形式で開きます。
- 「保存」をクリックして、ファイルを **.tsv** ファイルとして保存します。

### TSV ファイル (UTF-16LE)

現在表示されているレポートからのデータを含む、**UTF-16LE** エンコードを使用した tsv ファイルを生成します。

ファイルを作成および保存するには、TSV ファイル (UTF-8) の説明に示された指示に従います。

### E メール・レポート

現在表示されているレポートを csv ファイルとして E メールで送信します。

- a. 必要なレポートを生成します。
- b. 「オプション」 > 「出力」 > 「E メール・レポート」をクリックします。「E メール・レポート」画面が表示されます。
- c. **Eメールの宛先**: 受信側の E メール・アドレスを入力します。
- d. **Eメールの内容**: Eメールの内容を入力します。
- e. **[送信]** をクリックします。

現行レポートが、E メールに csv ファイルとして添付され、受信側の E メール・アドレスに送信されます。



**注:** このオプションを機能させるには、E メールを使用可能に設定する必要があります。E メールが使用可能ではない場合、メッセージが表示されます。

### 印刷可能レポート

印刷を容易にするために、メニューがない、別のブラウザー・ウィンドウに現行レポートを表示します。

- a. 必要なレポートを生成します。
- b. 「オプション」 > 「出力」 > 「印刷可能レポート」をクリックします。表示されるレポートを含んだ新規ウィンドウが開きます。
- c. レポートを印刷するには、アクション・バーの「ファイル」メニューから「印刷」を選択します。

## ツール・メニューのオプション

ツール・メニューには、ダウンロードおよびインストールが可能なユーティリティのセットが用意されています。これらには、ターゲット、コントローラー、コマンド・ライン・インターフェースの各コンポーネント、およびセッションの記録を再生するために使用するユーティリティなどがあります。管理者が使用できる追加のオプションについては、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。

### BigFix® Remote Control サーバー からのツールのダウンロード

「**ダウンロード**」オプションを使用して、さまざまな Remote Control コンポーネントをインストールするために必要なファイルを取得します。セッションの記録を再生するために使用されるプレイヤーをダウンロードまたは実行したり、ターゲット・コンポーネント、コントローラー・コンポーネント、およびコマンド・ライン・インターフェース・コンポーネント用のインストール・ファイルをダウンロードしたりすることができます。

## Remote Control セッション・プレイヤーの開始

Remote Control セッション・プレイヤーを使用すると、作成されて自分のシステムにローカルに保存されたセッションの記録を再生することができます。

Java™ Web Start を使用してセッション・プレイヤーを開始するには、以下のステップを実行します。

1. 「ツール」 > 「ダウンロード」をクリックします。  
ダウンロード用に選択可能な項目を示す「ダウンロード」ページが表示されます。
2. 「Remote Control プレイヤーの起動」をクリックします。
3. ファイルのダウンロード・ウィンドウで、「実行」または「保存」を選択します  
(TRCPlayer.jnlp ファイルに対して)。ローカル記録の再生について詳しくは、[記録についてのセクション](#)を参照してください。

## セッション・プレイヤーのダウンロード

セッション・プレイヤーを使用して、自分のシステム上にローカルに保存されたセッションの記録を再生します。セッションの記録の詳細については、「[セッションのローカル記録](#)」を参照してください。セッション・プレイヤーをダウンロードするには、以下のステップを実行します。

1. 「ツール」 > 「ダウンロード」をクリックします。
2. 「Remote Control プレイヤーのダウンロード」をクリックします。
3. ファイルを必要なロケーションに保存します。



**注:** 一部のブラウザーは、このファイルを .zip ファイルとして保管します。TRCPlayer.zip ファイルの名前を TRCPlayer.jar に変更します。

---

### 関連情報

[ローカル記録の再生](#)

## サーバーからのコンポーネント・ソフトウェアのダウンロード

「エージェント・ダウンロード」機能を使用して、ターゲット・ソフトウェア、コントローラー・ソフトウェア、またはコマンド・ライン・ソフトウェアのインストール用のファイルをダウンロードします。この機能を選択すると、ダウンロード可能な項目をリストするエージェント・ダウンロード・ウィンドウが表示されます。

## Windows™ ターゲット・ソフトウェアのダウンロード

「エージェント・ダウンロード」オプションを使用して、Windows™ ターゲット・ソフトウェアをインストールするために必要なファイルを実行または保存します。

1. 「ツール」 > 「ダウンロード」をクリックします。
2. 「エージェント・ダウンロード」をクリックします。
3. **trc\_setup\_target.exe** を選択します。
4. ファイルのダウンロード・ウィンドウで、「実行」または「保存」を選択します。  
ターゲット・ソフトウェアが既にインストールされている場合は、アップグレードのプロンプトが表示されます。インストールを続行するには「はい」をクリックします。ターゲット・ソフトウェアのインストールについて詳しくは、「BigFix® Remote Control インストール・ガイド」を参照してください。

## Linux™ ターゲット・ソフトウェアのダウンロード

「エージェント・ダウンロード」を使用して、Linux™ ターゲット・ソフトウェアをインストールするために必要なファイルを実行または保存します。

1. 「ツール」 > 「ダウンロード」をクリックします。
2. 「エージェント・ダウンロード」をクリックします。
3. **trc-target-10.x.x.i386.rpm** を選択します。  
ここで、10.x.x はインストールするバージョンです。
4. 「保存」をクリックします。  
Linux™ ターゲット・ソフトウェアのインストールについて詳しくは、「BigFix® Remote Control インストール・ガイド」を参照してください。

## Windows™ コントローラー・ソフトウェアのダウンロード

「エージェント・ダウンロード」オプションを使用して、Windows™ コントローラー・ソフトウェアをインストールするために必要なファイルを実行または保存します。

1. 「ツール」 > 「ダウンロード」をクリックします。
2. 「エージェント・ダウンロード」をクリックします。
3. **trc\_controller\_setup.exe** を選択します。
4. 「実行」または「保存」を選択します。

### 実行

コントローラー・ソフトウェアのインストールを開始します。

- a. ウェルカム・パネルで「次へ」をクリックします。
- b. 使用許諾契約に同意し、「次へ」をクリックします。
- c. インストール・ファイルの場所を受け入れるか変更し、「次へ」をクリックします。
- d. 「インストール」をクリックします。
- e. 「終了」をクリックします。



**注:** コントローラー・ソフトウェアが既にインストールされている場合は、修復オプションまたは削除オプションが使用可能です。

### 保存



`trc_controller_setup.exe` ファイルを選択した場所に保存します。



**注:** 実行可能ファイルを実行して、コントローラー・ソフトウェアをインストールします。

## Linux™ コントローラー・ソフトウェアのダウンロード

「エージェント・ダウンロード」オプションを使用して、Linux™ コントローラー・ソフトウェアをインストールするために必要なファイルを実行または保存します。

1. 「ツール」 > 「ダウンロード」をクリックします。
2. 「エージェント・ダウンロード」をクリックします。
3. `trc-controller-10.x.x.noarch.rpm` を選択します。  
ここで、`10.x.x` はインストールするバージョンです。
4. 「保存」を選択して、rpm ファイルを保存します。
5. 以下のコマンドを使用して、コントローラー・ソフトウェアをインストールします。  
ここで、`10.x.x` はインストールするバージョンです。

```
$ rpm -ivh /PATH/trc-controller-10.x.x.noarch.rpm
```

ここで PATH は、rpm ファイルを保存したロケーションへのパスです。

## Windows™ コマンド・ライン・ファイルのダウンロード

「エージェント・ダウンロード」オプションを使用して、Windows™ コマンド・ライン・ソフトウェアをインストールするために必要なファイルを実行または保存します。

1. 「ツール」 > 「ダウンロード」をクリックします。
2. 「エージェント・ダウンロード」をクリックします。
3. `trc_cli_setup.exe` を選択します。
4. 「実行」または「保存」を選択します。

### 実行

コマンド・ライン・ソフトウェアのインストールを開始するには、「実行」を選択します。

- a. ウェルカム・ペインで「次へ」をクリックします。
- b. 使用許諾契約に同意し、「次へ」をクリックします。
- c. インストール・ファイルの場所を受け入れるか変更し、「次へ」をクリックします。
- d. 「サーバーのアドレス」ペインで該当する情報を入力し、「次へ」をクリックします。

### サーバーホスト名。

BigFix® Remote Control サーバー の IP アドレスまたはサーバー名を入力します。

### サーバー・ポート

サーバーが listen するポート番号を入力します。

#### セキュア接続 (https) を使用

サーバーへの接続にセキュア接続を使用するには、https を選択します。

#### サーバー・コンテキスト

サーバー・コンテキストの値を入力します。例: trc

#### FIPS 認定の暗号プロバイダーの使用

FIPS 準拠ツールをインストールする場合に選択します。

#### NIST SP800-131A 準拠性を使用可能にする (FIPS を使用可能にする) (Enable NIST SP800-131A compliance (Enables FIPS))

NIST SP800-131A 準拠ツールをインストールする場合に選択します。

#### 詳細設定

コンテキストおよびサーバーのポート番号を設定する場合にクリックします。

- e. 「**プロキシ設定**」 ペインで関連情報を入力します。
  - プロキシ・サーバーまたはリモート・コントロール・ゲートウェイを使用していない場合は、「**次へ**」をクリックします。
  - プロキシを使用している場合は、「**プロキシ・サーバーまたは Remote Control ゲートウェイを使用します**」を選択します。該当する情報を入力します。
    - プロキシ・サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。
    - プロキシ・サーバーが listen しているポートを入力します。
    - 「**HTTP プロキシを使用します**」または「**Remote Control ゲートウェイを使用します**」を選択します。
    - 「**プロキシは認証が必要です**」を選択し、プロキシ・サーバーに対する認証のためのユーザー ID およびパスワードを入力します。
    - 「**次へ**」をクリックします。
- f. デフォルトのポートを受け入れるか、または該当する値を入力し、「**次へ**」をクリックします。
- g. 「**インストール**」をクリックします。
- h. 「**終了**」をクリックします。

#### 保存

「**保存**」を選択して、trc\_cli\_setup.exe ファイルを特定の場所に保存します。



**注:** 実行可能ファイルを実行して、コマンド・ライン・ソフトウェアをインストールします。

以下の実行可能ファイルが、選択されたディレクトリー内にあります。

- `wrc.exe`
- `wrcmdpcr.exe`

ツールの使用について詳しくは、[コマンド・ラインからのリモート・コントロール・コマンドの使用](#)を参照してください。

## Linux™ コマンド・ライン・ファイルのダウンロード

「エージェント・ダウンロード」オプションを使用して、Linux™ コマンド・ライン・ソフトウェアをインストールするために必要なファイルを実行または保存します。

1. 「ツール」 > 「ダウンロード」をクリックします。
2. 「エージェント・ダウンロード」をクリックします。
3. `trc-cli-10.x.x.i386.rpm` を選択します。  
ここで、`10.x.x` はインストールするバージョンです。
4. 「保存」を選択して、必要なロケーションに rpm ファイルを保存します。
5. 以下のコマンドを使用して、コマンド・ライン・ソフトウェアをインストールします。

```
$ rpm -ivh /PATH/trc-cli-10.x.x.i386.rpm
```

ここで、PATH は rpm ファイルを保存したロケーションへのパスであり、`9.x.x` はインストールするバージョンです。

6. インストールが完了したら、`/etc/trc_target.properties` ファイルを編集し、構成を設定します。
  - **ServerURL** の値を、ご使用の BigFix® Remote Control サーバー のホスト名または IP アドレスに設定します。
  - FIPS-compliance 準拠の場合は、**FIPSCompliance** の値を Yes に設定します。
  - NIST SP800-131a 準拠の場合、`SP800131ACompliance` の値を yes に設定します。
7. ファイルを保存します。



**注:** ターゲット・ソフトウェアがインストールされていないコンピューターにこの CLI ツールをインストールする場合は、ターゲット・ソフトウェアをインストールする前に CLI ツールをアンインストールする必要があります。以下のコマンドを使用して、CLI ツールを削除します。

```
$ rpm -e trc-cli
```

## ヘルプの使用

「ヘルプ」メニューを使用して、インストールされている BigFix® Remote Control サーバー のバージョンを参照したり、オンライン資料にアクセスしたりします。

### オンライン資料 (Online Documentation)

Remote Control インフォメーション・センターで、最新の資料を参照することができます。

### Remote Control について

現在インストールされているサーバー・ソフトウェアのバージョン番号を表示します。

## リモート・コントロール・セッション

リモート・コントロール・セッションを使用すると、環境内のコンピューターと接続を確立して、コンピューターをリモートで監視したりアクティブに制御したりすることができます。セッションでは、コントローラー・ユーザーのキーボードおよびマウスが、リモート・システムのプライマリー・キーボードおよびマウスになります。リモート・コントロール・セッションで使用できるオプションには、チャット、ガイダンス、リブート、ファイル転送などの機能があります。

リモート・コントロール・セッションのモードは、以下の 6 つです。

- アクティブ
- チャットのみ
- ガイダンス
- モニター
- ファイル転送
- 再起動

セッション・タイプの詳細については、[確立可能なリモート・コントロール・セッションのタイプ](#)を参照してください。

リモート・コントロール・セッションの確立方法には、以下の 4 つがあります。

### Remote Control サーバーから

コントローラー・ユーザーが Remote Control サーバーから開始するリモート・コントロール・セッション。コントローラー・コンポーネントが開始され、ターゲットに接続して、セッション要求を送信します。ターゲットはサーバーと接続して要求を認証し、セッションのポリシーおよび許可を取得します。管理対象リモート・コントロール・セッションのポリシーおよびアクセス許可について詳しくは、「*BigFix® Remote Control 管理者ガイド*」を参照してください。ターゲットがサーバーに到達できない場合は、セッションが拒否されます。

### P2P モード

コントローラーとターゲットの間に直接確立されるリモート・コントロール・セッション。コントローラー・ユーザーはコントローラー・コンポーネントをローカルで開始し、リモートで制御するターゲットを指定します。セッションには、ターゲットで設定されているローカル・プロパティが使用されます。ターゲット・プロパティについて詳しくは、「*BigFix® Remote Control 管理者ガイド*」を参照してください。

### ブローカー・コンポーネントを使用

管理対象企業ネットワークの外側にあるターゲットとの間に確立されるリモート・コントロール・セッション。このタイプのセッションでは、ターゲットが Remote Control サーバーによって管理されている必要があります。コントローラーとターゲット・マシンの間に接続を確立するために、ブローカー・コンポーネントが使用されます。ブローカー・コンポーネントのインストールおよび構成について詳しくは、「*BigFix® Remote Control インストール・ガイド*」を参照してください。

## Remote Control コンソールから

コントローラー・ユーザーが、Remote Control コンソール内の「Remote Control」サイトから開始するリモート・コントロール・セッション。詳しくは、*BigFix® Remote Control* コンソール・ユーザー・ガイド「」を参照してください。

## 確立可能なリモート・コントロール・セッションのタイプ

ターゲットとのリモート・コントロール・セッションを確立するとき、参加するセッションのタイプを選択できます。選択可能なセッションのタイプは、セッションに設定されているポリシーによって定義されます。

### アクティブ・モード

ターゲットに接続し、ターゲットの完全なリモート・コントロールを取得します。ターゲットの画面を表示し、リモートのマウスとリモートのキーボードを制御できます。詳しくは、『[ターゲット・システムの完全なコントロール](#)』を参照してください。

### チャットのみ

「チャットのみ」モードを使用すると、ターゲット・ユーザーとチャットできます。ターゲットの画面を表示することはできません。[リモート・コントロール・セッション中のターゲット・ユーザーとのチャット](#)も参照してください。

### モニター・モード

ターゲットに接続してターゲットの画面を表示し、アクティビティをモニターします。リモートのマウスとリモートのキーボードの制御はできません。

### ガイダンス

ターゲットに接続してターゲットの画面を表示し、ガイダンス・アイコンを画面に追加します。リモートのマウスとリモートのキーボードの制御はできません。詳しくは、[ターゲット・ユーザーへのガイダンスの提供](#)を参照してください。



**注:** ターゲットでウィンドウを最大化するか、ターゲット画面の再描画が必要となる操作を実行すると、それらが削除されることがあります。

### ファイル転送

ターゲットに接続してターゲットのファイル・システムを表示し、ご使用のシステムからターゲットに(またはその逆方向に)ファイルおよびディレクトリーを転送できます。詳しくは、『[ファイルおよびディレクトリーの転送](#)』を参照してください。

### 再起動

「リブート」セッション・タイプを使用すると、ターゲットに接続してターゲットを再始動できます。

## ターゲット・システムの完全なコントロール

**アクティブ・セッション**を確立することによって、ターゲットへの接続と、ターゲット・システムの完全なリモート・コントロールが可能になります。アクティブ・モードで接続している場合は、ターゲットの画面を表示すること

ができ、リモートのマウスとリモートのキーボードを制御することによって、完全にリモート側の入力を制御できます。このモードは、プライバシーに関する問題がなく、ターゲットのマシンへの全アクセス権限を付与することをターゲット・ユーザーが承諾した場合に役立ちます。アクティブ・モードでは、その他のリモート・コントロール・セッション・タイプのすべての機能が取り込まれます。



**注:** セッションで使用可能な機能は、設定されたセッション・ポリシーによって決まります。セッション用のポリシーの取得方法について詳しくは、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。

## ターゲット・ユーザーとのチャット

「チャット」セッションを開始することによって、ターゲット・ユーザーとのオンラインの会話に参加できます。このタイプのセッションの間は、ターゲットの画面は表示されません。

「チャット」セッションの確立後に、下方のウィンドウでメッセージを入力し、「送信」をクリックします。

メッセージはターゲットに送信され、ターゲット・ユーザーの画面にそのメッセージが表示されます。メッセージは、自分のチャット・ウィンドウの表示域にも表示されます。「クリア」をクリックすると、自分の表示のみでメッセージがすべて削除されます。ターゲット画面ではチャット履歴はまだ表示されています。

「選択したテキストをコピー」および「貼り付け」 機能もチャット・セッション中に使用可能です。

### 選択したテキストをコピー

チャット領域から別の場所にテキストをコピーするために使用します。

1. チャット・ウィンドウ内で必要なテキストを選択します。
2. 「選択したテキストをコピー」をクリックします。このテキストは、ご使用のシステム上の別の場所に貼り付けることができます。例えば、Eメールに追加するために貼り付けます。

### 貼り付け

チャット領域にテキストを貼り付けるために使用します。

1. チャット・ウィンドウ外部のテキストを選択してコピーします。CTRL+C を使用してコピーすることができます。例えば、開いている文書からコピーします。
2. コントローラー・ウィンドウで「貼り付け」をクリックします。テキストは、チャット・ウィンドウの入力フィールドに貼り付けられます。
3. 「送信」をクリックして、ターゲット・ユーザーにテキストを転送します。



**注:** その他のタイプのリモート・コントロール・セッション中に、ターゲット・ユーザーとチャットすることもできます。詳しくは、『リモート・コントロール・セッション中のターゲット・ユーザーとのチャット』を参照してください。セッションに設定されたポリシーによっては、このオプションは選択可能ではない場合があります。

## ファイルおよびディレクトリーの転送

ファイル転送モードは、対象にリモート側で接続するために使用できる接続モードです。ファイル転送モードで接続されている場合は、ターゲットのファイル・システムを表示でき、コントローラー・マシンのファイルおよびディレクトリーをターゲットに転送することも、逆方向にファイルおよびディレクトリーを転送することもできます。ファイルとディレクトリーを削除してディレクトリーを作成するためのオプションもあります。

接続が確立されている場合は、コントローラー・ウィンドウに2つのペインが表示されます。左側のペインにはコントローラーのファイル・システムが表示され、右側のペインには対象のファイル・システムが表示されます。

ピアツーピア・モードでのファイル転送セッションの動作が、バージョン 9.1.4 FP1 で変更されました。リリース 9.1.4 GA までは、ファイル転送セッションがピアツーピア・モードで確立されると、ターゲット・ファイル・システムへのアクセスに使用される権限が、Windows の場合は System アクセス、Linux の場合は root アクセスに設定されていました。このフィックス・パックでは、ログオンしているユーザーの権限がターゲット・ファイル・システムで使用されます。新規のターゲット構成オプションである **EnableFileTransferSystemAccess** は、新しい動作を実装するために使用されます。

## コントローラーからターゲットへのファイルおよびディレクトリーの転送

ファイル転送モードのセッションでターゲットに接続されている場合、1つ以上のファイルまたはディレクトリーをコントローラー・マシンからターゲット・マシンへ転送することができます。

コントローラーの1つ以上のファイルまたはディレクトリーをターゲットにコピーするには、以下のステップを実行します。

1. 右側のペインを選択して、ファイルまたはディレクトリーのコピー先とするターゲット上のロケーションにナビゲートします。
2. 左側のペインを選択して、コピーするファイルまたはディレクトリーのロケーションにナビゲートします。
3. 必要なファイルまたはディレクトリーを選択します。複数の項目を選択するには、CTRL キーを押したまま左マウス・ボタンを押します。
4. 以下のアクションのいずれか **1つ** を実行して、ファイル転送を実行するための適切な方法を選択します。
  - ファイルまたはディレクトリーを右側のペインにドラッグします。1つの項目をコピーする場合のみ、これを実行できます。
  - 「**コピー**」をクリックします。

選択したファイルまたはディレクトリーが、ターゲットのファイル・システムに表示されます。

## ターゲットからコントローラーへのファイルおよびディレクトリーの転送

ファイル転送モードのセッションでターゲットに接続されている場合、1つ以上のファイルまたはディレクトリーをターゲット・マシンからコントローラー・マシンへ転送することができます。

ターゲットの1つ以上のファイルまたはディレクトリーをコントローラーにコピーするには、以下のステップを実行します。

1. 左側のペインを選択して、ファイルまたはディレクトリーのコピー先とするコントローラー上のロケーションにナビゲートします。
2. 右側のペインを選択して、コピーするファイルまたはディレクトリーのロケーションにナビゲートします。
3. 必要なファイルまたはディレクトリーを選択します。複数の項目を選択するには、CTRL キーを押したまま左マウス・ボタンを押します。
4. 以下のアクションのいずれか **1 つ** を実行して、ファイル転送を実行するための適切な方法を選択します。
  - 。ファイルまたはディレクトリーを左側のペインにドラッグします。1 つの項目をコピーする場合のみ、これを実行できます。
  - 。「**コピー**」をクリックします。

選択したファイルまたはディレクトリーが、コントローラーのファイル・システムに表示されます。

## ファイル情報の表示および非表示

1 つのファイル転送セッション中に表示するファイルおよびディレクトリー情報を選択します。セッション・ウィンドウの左側のペインと右側のペインに示される列を表示したり、非表示にしたりすることができます。

以下のファイルおよびディレクトリー情報を表示することができます。

- サイズ。ファイルに対してのみ。
- 作成日。協定世界時で表示されます。
- 変更日。協定世界時で表示されます。
- 属性。以下のファイル属性をリストできます。

表 1. ファイル属性

属性	説明	コントローラーのファイル・システム	ターゲットのファイル・システム
A	アーカイブ	*	*
R	読み取り専用	*	*
D	ディレクトリー	*	*
H	非表示	*	*
S	システム	*	*
C	圧縮		*
E	暗号化		*
I	インデックス付き		*

テーブル内の項目の上にマウスを移動すると、ツールチップに同じ情報が表示されます。稼働しているオペレーティング・システムによって、表示または非表示にできる列が異なります。Linux オペレーティング・システムを稼働しているときは、「作成日」列と「属性」列は表示されません。以下に示すオプションを使用して、セッション・ビューを構成します。



構成の対象のペイン内で、列見出し行を右クリックして、該当するオプションのための手順を実行します。

- 列を表示する

表示したい列の名前を選択します。

- 列を非表示にする

選択されている列名 (非表示にしたい列の名前) をクリアします。

- ペインを同期化する

左側のペインと右側のペインに同じ列見出しを表示するには、「**テーブル・ペインの同期化**」を選択します。ファイル転送セッションを初めて開始するときには、このオプションがデフォルトとして選択されています。ただし、「**テーブル・ペインの同期化**」を選択したペインによって、両方のペインに表示される内容が決まります。「**テーブル・ペインの同期化**」が右側のペインで選択されていないときに、左側のペインでこのオプションを選択した場合、右側のペインの列見出しが左側のペインの列見出しで上書きされます。

セッションの終了時に、列で選択したオプションが保存され、次にファイル転送セッションを開始するときに、列がそのオプションで表示されます。

## ファイル転送セッション中のファイルまたはディレクトリーの削除

ファイル転送モードのセッションでターゲットに接続されている場合、ファイルおよびディレクトリーをコントローラー・マシンおよびターゲット・マシンから削除することができます。

1 つ以上のファイルまたはディレクトリーを削除するには、以下のステップを実行します。

1. コントローラーから削除するには左ペインを選択し、ターゲットから削除するには右ペインを選択します。
2. 必要なファイルまたはディレクトリーにナビゲートして、それらを選択します。  
複数の項目を選択するには、CTRL キーを押したまま左マウス・ボタンを押します。
3. 「**削除**」をクリックします。
4. 「**はい**」をクリックして削除します。

選択したファイルまたはディレクトリーが、コントローラーまたはターゲットのファイル・システムから削除されます。



**注:** ファイルまたはディレクトリーが直ちに画面から消去されない場合は、「**更新**」をクリックすると、ペインの内容が最新表示されます。

## ファイル転送セッション中のディレクトリーの作成

ファイル転送モードのセッションでターゲットに接続されている場合、コントローラー・マシンおよびターゲット・マシン上でディレクトリーを作成できます。

ディレクトリーを作成するには、以下のステップを実行します。

1. コントローラー・ファイル・システム用の左側のペインを選択するか、ターゲット・ファイル・システム用の右側のペインを選択します。
2. 新しいディレクトリーの必要な位置まで進みます。
3. 「新しいディレクトリー」をクリックします。
4. ディレクトリーの名前を入力し、「OK」をクリックします。

コントローラー・システムまたはターゲット・システムに新しいディレクトリーが作成されます。



**注:** 「更新」をクリックすると、選択されたペインの内容が最新表示され、すべての選択がクリアされます。

## 転送されたファイルのリストの表示

ファイル転送モード・セッションでターゲットに接続しているとき、そのセッション中に転送された項目のリストを表示できます。ファイル・リストを表示した後、リストをビューで非表示にすることを選択できます。

転送された項目のリストを表示するには、ファイル転送セッション・ウィンドウで「転送の表示」をクリックします。

「ファイル転送」ウィンドウが開き、転送された項目のリストが表示されます。項目を選択して赤色の「X」をクリックすると、項目をリストから削除できます。「転送フォルダーを開く」をクリックして、ファイル転送フォルダーの内容をコントローラー上に表示できます。



**注:** 「転送の表示」をクリックすると、この表示は「転送の非表示」に変更されます。「転送の非表示」をクリックすると、「ファイル転送」ウィンドウが閉じます。

## ターゲット・ユーザーへのガイダンスの提供

リモート側からターゲット・システムに接続して、問題の解決を支援するためにターゲット・ユーザーにガイダンスを提供することができます。ガイダンス・モードで接続されているときは、ターゲットの画面を表示できますが、入力は制御できません。リモートのマウスとリモートのキーボードを制御することはできません。ただし、画像で示唆する一連のアイコンを介して、ターゲット・マシン上で必要なタスクを実行するようにターゲット・ユーザーに指示を出すことができます。このタイプのセッション・モードは、多くの場合、トレーニングのシチュエーションおよび非常に高い機密性が求められる職場で使用されます。例えば、金融機関などです。



**注:** ターゲットでウィンドウを最大化するか、ターゲット画面の再描画が必要となる操作を実行すると、それらが削除されることがあります。

画面内のガイダンス・シンボルおよびチャット機能を使用して、ターゲット・マシン上で実行する必要があるタスクについてターゲット・ユーザーに指示を出すことができます。

## ターゲット・ユーザーに指示を出すためのツール

ターゲットとのガイダンス・セッション中に、さまざまなツールを使用して、ターゲット・ユーザーに説明を示すことができます。画面上でクリックする場所や、強調表示する画面の特定の部分を示すことができます。ツールは、コントローラー・ウィンドウ内の「**ターゲット内のアクションを実行**」メニューで選択できます。



**注:** 「ガイダンス・ツール」 および 「マウス・ツール」を除き、ツールはアクティブ・セッション中にも選択できます。

### ガイダンス・ツール

このツールを使用して、画面上にシンボルを配置してクリックすべき対象と場所をターゲット・ユーザーに表示することによって、ターゲット・ユーザーに指示を出します。詳しくは、『[ガイダンス・ツールの使用](#)』を参照してください。

### ドロー・ツール

このツールは、ターゲット画面に単純な色付きの線を描画するために使用します。例えば、ターゲット・ユーザーが注意すべき対象を円で囲みます。

### 強調表示ツール

このツールは、ターゲット画面の一部を強調するために使用します。

### マウス・ツール (Mouse Tool)

このツールは、自分がマウスをデスクトップ上で移動したときに、ターゲット・ユーザーにそのマウスが表示されるように、ターゲット・システムにマウスのカーソルを表示するのに使用します。

### クリア命令

このツールは、ターゲットの画面からガイダンス指示をすべてクリアするために使用します。

## ガイダンス・ツールの使用

ガイダンス・ツールを使用して、画面上でクリックする対象とクリックする場所をターゲット・ユーザーに示す記号をターゲット画面に配置します。

ガイダンス・ツールを使用するには、以下の手順を実行します。

1. 「**ターゲットでのアクションの実行**」 > 「**ガイダンス・ツール**」をクリックします。
2. ターゲット・ユーザーがマウスを置く必要がある場所までマウスを移動し、ターゲット・ユーザーがクリックする必要があるマウス・ボタンをクリックします。  
例えば、左マウス・ボタンをクリックします。アクションのリストが表示されます。
3. ターゲット・ユーザーが実行する必要があるアクションを選択します。  
例えば、「**シングルクリック**」を選択します。

選択されたアクションのガイダンス記号が画面に表示され、マウスでクリックするボタンと、そのボタンで実行するアクションについての指示がターゲット・ユーザーに出されます。

リモート画面に配置されたすべての記号を削除するには、[画面からのガイダンス指示の削除](#)を使用してください。

## ガイダンス・ツールのシンボル

ガイダンス・ツールを使用して、ターゲット画面にアクション・シンボルを表示し、どのマウス・ボタンを押す必要があるか、およびどのアクションを実行する必要があるかを、ターゲット・ユーザーに指示します。使用可能なアクションは次のとおりです。

### キャンセル

直前に実行したマウス・アクションをキャンセルします。ガイダンス・シンボルはターゲット画面に表示されません。

### 移動

ターゲットのマウスを、画面上のこの特定のポイントに移動します。

### シングルクリック

ターゲットのマウス・ボタンを 1 回クリックします。

### ダブルクリック

ターゲットのマウス・ボタンを 2 回クリックします。

### ドラッグを開始

ターゲットのマウス・ボタンをクリックし、押したままで、マウスのドラッグを開始します。

### ドラッグを停止

マウスのドラッグを続行してから、このポイントでマウス・ボタンを放します。

以下の表に、関連アクションと、そのシンボルを示します。

表 2. マウス・アクション・シンボル

左ボタンをシングルクリック	右ボタンをシングルクリック	左ボタンをダブルクリック	右ボタンをダブルクリック	ドラッグを開始	ドラッグを停止
					

クリックしたマウス・ボタンによって、ガイダンス・シンボルのどのマウス・ボタンに陰影が付けられるかが決まります。これにより、どのボタンを押すかをターゲット・ユーザーに指示します。以下の表に、各マウス・ボタン・アクションがどのように見えるかを示すシンボルの例を示します。

表 3. マウス・アクション・シンボル

左ボタン 中央ボタン 右ボタン




## ドロー・ツールの使用

「ドロー・ツール」を使用して、ターゲット画面に基本色の線を引き、ターゲット・ユーザーに注意を促す画面の部分にマークを付けます。

ドロー・ツールを使用するには、以下の手順を実行します。

1. 「ターゲットでのアクションの実行」 > 「ドロー・ツール」をクリックします。

セッション・ウィンドウ内のカーソルが、ドロー・ツールのカーソル  に変わります。

2. 線を引くには、左または右のマウス・ボタンを押したままマウスを移動します。



**注:** 左ボタンを使用すると青色の線が生成され、右ボタンを使用すると緑色の線が生成され、中央ボタンを使用するか、左右のボタンを一緒に使用すると赤色の線が生成されます。


リモート画面に描かれたすべての線を削除するには、[画面からのガイダンス指示の削除](#)を使用してください。

## 強調表示ツールの使用

「強調表示ツール」を使用して、ターゲット画面上の領域を強調表示します。

強調表示ツールを使用するには、以下の手順を実行します。

1. 「ターゲットでのアクションの実行」 「強調表示ツール」をクリックします

セッション・ウィンドウ内のカーソルが、強調表示ツールのカーソル  に変わります。

2. ターゲット・マシン画面上のテキストを強調表示するには、左または右のマウス・ボタンを押したままマウスを移動します。必要な領域が強調表示されたら、マウス・ボタンを放します。

すべての強調表示を除去するには、[画面からのガイダンス指示の削除](#)を使用してください。

## ターゲット・システムでのコントローラーのマウス・カーソルの表示

「マウス・ツール」オプションを使用して、ガイダンス・セッション中にコントローラー・ユーザーのマウス・カーソルをターゲット・システム上に表示します。ターゲット・デスクトップ上でマウス・カーソルを移動すると、ターゲット・ユーザーにそのマウス・カーソルの位置が表示されます。

「マウス・ツール」オプションが使用できるのはガイダンス・モードのみです。このツールを有効にすると、別のガイダンス・ツールまたは別のセッション・タイプを選択するまでこのツールは有効のままになります。「マウス・ツール」オプションをクリアすると、オプションをクリアする直前の位置にマウス・カーソル・アイコンが表示されます。

「マウス・ツール」を有効にするには、「ターゲット内のアクションを実行」>「マウス・ツール」をクリックします。ターゲット・システム上では、マウス・カーソルの横にリモート・コントロール・アイコンが表示されます。



「マウス・ツール」を無効にした後にターゲット・デスクトップからカーソル・アイコンを削除するには、「ターゲット内のアクションを実行」>「クリア命令」を選択します。



**注:**

Linux™ ターゲットまたは BigFix® Remote Control Target for macOS とのセッション中は、「マウス・ツール」は無効です。V9.1.4 より前のターゲット・コンポーネントがインストールされている場合も、このツールは無効です。

## 画面からのガイダンス指示の削除

指示のクリア機能を使用して、リモート・コントロール・セッション画面に配置したガイダンス・シンボル、描画された線、または強調表示された領域を削除します。

指示をクリアするには、「ターゲットでのアクションの実行」>「クリア命令」をクリックします。

すべてのガイダンス・シンボルが画面から削除されます。



**注:** ターゲットでウィンドウを最大化するか、ターゲット画面の再描画が必要となる操作を実行すると、それらが削除されることがあります。

## ターゲット・マシンのリブート

リブート・モードは、ターゲット・マシンをリモート側でリブートするために使用できる接続モードです。

リブートするには、セッション・タイプ・リストから「リブート」を選択します。リブート・メッセージが表示されます。必要な場合に別のセッション・モードで再接続するためのオプションがあります。ターゲット・マシンがシャットダウンして再始動します。

## サーバーからのリモート・コントロール・セッションの開始

BigFix® Remote Control サーバー では、1 つ以上のターゲットを表示する任意のレポートからターゲットを選択したときに、リモート・コントロール・セッションを開始することができます。これらのレポートのいくつかの例を以下に示します。

### すべてのターゲット

このレポートを作成する方法については、[すべてのターゲットの表示](#) を参照してください。



**注:** このレポートには、ターゲットにログオンしているユーザーのユーザー ID も表示されます。

### 最近アクセスされたターゲット

このレポートを作成する方法については、[最近アクセスされたターゲットの表示](#) を参照してください。

### お気に入り

このレポートを作成する方法については、[お気に入りターゲット・リストの表示](#) を参照してください。

### ターゲットの検索

このレポートを作成する方法については、[ターゲットの検索](#) を参照してください。

以下のステップでは、「すべてのターゲット」レポートからセッションを開始する方法について説明します。他のレポートについては、これらのレポートの表示に関する該当セクションを参照してから、以下のステップ 2 以降を実行してください。

セッションを開始するには、以下の手順を実行します。

1. 「**ターゲット**」 > 「**すべてのターゲット**」をクリックします。
2. ターゲットを選択します。
3. 「**セッションを開始**」をクリックします。

セッションの開始画面が表示されます。この画面には、選択されたターゲットの詳細 (例えば、インストールされているターゲット・ソフトウェアのバージョンや、セッションに割り当てられるポリシーおよびアクセス許可など) が表示されます。

4. 開始するセッション・タイプに対応するセッション・モード・ボタンをクリックします。
5. 「開く」または「保存」ウィンドウが表示されたら、「**開く**」を選択します。

コントローラーの実行が開始され、セッションが受け入れられるか、拒否されます。

セッションが受け入れられた場合は、接続が確立し、ターゲット画面を示すコントローラー・ウィンドウが表示されます。コントローラー・ウィンドウのヘッダーには、ターゲットの IP アドレスが表示されます。これは、一度に複数セッションを実行している場合に、接続先を把握するのに役立ちます。

セッションが拒否された場合は、メッセージが表示されます。

セッション拒否が発生する理由は、いくつかあります。

- セッションにはユーザー確認が必要である場合に、ターゲット・ユーザーが確認ウィンドウで「拒否する (refuse)」をクリックした。
- ターゲット・ユーザーが、指定された時間内にセッションを受け入れなかった。これは、確認待ち時間ポリシーと、受け入れタイムアウト・ポリシーが中止に設定されているかどうかによって決まります。
- ターゲットが既にリモート・コントロール・セッション中である。この場合は、ターゲットの接続先を示すメッセージが表示されます。

ポリシーについて詳しくは、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。



注:

1. 「セッションを開始」画面にセッション・モード・ボタンが表示されずにエラー・メッセージが表示される場合は、この理由として以下のケースが考えられます。
  - ユーザーまたはターゲットがどのグループにも所属していない。
  - ユーザーおよびターゲットが属するグループのいずれにもアクセス許可リンクが定義されていない。
  - ターゲットがオフラインである。
  - セッション・モード・ポリシーのいずれも「はい」に設定されていない。

グループ、ポリシー、およびアクセス許可について詳しくは、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。

## P2P セッションの開始

リモート・コントロール・セッション要求がサーバーから開始されると、コントローラーが起動され、コントローラーはターゲットに接続してセッション要求を送信します。ターゲットはサーバーと接続して要求を認証し、セッションのポリシーおよび許可を取得します。P2P リモート・コントロール・セッションは、サーバーから開始されないリモート・テークオーバー・セッションで、コントローラーとターゲットの間で直接確立されます。ターゲット側で P2P モードが使用可能であって、サーバーがダウンしたか、ターゲットからサーバーに到達できない場合、ターゲットとコントローラーの間でセッションが直接確立されます。セッションではターゲットに設定されているローカル・ポリシーが使用されます。P2P ポリシーは、ターゲットのインストール中またはインストール後に、ターゲット・プロパティを構成することによって設定できます。

ご使用のシステムでコントローラーをローカルに実行することによって、P2P 接続が使用可能になるように設定されたターゲットと P2P セッションを開始できます。Remote Control サーバーをインストール済みである場合、このサーバーからコントローラーをダウンロードしてインストールすることができます。詳しくは、[サーバーからのコンポーネント・ソフトウェアのダウンロード](#)を参照してください。サーバーがインストールされていない場合にコントローラー・コンポーネントをインストールすることについて詳しくは、「BigFix® Remote Control インストール・ガイド」を参照してください。

コントローラーをインストールした後、以下の手順を実行することによって P2P セッションを開始できます。



## 1. コントローラーを始動します。

### Windows® システム

- a. 「スタート」 > 「すべてのプログラム」をクリックします。
- b. 「Remote Control」 > 「コントローラー」をクリックします。

### Linux® または UNIX® システムの場合:

コントローラーを始動するには、オペレーティング・システム・アプリケーション・インターフェースから Remote Control コントローラー・アプリケーションを見つけるか、以下のコマンドを実行します。

```
/opt/bigfix/trc/controller/trc_controller.sh
```

コントローラー・アプリケーションは、メニュー項目「アプリケーション」 > 「インターネット」 > 「BigFix Remote Control - コントローラー」を使用して開始することもできます。

### macOS システム

- a. Finder (アプリケーション・フォルダー) または Launchpad を開きます。
- b. 「Remote Control コントローラー」アプリケーションを見つけて開きます。

## 2. 「接続のオープン」ウィンドウで以下を実行します。

- a. セッションを開始するターゲットの IP アドレスを入力します。
- b. (デフォルトのポートが OS に応じて 888 または 8787 に変更されていない限り) 着信接続をリッスンするためにターゲットが使用するポートを入力します
- c. 「プロキシを使用」を選択してプロキシを使用します
- d. 必要なプロトコルを選択し、必要な情報を入力します。

### サーバー

プロキシ・サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。

### ポート

プロキシ・サーバーに必要なポートを入力します。

### プロキシは認証が必要です

プロキシ・サーバーでの認証が必要な場合は、このオプションを選択します。認証に必要なユーザー名とパスワードを指定します。

## 3. 必要なセッション・タイプをクリックします。



**注:** ターゲットに Windows® オペレーティング・システムがインストールされていて、**CheckUserLogin** ポリシーが「はい」に設定されている場合、ログイン・ウィンドウが開きます。有効な Windows™ ID およびパスワードを入力して、先に進みます。ターゲットが既にリモート・コントロール・セッションに参加している場合、設定されている他のターゲット・プロパティによって、セッションに参加したりセッションを切断したりするオプションを選択できる場合があります。詳しくは、[既にセッションに参加しているターゲットへの接続](#)を参照してください。

ターゲットへの正常な接続は、以下の条件のいずれかが満たされる場合に確立されます。

- セッションを受け入れるためのユーザー確認ポリシーが使用可能になっていないこと。
- セッションを受け入れるためのユーザー確認ポリシーが使用可能になっており、ターゲット・ユーザーが要求を受け入れたこと。リモート・コントロール・セッションへの同意について詳しくは、「*BigFix® Remote Control* ターゲット ユーザーズ・ガイド」を参照してください。

セッションが受け入れられて確立された後、ターゲット上でローカルに設定されたポリシーによって、セッション中に実行できるアクションが決まります。

## ブローカーを使用したリモート・コントロール・セッションの開始

直接アクセスできないターゲットとの間で、インターネット経由でリモート・コントロール・セッションを開始するには、Remote Control サーバーの UI からリモート・コントロール・セッションを開始し、ブローカーを使用して必要な接続を確立できます。

接続の確立にブローカーを使用してリモート・コントロール・セッションを開始する場合、ターゲットは選択しません。代わりに、BigFix® Remote Control サーバー UI 内からブローカー・セッションを開始することを選択します。接続コードに対する要求が実行されます。リモート・コントロール・サーバーによりコードが生成され、ブローカーに渡されて、コントローラー・コンピューター上に表示されます。ターゲット・ユーザーがこの接続コードを入力すると、接続コードは認証のためのターゲット・データとともにリモート・コントロール・サーバーに渡されます。セッションが許可されると、適用可能なポリシーとセッション情報がターゲットに戻され、セッションが進められます。この手順では、ターゲットとの接続にブローカーを使用して、BigFix® Remote Control サーバー からリモート・コントロール・セッションを開始する方法と、コントローラー・ユーザーおよびターゲット・ユーザーに必要なステップについて説明します。

1. コントローラー・コンピューター上でサーバー UI の「**ターゲット**」 > 「**ブローカー・セッションの開始**」をクリックします。

ブローカーに正常に接続されると、「接続コード」ウィンドウが表示されます。リモート・コントロール・セッションに使用する接続コードのフィールドが表示されます。「URL」フィールドも表示される場合があります。接続タイマーが、15 分から秒単位でカウントダウンを開始します。「ステータス」に、ターゲットを待機中であることが示されます。

「**接続コード**」ウィンドウが表示されている間、以下の操作を行うことができます。

- 新しい接続コードを要求する場合は、「**新規を要求**」をクリックします。



**注:** タイマーが 15 分にリセットされ、秒単位でのカウントダウンが開始されます。

- セッション接続を行うことができる時間を延長するには、「**タイムアウトを延長**」をクリックします。



**注:** タイマーが 15 分にリセットされ、秒単位でのカウントダウンが開始されます。

- 。 「**キャンセル**」 をクリックすると、「接続コード」ウィンドウが閉じられます。ブローカーへの接続は行われません。
- 2. リモート・コントロール・セッションを開始する相手となるターゲット・コンピューター上のユーザーに、接続コードを渡します。  
これは、電子メールや電話などを使用して行うことができます。
- 3. ターゲットのオペレーティング・システム用の手順に従って、ターゲット・コンピューターで接続コードを入力します。



**注:** ターゲットが新規にインストールされたものである場合、ターゲットが最初にサーバーに接続するか、ターゲットに ServerURL プロパティと BrokerList プロパティを手動で入力するまで、「接続コードの入力」オプションは使用できません。

### Windows 上のターゲットの場合

以下から適切な方法を選択して、接続コードを入力します。

- 。 ターゲットの「通知」アイコンを右クリックし、「接続コードの入力」を選択します。
- 。 ターゲット UI を開いて、「**アクション**」メニュー > 「**接続コードの入力**」を選択します。

接続コードを入力し、「**接続**」をクリックします。

### Linux 上のターゲット

- 。 ターゲット UI を開いて、「**アクション**」メニュー > 「**接続コードの入力**」を選択します。
- 。 接続コードを入力し、「**OK**」をクリックします。

または、GUI コマンドラインを使用してこれを行うこともできます。詳しくは、コマンド行を使用してターゲット GUI にアクションを送信するを参照してください。

ブローカーに正常に接続され、サーバーによって接続コードが検証され、セッションが認証されると、自動的にリモート・コントロール・セッションが開始します。セッション・ポリシーで「**着信接続におけるユーザーの受け入れを使用可能にする**」が有効になっている場合は、ターゲット・ユーザーがセッション要求の受け入れまたは拒否を選択できます。セッションの開始後、使用可能になる機能は、そのセッションに対して設定されているサーバー・ポリシーおよびアクセス許可によって異なります。



**注:** ブローカー・リストに複数のブローカーが含まれていて、コントローラー・コンピューターがターゲットと同じブローカーに接続されていない場合、コントローラーは同じブローカーに接続します。リモート・コントロール・セッションの開始前に、コントローラー・コンピューターに次のメッセージが表示されます。「次へ接続中:hostname」 port (ここで hostname:port は、ターゲット・コンピューターが接続しているブローカーのホスト名とポートです)。

ブローカーと接続できない場合、またはサーバーが接続コードを検証できないか、ターゲットがサーバーに認証されない場合、ターゲット・ユーザーは、接続オプションの再試行を選択することができます。ターゲット・ユーザーが「再試行」をクリックすると、「接続コード」ウィンドウが表示されて、接続コードを入力することができます。ターゲット・ユーザーが「キャンセル」をクリックすると、ブローカーとの接続の試行が終了し、リモート・コントロール・セッションは確立されません。



**注:** 以下のいずれかの条件を満たす場合を除き、「アクティブ」セッションが開始されます。

- このセッションに設定されているポリシーで、「アクティブ」が有効になっていない場合。この場合は、次に有効なセッション・モードが使用されます。優先順位は以下のようになります。
  - ガイダンス・モード
  - モニター・モード
  - チャット・モード
  - ファイル転送
- ユーザー確認が有効になっていて、ターゲット・ユーザーが確認ウィンドウで別のセッション・タイプを選択した場合。

## 既にセッションに参加しているターゲットへの接続

既にセッションに参加しているターゲットに対して P2P リモート・コントロール・セッションの開始を試行するときは、このターゲットに接続するために使用できる 2 つの機能があります。ターゲットとのコラボレーション・セッションが開始されている場合は、そのセッションへの参加を要求するか、切断機能を使用してセッションを終了し、これに代わってターゲットに接続します。切断機能は、コントローラー・ユーザーがもうマシンを使用していないにもかかわらず、セッションから切断していない場合に便利です。どちらの機能も、P2P リモート・コントロール・セッションを実行中であり、ターゲット・プロパティが **Managed= No** かつ **CheckUserLogin=Yes** である場合にのみ使用できます。コラボレーションが開始されている場合は、参加機能を使用できます。ターゲット・プロパティ **AllowForceDisconnect** が **Yes** に設定されている場合は、切断機能を使用できます。

## セッションへの参加またはセッションの切断

ターゲットが既にリモート・コントロール・セッションに参加しているときに、そのターゲットに対して P2P モードで接続を試みる場合は、設定されているターゲット・プロパティに応じて、セッションに参加するか、セッションを切断することができます。

ターゲット・プロパティが **Managed = No** かつ **CheckUserLogin = Yes** で、**AllowForceDisconnect = Yes** であるか、コラボレーションが開始されている場合は、このタスクのステップを実行できます。以下のステップを実行して、セッションに参加するか、セッションを切断します。

1. ターゲットとの P2P セッションを開始し、ターゲットの IP アドレスとポートを接続ウィンドウに入力します。
2. オペレーティング・システムの ID およびパスワードを使用してログオンします。

ターゲットが既にリモート・コントロール・セッションに参加している場合は、認証に成功すると、アクション・ボタン付きのメッセージ・ウィンドウが表示されます。

3. メッセージ・ウィンドウで必要なアクション・ボタンをクリックします。

### キャンセル

メッセージ・ウィンドウを閉じてセッション試行を終了する場合は、「**キャンセル**」をクリックします。

### 結合

現在のコラボレーション・セッションに参加する場合にクリックします。ユーザー確認が有効化されている場合は、セッションへの受け入れがコントローラーとターゲットのユーザーによって決定されます。ここで受け入れられると、セッションに参加できます。拒否された場合は、セッションに参加できません。

### セッションの切断

セッションを切断する場合にクリックします。「**セッションの切断**」をクリックすると、要求が現在のコントローラーに通知されたことと、現在のコントローラーが自動的に切断されるまでの応答に使用できる時間を示すメッセージ・ウィンドウが表示されます。「**キャンセル**」をクリックすると、現在のコントローラーに、「切断要求はキャンセルされました」というメッセージが表示されます。ターゲットへの接続試行は終了します。

現在のコントローラーの画面にも、要求への応答が時間切れになるまでの秒数を示すタイマーと、切断要求の受け入れまたは拒否を決定するオプションを含むメッセージ・ウィンドウが表示されます。コントローラー・ユーザーが選択できるオプションは以下のとおりです。

#### 受け入れる

ターゲット・ユーザー確認が有効化されている場合は、コントローラー・ユーザーが「同意する」をクリックすると、ターゲットへの接続が最終的にターゲット・ユーザーによって決定されます。ターゲット・ユーザーが要求を受け入れた場合、または指定された時間内に応答がなく、かつ **AcceptanceProceed** プロパティが **PROCEED** に設定されている場合は、ターゲットに接続されます。ターゲット・ユーザーが要求を拒否した場合、または指定された時間内に応答がなく、かつ **AcceptanceProceed** プロパティが **ABORT** に設定されている場合は、ターゲットに接続されません。ターゲット・ユーザー確認が有効化されていない場合は、現在のセッションが切断され、ターゲットに接続されます。

#### 拒否

現在のコントローラー・ユーザーが「拒否」をクリックすると、ご使用のシステムにメッセージが表示され、現在のコントローラーはセッションから切断されません。

#### 応答なし (No response)

現在のコントローラー・ユーザーが指定された時間内に応答せず、**AcceptanceProceed** プロパティが PROCEED に設定されている場合は、ターゲットに接続されます。**AcceptanceProceed** が ABORT に設定されている場合は接続されません。

## コントローラー・ユーザーとしてのコントローラー・インターフェースの使用

Remote Control コントローラー・ウィンドウは、コントローラー・ユーザーがターゲットと通信するために使用するインターフェースです。ユーザーはこのインターフェースを使用して、ターゲット・ソフトウェアがインストールされたマシンに接続し、あたかもローカル・マシンであるかのように特定の機能を実行することができます。

### コントローラー・インターフェースの概要

リモート・コントロール・セッション中に、コントローラー・インターフェースで使用可能なメニューおよびメニュー項目を使用して、ターゲット・ユーザーと通信したり、ターゲット・コンピューターでアクションを実行したりすることができます。



メニュー項目は以下のとおりです。

#### 接続アイコン



リモート・コントロール・セッションが確立されると、この接続アイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、セッションとの接続が切断されます。

#### 「セッション」ドロップダウン・リスト

現在のリモート・コントロール・セッション中に使用可能なセッションのタイプを表示します。セッションに設定されているポリシーに応じて、以下のタイプの一部またはすべてが表示されます。

- チャットのみ
- モニター
- ガイダンス
- アクティブ
- 再起動
- ファイル転送



**注:** BigFix® Remote Control Target for macOS で使用できるセッション・モードは、アクティブ・セッション・モードとモニター・セッション・モードのみです。

セッション・タイプについて詳しくは、[確立可能なリモート・コントロール・セッションのタイプ](#)を参照してください。

### 入力可/入力不可



ローカルのマウス移動およびキーボード・ストロークを、アクティブ・セッション内のリモート・コンピュータに転送します。ローカル入力を使用不可の場合、マウスまたはキーボードを使用してターゲットと対話することはできません。詳しくは、『[ローカル入力を使用可能および使用不可にする](#)』を参照してください。

### ターゲットの Num Lock の状態



ターゲットの **Num Lock** LED の状態を設定する場合にクリックします。アイコンが「**Num**」と表示されている場合は、対象の **Num lock** LED はオフです。「**Num on**」と表示されている場合は、対象の **Num lock** LED はオンです。詳しくは、『[対象キーボードの Num lock LED の状態の設定](#)』を参照してください。

### ターゲットでのアクションの実行



動的メニューを組み込みます。セッション・モードにより、表示されるメニュー項目が決まります。使用可能なメニュー・オプションについて詳しくは、[ターゲットで実行できるアクション](#)。を参照してください。

### システム情報を取得



このオプションは、ターゲット・システムに関する情報を収集して表示するのに使用します。詳しくは、『[ターゲット・システム情報の取得](#)』を参照してください。

### 「チャット・ウィンドウ」をオープン



このオプションは、リモート・コントロール・セッション中に「**チャット**」ウィンドウを開き、ターゲット・ユーザーとチャットするのに使用します。詳しくは、『[リモート・コントロール・セッション中のターゲット・ユーザーとのチャット](#)』を参照してください。

### コラボレーション



このオプションは、リモート・コントロール・セッションへ複数の参加者を招待するのに使用します。詳しくは、『[リモート・コントロール・セッションへの複数の参加者の招待](#)』を参照してください。

## コントローラー・ツール



テキストの入力またはターゲット・コンピューターの画面のイメージ取得に使用できるツールのメニューが含まれています。詳しくは、『[コントローラー・ツール・メニューで使用可能なツール](#)』を参照してください。

## セッションを記録



このオプションは、リモート・コントロール・セッションの記録を作成するのに使用します。詳しくは、『[リモート・コントロール・セッションの記録](#)』を参照してください。

## ファイル転送メニュー



このオプションは、コントローラーとターゲットの間で、ファイルを転送するのに使用します。詳しくは、『[アクティブ・セッション中のファイルの転送](#)』を参照してください。

## クリップボード転送メニュー



このオプションは、クリップボードの内容のターゲットへの転送やターゲットからの転送に使用します。詳しくは、『[コントローラーとターゲットの間のクリップボード情報のコピー](#)』を参照してください。

## スマート・カード選択メニュー



スマート・カードに対するサポートを有効にして、Common Access Card (CAC) や Personal Identity Verification (PIV) の各スマート・カードをアクティブ・モード・セッション中に使用できるようにするには、ローカルのスマート・カード・リーダーを選択して、ターゲット上に仮想スマート・カード・リーダーを作成し、ローカル・カード・リーダーをその仮想カード・リーダーに接続します。詳しくは、『[セッション中のスマート・カード・リーダーへの接続](#)』を参照してください。

「**スマート・カードの選択**」オプションを使用できるのは、コントローラーおよびターゲットで Windows 7 以降、または Windows Server 2008 R2 以降のオペレーティング・システムが稼働している場合に限られます。また、ターゲット上に、スマート・カード・リーダー・ドライバーがインストール



されている必要があります。ターゲットでのスマート・カード・リーダー・ドライバーのインストールについて詳しくは、「[BigFix® Remote Control インストール・ガイド](#)」を参照してください。

### ネットワーク応答標識



セッション中のネットワーク応答時間を表示します。詳しくは、『[ネットワーク応答標識](#)』を参照してください。

### 画面の選択 (Select Screens)



ターゲットが複数のディスプレイで構成されている場合に、各画面間を切り替えることや、すべての画面を同時に表示することができます。詳しくは、『[複数のターゲット画面の表示](#)』を参照してください。

### 自動スクロール表示を使用可/自動スクロール表示を使用不可



このオプションは、スクロール・バーを使用せずに、ターゲットのデスクトップの表示をスクロールするのに使用します。詳しくは、『[セッション中のターゲット画面のスクロール](#)』を参照してください。

### 拡大縮小表示を使用可能/使用不可にする



このオプションは、リモート・デスクトップの表示のサイズを、コントローラー・ウィンドウ内に合うように変更するのに使用します。詳しくは、『[セッション・ウィンドウ内でのターゲットのフルスクリーン表示](#)』を参照してください。

### パフォーマンスの設定



このオプションは、ネットワークの速度が遅い場合に、ターゲット・デスクトップの画質を調整して、セッション・パフォーマンスを向上させるのに使用します。詳しくは、『[セッション・パフォーマンスの向上のためのセッション・ウィンドウのカラー品質の変更](#)』を参照してください。

### コントローラーの構成



このオプションは、ローカルのコントローラー構成を作成するのに使用します。ローカルの構成プロパティは、グローバルの構成プロパティより優先されます。詳しくは、『[コントローラーのローカル構成の作成](#)』を参照してください。

## ヘルプ



このオプションは、Remote Control のオンライン文書にアクセスするか、製品バージョンの詳細を表示するのに使用します。詳しくは、『[ヘルプの取得](#)』を参照してください。

## リモート・コントロール・セッション中のセッション・タイプの変更

リモート・コントロール・セッション中に、コントローラー・ウィンドウのセッション・タイプ・リストを使用して、現在のセッション・モードから別のセッション・モードに変更できます。

## リモート・コントロール・セッション中のアクティブ・モードへの変更

現行セッションがアクティブ・セッションではない場合、コントローラー・ウィンドウのセッション・タイプ・リストから「**アクティブ**」を選択することによって、アクティブ・セッションに変更することができます。

リモート・コントロール・セッションは、アクティブ・モードで続行され、リモートのマウスとリモートのキーボードを制御できます。



**注:** セッションに設定されたポリシーによっては、ターゲット・ユーザーは、セッション・モードの変更を受け入れるかまたは拒否するように求められる場合があります。拒否した場合、セッションはアクティブ・モードに変わりません。

## リモート・コントロール・セッション中のチャットのみモードへの変更

現行セッションがチャットのためのセッションではない場合、コントローラー・ウィンドウのセッション・タイプ・リストから「**チャットのみ**」を選択することによって、このタイプのセッションに変更することができます。

リモート・コントロール・セッションは、チャット・モードで続行されます。ターゲット画面を表示することはできません。



**注:** セッションに設定されたポリシーによっては、ターゲット・ユーザーは、セッション・モードの変更を受け入れるかまたは拒否するように求められる場合があります。拒否した場合、セッションはチャット・モードに変わりません。

## リモート・コントロール・セッション中のモニター・モードへの変更

現行セッションがモニター・セッションではない場合、コントローラー・ウィンドウのセッション・タイプ・リストから「**モニター**」を選択することによって、このタイプのセッションに変更することができます。

リモート・コントロール・セッションは、モニター・モードで続行されます。ターゲット画面を表示することはできませんが、リモート・キーボードとリモート・マウスを制御することはできません。



**注:**



1. セッションに設定されたポリシーによっては、ターゲット・ユーザーは、セッション・モードの変更を受け入れるかまたは拒否するように求められる場合があります。拒否した場合、セッションはモニター・モードに変わりません。
2. ツールバーの「入力不可」、「ターゲットでのアクションの実行」、および「クリップボード転送」メニューは、モニター・セッションが確立されると非アクティブになります。

## リモート・コントロール・セッション中のガイダンス・モードへの変更

現行セッションがガイダンス・セッションではない場合、コントローラー・ウィンドウのセッション・タイプ・リストから「ガイダンス」を選択することによって、このタイプのセッションに変更することができます。


リモート・コントロール・セッションは、ガイダンス・モードで続行されます。リモート・キーボードとリモート・マウスを制御することはできませんが、ターゲット画面を表示することはできます。ドロワー・ツールおよび強調表示ツールを使用して、画面上のガイダンス指示を提供できます。詳しくは、『[ターゲット・ユーザーに指示を出すためのツール](#)』を参照してください。



**注:** セッションに設定されたポリシーによっては、ターゲット・ユーザーは、セッション・モードの変更を受け入れるかまたは拒否するように求められる場合があります。拒否した場合、セッションはガイダンス・モードに変わりません。

## ローカル入力を使用可能および使用不可にする

「入力不可」を使用して、セッション中にコントローラー・マシンでマウスおよびキーボードを使用不可にします。

ローカル入力は、**アクティブ**・セッション中にのみ使用可能です。「入力不可」アイコン  は、ローカルのキーボードおよびマウスが使用可能である場合に選択可能になります。このアイコンをクリックすると、ローカル入力を使用不可になります。再度アイコンをクリックすると、ローカル入力を使用可能になります。



**注:** コントローラーの開始時に、ローカル入力はセッションのタイプに応じて設定されます。リモート・コントロール・セッション中に、自分のマウスおよびキーボードを使用してターゲット・デスクトップにアクセスするには、ローカル入力を使用可能でなければなりません。ただし、ローカル入力を使用可能であっても、ターゲット・ユーザーがマウスを動かした場合、ターゲット・ユーザーがマウスを動かすことをやめるまで、一時的にターゲットに入力イベントをまったく送信できなくなります。アイコンは、抑止されたマウス・イメージに変わります。アクティブ・セッションから別のセッションに切り替えると、ローカル入力は使用不可になります。

## 対象キーボードの Num lock LED の状態の設定

コントローラー・ウィンドウの「**ターゲットの Num lock の状態**」アイコンを使用して、ターゲット・キーボードの Num lock LED の状態を確認および設定できます。アイコンをクリックすることで、コントローラーの Num lock

LED と同じになるように、対象の Num lock LED の状態を設定できます。リモート・コントロール・セッションでテンキーを使用する必要がある場合は、コントローラーとターゲットのキーボードの LED を同じ状態に設定する必要があります。アイコンが「Num」と表示されている場合は、対象の Num lock LED はオフです。「Num on」と表示されている場合は、対象の Num lock LED はオンです。

## ターゲットで実行できるアクション。

アクティブ・リモート・コントロール・セッションまたはガイダンス・リモート・コントロール・セッション中に、「**ターゲットでのアクションの実行**」メニューを使用して、ターゲット・システムでさまざまなアクションを実行します。以下のアクションは、実行されているリモート・コントロール・セッションのタイプに応じて使用可能です。アクティブ・セッション中は、リストのすべてが使用可能ですが、ガイダンス・セッション中は、使用可能なアクションの数は限られています。設定されたコントローラー・プロパティに応じて、ターゲットでツールを実行したり、キー・シーケンスを送信したりするためのメニュー項目も表示される場合があります。コントローラー・プロパティについて詳しくは、[グローバル・コントローラー・プロパティの構成](#)を参照してください。BigFix® Remote Control Target for macOSで利用できるキーボード・ショートカットについては、[のキーボード・ショートカット BigFix Remote Control Target for macOS](#)を参照してください。

### Ctrl + Alt + Del を送信

Control、Alt、および Delete キーを送信します。結果として実行されるアクションはシステムによって異なります。



**注:** Windows™ 7 オペレーティング・システムを使用していて Ctrl + Alt + Del を送信する場合、以下のステップを実行します。

ログオン・ウィンドウが確実にポップアップされるようにするためのシナリオは次の 2 つです。

- UAC をオン、Secure Attention Sequence を「サービス」に設定
  - UAC をオフ、Secure Attention Sequence を「サービス」に設定
1. Microsoft™ 管理コンソールを開始するには、「**スタート**」「**ファイル名を指定して実行**」をクリックし、「**mmc.exe**」と入力します。
  2. 「**グループポリシー オブジェクト エディター スナップイン**」を追加するには、「**ファイル**」「**スナップインの追加と削除...**」を選択します。「**グループ ポリシー オブジェクト エディター**」「**追加**」「**完了**」「**OK**」を選択します。
  3. 「**ローカル コンピューター ポリシー**」を展開します。
  4. 「**コンピューターの構成**」を展開します。
  5. 「**管理用テンプレート**」を展開します。
  6. 「**Windows コンポーネント**」を展開します。
  7. 「**Windows ログオンのオプション**」を選択します。
  8. 「**ソフトウェアの Secure Attention Sequence を無効または有効にする**」をダブルクリックします。
  9. **[有効]** を選択します。



10. 「サービス」を選択します。
11. 「コンピューターの簡単操作アプリケーション」が既に選択済みである場合、「サービスとコンピューターの簡単操作アプリケーション」を選択します。
12. 「OK」を選択します。



**注:** Windows™ XP または Windows™ Server 2003 オペレーティング・システムを使用しているときは、オンデマンド・ターゲットとのセッション中、「**Ctrl + Alt + Del を送信**」メニューが無効になります。

#### Alt + F4 を送信

ターゲット・コンピューターのアクティブ・ウィンドウを閉じます。

#### Alt + Tab を送信

ターゲット・コンピューターのアクティブ・ウィンドウ間の切り替えを行います。

#### Alt + Enter を送信

ターゲット上で、コマンド・ライン・ウィンドウをフルスクリーン・モードで実行します。コマンド・ライン・ウィンドウから通常モードに戻るには、再度「**Alt + Enter を送信**」を選択します。

#### Ctrl + Esc を送信

ターゲット・コンピューターで「**スタート**」メニューを開いたり閉じたりします。

#### ドロー・ツール

ターゲットの画面で基本的な色付きの線を描画します。例えば、ターゲット画面上の特定の領域を囲むように円を描画することによって、その領域を指し示します。ドロー・ツールについて詳しくは、[ガイダンス・ツールの使用](#)を参照してください。

#### 強調表示ツール

ターゲットの画面上の特定の領域を選択して強調表示します。強調表示について詳しくは、[強調表示ツールの使用](#)を参照してください。

#### マウス・ツール (Mouse Tool)

このツールは、自分がマウスをデスクトップ上で移動したときに、ターゲット・ユーザーにそのマウスが表示されるように、ターゲット・システムにマウスのカーソルを表示するのに使用します。詳しくは、『[ターゲット・システムでのコントローラーのマウス・カーソルの表示](#)』を参照してください。

#### クリア命令

すべてのガイダンスの描画および強調表示された領域を、ターゲット画面から削除します。

#### ワークステーションをロック

ターゲット・ワークステーションをロックします。

#### URL を開く

ターゲット・コンピューターのデフォルト Web ブラウザーで開く URL を入力します。URL を入力して、「OK」をクリックします。ターゲットのデフォルト・ブラウザが、指定された URL で開きます。

### プライバシーを使用可能にする

ターゲット・ユーザーに対して、ターゲット画面を非表示にします。システムは Remote Control のサービスを利用中であるというメッセージとともに、ターゲット画面には何も表示されなくなります。しかし、自分の画面上でターゲット・システムを操作することはできます。ローカルの入力および表示は、ターゲット・ユーザーに対してはロックされ、プライバシーが使用可能になっている間は、ターゲット・ユーザーはターゲット上で何も実行できなくなります。「プライバシーの有効化」が便利なのは、機密情報を扱うシステム上で作業する場合です。

### ターゲットの入力をロック

リモート・コントロール・セッションの間、ターゲット・ユーザーのマウスおよびキーボードをロックします。このメニュー項目は、セッションで「入力ロックの許可」ポリシーが有効になっている場合のみ選択可能です。ターゲット・ユーザーに対してはターゲット画面が引き続き表示されます。



**注:** プライバシーを有効にするオプションを選択すると、リモート・ユーザーの入力は自動的にロックされます。入力をロックせずにプライバシーを使用可能にすることはできません。

### レジストリー・キー

「レジストリ・キーの検索の許可」ポリシーまたは「レジストリ・キー・リストの表示」ポリシーがセッションで有効になっている場合のみ、使用可能です。「レジストリ・キー」をクリックすると、セッションに対して設定しているポリシーに応じて、レジストリー・キーのリストと、「キーを入力してください」項目が表示されます。ポリシーの編集について詳しくは、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。

**定義済みのレジストリー・キーのリストが表示されます。**

ターゲット上でキーの現在の値を確認するには、リスト中のそのキーをクリックします。キーは `trc.properties` ファイル内で定義され、リストされている名前は、ターゲット上の特定のレジストリ・キーに対応します。このプロパティ・ファイルの編集について詳しくは、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。

例えば、「レジストリ・キー」をクリックすると、「サービス」がリストで表示されることがあります。「サービス」をクリックすると、ターゲット上のすべてのサービスを表示した新しいウィンドウが開きます。

#### 特定のレジストリー・キーを入力するには

「キーを入力してください」項目を使用して、値を知りたい特定のレジストリー・キーを入力します。そのためには、以下のステップを実行します。

- 「レジストリ・キー」フィールドにキー値を入力します。例えば、以下のようになります。

```
HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\TRCTarget
```



**注:** 必ず、レジストリー・キーへの正確なパスを入力してください。

- 「表示」をクリックします。

新しいウィンドウが開き、ターゲットで定義された、指定されたキーの現行値がそこに表示されます。

### セッション・ログを保持

オンデマンド・セッション時に、「セッション・ログを保持」オプションを使用できます。セッションの終了時にセッション・ログをターゲット・コンピューターに保存できるかどうかを決定します。セッションの終了時にターゲット・コンピューター上のユーザーの作業ディレクトリー内にログを保存するには、「セッション・ログを保持」を選択します。ログは以下のフォーマットで保存されます。

```
trc_odt_trace_yyyymmdd_hhmmss.log.
```

例えば、`trc_odt_trace_20130531_130300.log` です。

「セッション・ログを保持」を選択しないと、セッションの終了時にログ・ファイルは削除されます。ただし、例えばネットワーク障害などの非ユーザー・イベントによってセッションが割り込まれた場合にも、ログ・ファイルが保存されます。



**注:** 「ターゲットでのアクションの実行」メニューは、使用されているオペレーティング・システムとセッションの接続モードに応じて変わる動的メニューです。メニューは、オペレーティング・システムおよびセッションでのポリシーに応じて無効にされることもあります。

## ターゲット・システム情報の取得

「システム情報を取得」を使用して、ターゲットに関する情報 (メモリーの量、ネットワーク接続のタイプなど) を取得し、表示します。

タスクバーの「システム情報を取得」  をクリックします。

`sysinfo.txt` というテキスト・ファイルがターゲット・マシン上に作成され、コントローラーに対して表示されます。

コントローラー・システムでは、このファイルは以下の場所に保存されます。

UNIX® システムの `$HOME`。

Windows® システムの `%USERPROFILE%\TRC_FT`。



**注:** セッションに設定されたポリシーによっては、ターゲット・ユーザーは、システム情報要求を受け入れるかまたは拒否するように求められる場合があります。拒否した場合、システム情報は表示されません。

## リモート・コントロール・セッション中のターゲット・ユーザーとのチャット

アクティブ・リモート・コントロール・セッション、ガイダンス・リモート・コントロール・セッション、およびモニター・リモート・コントロール・セッション中に、「「チャット・ウィンドウ」をオープン」オプションを選択して、ターゲット・ユーザーとチャットします。このオプションが使用可能であるかどうかは、チャット機能を有効にしているセッションに設定されたポリシーによって異なります。

リモート・コントロール・セッション中にターゲット・ユーザーとのチャットを開始するには、以下のステップを実行します。

1. 「「チャット・ウィンドウ」をオープン」をクリックします。



2. コントローラー・システムで Remote Control のチャット・ウィンドウが開き、チャット領域がターゲット・ウィンドウで開きます。
3. テキストを入力し、「送信」をクリックするか、**Enter** キーを押します。
4. 「クリア」をクリックすると、チャット・ウィンドウに入力されたテキストがすべて削除されます。
5. チャット・ウィンドウを閉じるには、ウィンドウの左上にある「X」をクリックします。



**注:** 「クリア」をクリックすると、コントローラー画面上のチャット・ウィンドウからテキストが削除されます。そのテキストは、ターゲット画面上のチャット・ウィンドウには残っています。

## リモート・コントロール・セッションへの複数の参加者の招待

リモート・コントロール・セッション中に、コラボレーション機能を使用して、セッションに参加するように他の参加者を招待します。接続しているターゲットでターゲット・ユーザーが支援を必要としていて、問題の解決のために追加的な支援が必要である場合に、この機能が有効です。セッションに参加するすべてのコントローラー・ユーザーが、ターゲット画面を表示できます。ターゲットとのコラボレーション・セッションを開始するコントローラーはマスター・コントローラーと呼ばれ、このユーザーがセッション内のアクティビティを制御します。例えば、参加を許可されるユーザー、参加可能な人数、またはセッションを制御できるユーザーを制御します。セッション内の他のすべてのコントローラーは、参加者と呼ばれます。新しいコントローラーがセッションに参加すると、それらのコントローラーはセッション・ウィンドウでターゲット画面を表示できますが、セッションを制御することはまったくできず、ターゲットを操作する必要がある場合は制御を要求する必要があります。コラボレーションのユーザー確認が有効である場合、ターゲット・ユーザーは、新しいコントローラーがセッションに参加できるかどうかについての最終決定権を持ちます。コラボレーション・セッションのタイプに応じて、「**コラボレーション要求に対するユーザー確認を有効にする**」サーバー・ポリシーまたは **ConfirmCollaboration** ターゲット・プロパティの値により、ターゲット・ユーザーがセッションへの参加の要求を受け入れるか、拒否するかが決まります。



## はい

ターゲット・ユーザーは、セッションへの参加の要求を受け入れるか拒否するかを尋ねられます。要求を受け入れた場合、新しいコントローラーがセッションに接続されます。拒否した場合、または指定された時間内に応答しなかった場合は、拒否のメッセージが表示され、新しいコントローラーはセッションに接続されません。



**注:** ターゲット・ユーザーが、指定された時間内に応答しなくても、「**受け入れタイムアウト時のアクション**」サーバー・ポリシーまたは **AcceptanceProceed** ターゲット・プロパティが PROCEED に設定されている場合は、セッションに接続されます。

## いいえ

ターゲット・ユーザーによるユーザー確認は必要とされず、新しいコントローラーは自動的にセッションに接続されます。

## サーバー UI を使用したコラボレーション・セッション

サーバー UI へのログオン時にコラボレーション・セッションを開始するには、該当するターゲットとのセッションを開始し、コラボレーションを開始して、他のユーザーがセッションに参加できるようにします。この機能を使用できるかどうかは、「**複数のコントローラーを許可**」サーバー・ポリシーに設定された値によって決まります。セッションの設定値は、コントローラー・ユーザーおよびターゲットが所属しているユーザー・グループおよびターゲット・グループの間に設定されたアクセス許可リンクから取得されます。セッションのポリシーおよびアクセス許可がどのように取得されるかについて詳しくは、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。

### 「はい」に設定

コントローラーのセッション・ウィンドウで「**複数のコントローラー用にコラボレーション・パネルを開く**」アイコンが使用可能になります。これを使用して、コラボレーション・セッションを開始します。これはデフォルト値です。

### 「いいえ」に設定

コントローラーのセッション・ウィンドウで「**複数のコントローラー用にコラボレーション・パネルを開く**」アイコンが使用不可になるため、コラボレーション・セッションを開始できません。

## サーバーから開始されたセッションでのコラボレーションの開始

Remote Control サーバー UI からコラボレーション・セッションを開始して、他のユーザーがセッションに参加できるようにするには、以下のステップを実行して、該当するターゲットとのセッションを開始し、マスター・コントローラーになります。

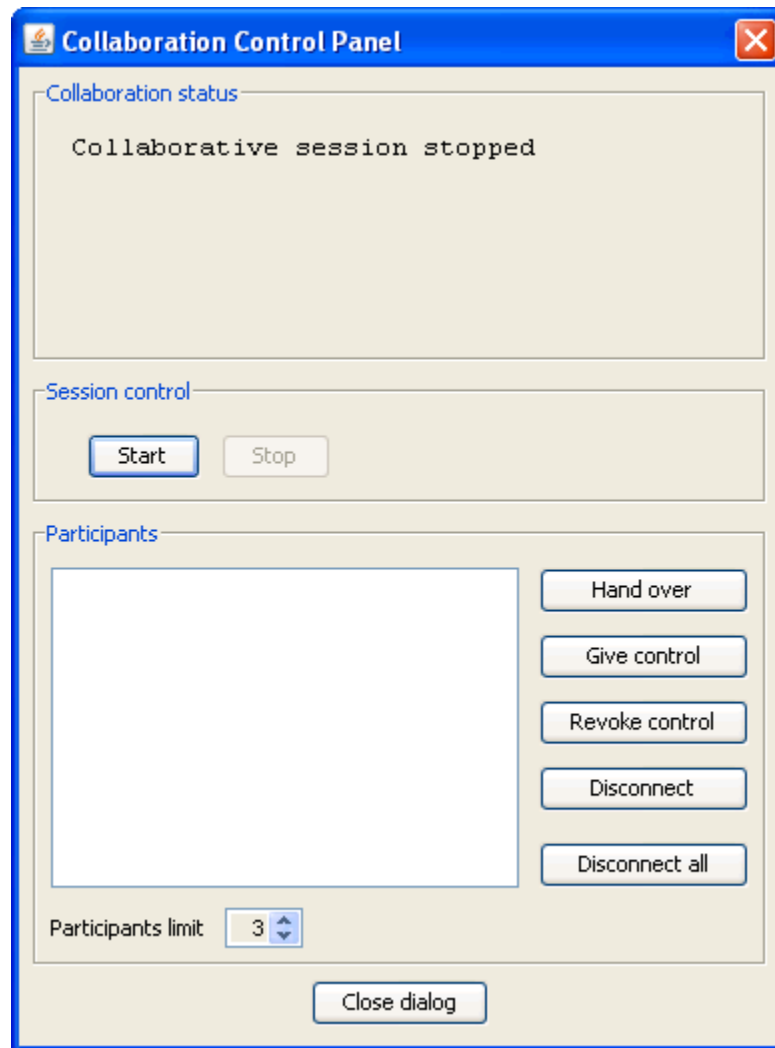
1. 目的の対象を含む対象レポートを生成します。  
例えば、All targets というレポートを生成します。
2. 必要なターゲットを選択します。
3. 「**セッションを開始**」を選択します。

- セッションが開始されたら、「複数のコントローラー用にコラボレーション・パネルを開く」をクリックします。



「コラボレーション制御パネル」が開きます。

図 1. 120mm コラボレーション制御パネル



- 「開始」をクリックします。

これでセッションのマスター・コントローラーになることができました。他のユーザーがセッションへの参加を要求できます。他のユーザーがセッションに参加したら、「コラボレーション制御パネル」内の機能を使用して、セッション内のアクティビティを制御します。詳しくは、[マスター・コントローラーとしてのセッション・アクティビティの制御](#)を参照してください。他の参加者からのセッション制御に対する要求の受け入れや拒否も行うことができます。

セッションの全制御を別のコントローラー・ユーザーに渡す場合は、「**ハンドオーバー**」をクリックします。この機能について詳しくは、[サーバーから開始したコラボレーション・セッションのハンドオーバー](#)を参照してください。

## Remote Control サーバーからのコラボレーション・セッションへの参加

ターゲットが既にリモート・コントロール・セッション中である場合、コラボレーションが開始されていれば、そのセッションへの参加を試みることができます。コラボレーション・セッションに参加することを選択すると、ユーザー確認が有効になっている場合は、セッションに受け入れられるかどうか、まずマスター・コントローラーによって判断され、次にターゲット・ユーザーによって判断されます。サーバー・ポリシー「**コラボレーション要求に対するユーザー確認を有効にする**」の値によって、ターゲット・ユーザー確認が必要であるかどうかが決まります。

コラボレーション・セッションに参加するには、以下の手順を実行します。

1. 目的の対象を含む対象レポートを生成します。例えば、`All targets` です。
2. 必要なターゲットを選択します。
3. 「**セッションを開始**」を選択します。  
ターゲットは既にセッション中であるが、複数の参加者を受け入れていることを示すメッセージが表示されます。
4. 「**参加**」をクリックします。

リモート・コントロール・セッションが開始すると、セッションへの参加が要求されたことを通知するメッセージがマスター・コントローラーに送信されます。マスター・コントローラーは、「はい」または「いいえ」を選択することによって、要求に応答することができます。

### はい

マスター・コントローラーが「はい」をクリックすると、コラボレーション・セッションに最終的に受け入れられるかどうかは、ターゲット・ユーザー、およびコラボレーションのユーザー確認が有効になっているかどうかによって決定されます。詳しくは、[リモート・コントロール・セッションへの複数の参加者の招待](#)を参照してください。

### いいえ

マスター・コントローラーが「いいえ」をクリックすると、セッションへの参加は許可されず、拒否のメッセージが表示されます。「**OK**」をクリックします。

コラボレーション・セッションに参加したユーザーは、マスター・コントローラーのコラボレーション制御パネルの参加者リストに表示されます。このセッションでマウスもキーボードも制御することはできませんが、チャット機能は使用することができます (セッションでこの機能が有効になっている場合)。コラボレーション・アイコンを使用して、セッションの制御を要求します。使用できるコラボレーション・アクションの詳細については、[参加者としてのセッション・アクティビティの制御](#)を参照してください。

## サーバーから開始したコラボレーション・セッションのハンドオーバー

コラボレーション・セッションのマスター・コントローラーは、ハンドオーバー機能を使用して、セッションの完全な制御を別の承認者に渡すことができます。

コラボレーション・セッション中に「ハンドオーバー」機能を使用して、セッションの完全な制御をセッション内の他のいずれかの承認者に渡します。その承認者がマスター・コントローラーになり、セッションを終了せずにそのままに維持することができます。この機能が使用できるかどうかは、サーバー・ポリシーの「セッション・ハンドオーバーを許可」の値によって決まります。

#### 「はい」に設定

コラボレーション制御パネルに「ハンドオーバー」ボタンが表示されます。

#### 「いいえ」に設定

コラボレーション制御パネルに「ハンドオーバー」ボタンは表示されません。

コラボレーション・セッションのコントロールを新しいマスター・コントローラーに渡すには、以下の手順を実行します。

1. コラボレーション制御パネルの承認者リストで目的のコントローラーを選択します。
2. 「ハンドオーバー」をクリックします。

ハンドオーバー要求の結果は、「コラボレーション要求に対するユーザー確認を有効にする」サーバー・ポリシーに設定された値によって決まります。

セッションでこのポリシーが「はい」に設定されている場合、ターゲット・ユーザーは、制御のハンドオーバー要求を受け入れるかまたは拒否するかを尋ねられます。ターゲット・ユーザーが要求を受け入れると、選択されたコントローラーにセッションの完全な制御が渡されます。ターゲット・ユーザーが拒否した場合、または時間内に応答しなかった場合は、拒否のメッセージが、要求者の画面と選択されたコントローラーの画面に表示されます。要求者がセッションのマスター・コントローラーのままとなります。「OK」をクリックします。



**注:** ターゲット・ユーザーが時間内に応答せず、「受け入れタイムアウト時のアクション」サーバー・ポリシーが PROCEED に設定されている場合、制御は新しいマスター・コントローラーに渡されます。

「コラボレーション要求に対するユーザー確認を有効にする」が「いいえ」に設定されている場合、ターゲット・ユーザーによるユーザー確認は必要なく、セッションの完全な制御が新しいマスター・コントローラーに渡されます。

セッションが新しいマスター・コントローラーにハンドオーバーされた場合、コラボレーション制御パネルが新しいマスター・コントローラーのシステム上に開きます。コラボレーション制御パネルに承認者のリストが表示されます。元のマスター・コントローラーはセッションの入力を制御できなくなります。新しいマスター・コントローラーの IP アドレスが、元のマスター・コントローラーのセッション・ウィンドウのウィンドウ・タイトルに表示されます。

新しいマスター・コントローラーのセッション・ウィンドウのウィンドウ・タイトルに、ターゲットの IP アドレスが表示されます。



**注:** セッションのポリシーは、セッションが開始されたときのままになります。コントローラー・ユーザーが変更されても、ポリシーは変更されません。セッションに設定された初期ポリシーは、どのユーザーがマスター・コントローラーになるかに関係なく、コラボレーション・セッション全体を通して有効になります。

## P2P コラボレーション・セッション

P2P リモート・コントロール・セッションは、ターゲット・プロパティ **AllowCollaboration** の値によって、コラボレーション機能を使用できるかどうかが決まります。

### 「はい」に設定

コントローラーのセッション・ウィンドウで「**複数のコントローラー用にコラボレーション・パネルを開く**」アイコンが使用可能になります。これを使用して、コラボレーション・セッションを開始します。これはデフォルト値です。

### 「いいえ」に設定

コントローラー・セッション・ウィンドウで「**複数のコントローラー用にコラボレーション・パネルを開く**」アイコンが使用不可になるため、コラボレーション・セッションを開始できません。

## P2P コラボレーション・セッションの開始

コラボレーション・セッションを開始して、他のユーザーがセッションに参加できるようにするには、以下のステップを実行して、該当するターゲットとの P2P セッションを開始し、マスター・コントローラーになります。

1. ターゲットとの P2P セッションを開始します。  
P2P セッションを開始する方法については、[P2P セッションの開始](#)を参照してください。
2. コントローラー・ウィンドウで「**複数のコントローラー用にコラボレーション・パネルを開く**」をクリックします  
(セッション開始時)。



「コラボレーション制御パネル」が開きます。これで、セッションのマスター・コントローラーになることができました。

図 2. 120mmコラボレーション制御パネル



3. 「開始」をクリックします。

このリモート・コントロール・セッションに、他のユーザーを参加させることができます。他のユーザーがセッションに参加したら、「コラボレーション制御パネル」内の機能を使用して、セッション内のアクティビティを制御します。詳しくは、[マスター・コントローラーとしてのセッション・アクティビティの制御](#)を参照してください。

セッションの全制御を別のコントローラー・ユーザーに渡す場合は、「ハンドオーバー」をクリックします。この機能について詳しくは、[P2P コラボレーション・セッションのハンドオーバー](#)を参照してください。



**注:** マスター・コントローラーは、新規コントローラーがセッションへの参加を要求するたびに、その要求を受け入れるかどうか決定するよう求められます。これらの要求を受け入れるかどうかの決定を求められないように、コントローラーを構成することができます。詳しくは、[マスター・コントローラーの受け入れウィンドウの非表示化](#)を参照してください。

## マスター・コントローラーへの接続による P2P コラボレーション・セッションへの参加

リモート・コントロール・セッションが、P2P モードでターゲットに直接接続することによって開始された場合、コラボレーションが開始されていれば、このセッションへの参加を試みることができます。このセッションに受け入れられるかどうかは、設定されたポリシーの値に応じて、マスター・コントローラーおよびターゲット・ユーザーによって判断されます。セッションのマスター・コントローラーに接続することによって、P2P リモート・コントロール・セッションに参加することができます。

マスター・コントローラーに接続することによって P2P コラボレーション・セッションに参加するには、マスター・コントローラーの IP アドレスと listen ポートを取得する必要があります。これらの値は、マスター・コントローラーがコラボレーションを開始すると、そのマシンのコラボレーション制御パネルに表示されます。

コラボレーション・セッションに参加しようとするとき、ユーザーがセッションに受け入れられるかどうかは、まずマスター・コントローラーによって判断され、次にターゲット・ユーザーによって判断されます。ターゲット・プロパティ **ConfirmCollaboration** に設定された値によって、ターゲット・ユーザー確認が必要であるかどうかが決まります。

コラボレーション・セッションに参加するには、P2P セッションを開始し、マスター・コントローラー・マシンの IP アドレスおよびポートを入力します。



**注:** コラボレーション・セッションでは、マスター・コントローラーのみがターゲットに接続しますが、他のコントローラーはマスター・コントローラーに接続します。マスター・コントローラーへの接続に使用されるポートは、「スタート」ボタンをクリックした後にコラボレーション制御パネルで報告されます。

P2P セッションを開始する方法については、を参照してください。 [P2P セッションの開始](#)

リモート・コントロール・セッションが開始すると、セッションへの参加が要求されたことを通知するメッセージがマスター・コントローラーに送信されます。マスター・コントローラーは、「はい」または「いいえ」を選択することによって、要求に応答することができます。

### はい

マスター・コントローラーが「はい」をクリックすると、コラボレーション・セッションに最終的に受け入れられるかどうかは、ターゲット・ユーザー、およびコラボレーションのユーザー確認が有効になっているかどうかによって決定されます。詳しくは、[リモート・コントロール・セッションへの複数の参加者の招待](#)を参照してください。

### いいえ

マスター・コントローラーが「いいえ」をクリックすると、セッションへの参加は許可されず、拒否のメッセージが表示されます。「OK」をクリックします。

P2P コラボレーション・セッションに参加すると、セッション・ウィンドウのタイトルにマスター・コントローラーの IP アドレスが表示されます。参加したユーザーは、マスター・コントローラーのコラボレーション制御パネルの参加者リストに表示されます。コラボレーション・アイコンを使用して、セッションの制御を要求します。使用

できるコラボレーション・アクションの詳細については、[参加者としてのセッション・アクティビティの制御](#)を参照してください。

## ターゲットへの接続による P2P セッションへの参加

ターゲットが既に P2P リモート・コントロール・セッションに参加している場合は、コラボレーションが開始されており、ターゲットのプロパティが **Managed = No** かつ **CheckUserLogin=Yes** であれば、このセッションへの参加を試行できます。このセッションに受け入れられるかどうかは、設定されたユーザー確認プロパティの値に応じて、マスター・コントローラーとターゲット・ユーザーによって決定されます。

ターゲットに接続することで P2P コラボレーション・セッションに参加するには、以下のステップを実行します。

1. P2P セッションを開始し、ターゲット・マシンの IP アドレスとポートを入力します。  
P2P セッションを開始する方法について詳しくは、[P2P セッションの開始](#)
2. 「参加」をクリックします。

リモート・コントロール・セッションが開始すると、セッションへの参加が要求されたことを通知するメッセージがマスター・コントローラーに送信されます。マスター・コントローラーは、「はい」または「いいえ」を選択することによって、要求に応答することができます。

### はい

マスター・コントローラーが「はい」をクリックすると、コラボレーション・セッションに最終的に受け入れられるかどうかは、ターゲット・ユーザー、およびコラボレーションのユーザー確認が有効になっているかどうかによって決定されます。詳しくは、[リモート・コントロール・セッションへの複数の参加者の招待](#)を参照してください。

### いいえ

マスター・コントローラーが「いいえ」をクリックすると、セッションへの参加は許可されず、拒否のメッセージが表示されます。「OK」をクリックします。

P2P コラボレーション・セッションに参加すると、セッション・ウィンドウのタイトルにマスター・コントローラーの IP アドレスが表示されます。参加したユーザーは、マスター・コントローラーのコラボレーション制御パネルの参加者リストに表示されます。

## P2P コラボレーション・セッションのハンドオーバー

P2P コラボレーション・セッション中に、**ハンドオーバー**機能を使用して、セッション内の他の参加者のいずれか 1 人に完全にセッションの制御を渡します。その承認者がマスター・コントローラーになり、セッションを終了せずにそのままに維持することができます。P2P コラボレーション・セッション中にこの機能が使用可能であるかどうかは、**AllowHandover** ターゲット・プロパティによって決まります。

### 「はい」に設定

「ハンドオーバー」ボタンがコラボレーション制御パネルに表示されます。

### 「いいえ」に設定

「ハンドオーバー」ボタンはコラボレーション制御パネルに表示されません。



コラボレーション・セッションの制御を新しいマスター・コントローラーに渡すには、以下のステップを実行します。

1. コラボレーション制御パネルの参加者リストで目的のコントローラーを選択します。
2. 「ハンドオーバー」をクリックします。

ハンドオーバー要求の結果は、**ConfirmCollaboration** ターゲット・プロパティに設定された値によって決まります。

セッションでこのプロパティが Yes に設定されている場合、ターゲット・ユーザーは、制御のハンドオーバー要求を受け入れるかまたは拒否するかを尋ねられます。ターゲット・ユーザーが要求を受け入れると、選択されたコントローラーにセッションの完全な制御が渡されます。ターゲット・ユーザーが拒否した場合、または指定された時間内に応答しなかった場合は、拒否のメッセージが、要求者の画面と選択されたコントローラーの画面に表示され、要求者がセッションのマスター・コントローラーのままとなります。「OK」をクリックします。



**注:** 指定された時間内にターゲット・ユーザーが応答しなくても、**AcceptProceed** ターゲット・プロパティが PROCEED に設定されている場合は、制御が新しいマスター・コントローラーに渡されます。

**ConfirmCollaboration** が No に設定されている場合は、ターゲット・ユーザーによるユーザー確認は必要なく、セッションの完全な制御が新しいマスター・コントローラーに渡されます。

セッションが新しいマスター・コントローラーにハンドオーバーされた場合、コラボレーション制御パネルが新しいマスター・コントローラーのシステム上に開きます。コラボレーション制御パネルに承認者のリストが表示されます。元のマスター・コントローラーはセッションの入力を制御できなくなります。新しいマスター・コントローラーの IP アドレスが、元のマスター・コントローラーのセッション・ウィンドウのウィンドウ・タイトルに表示されます。

新しいマスター・コントローラーのセッション・ウィンドウのウィンドウ・タイトルに、ターゲットの IP アドレスが表示されます。

## ブローカー経由で接続されたセッション中のコラボレーション

ブローカーを使用して接続を確立して開始されたリモート・コントロール・セッション中は、他の参加者がセッションに参加できるように、コラボレーション機能を使用します。

ブローカー・リモート・コントロール・セッション中にコラボレーション機能を使用できるかどうかを判断するために、サーバー・ポリシー「**複数のコントローラーを許可**」が使用されます。セッションに対して設定される値は、コントローラー・ユーザーおよびターゲットの所属先のユーザー・グループおよびターゲット・グループに対して定義されているアクセス権リンクから取得されます。セッションのポリシーおよびアクセス許可がどのように取得されるかについて詳しくは、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。

### 「はい」に設定

コントローラーのセッション・ウィンドウで「**複数のコントローラー用にコラボレーション・パネルを開く**」アイコンが使用可能になります。このアイコンを使用して、コラボレーション・セッションを開始します。デフォルト値は「はい」です。

#### 「いいえ」に設定

コントローラーのセッション・ウィンドウで「**複数のコントローラー用にコラボレーション・パネルを開く**」アイコンが使用不可になるため、コラボレーション・セッションを開始できません。

ハンドオーバー機能を使用して、コラボレーション・セッションの全制御権を新規のマスター・コントローラーに渡すことができます。

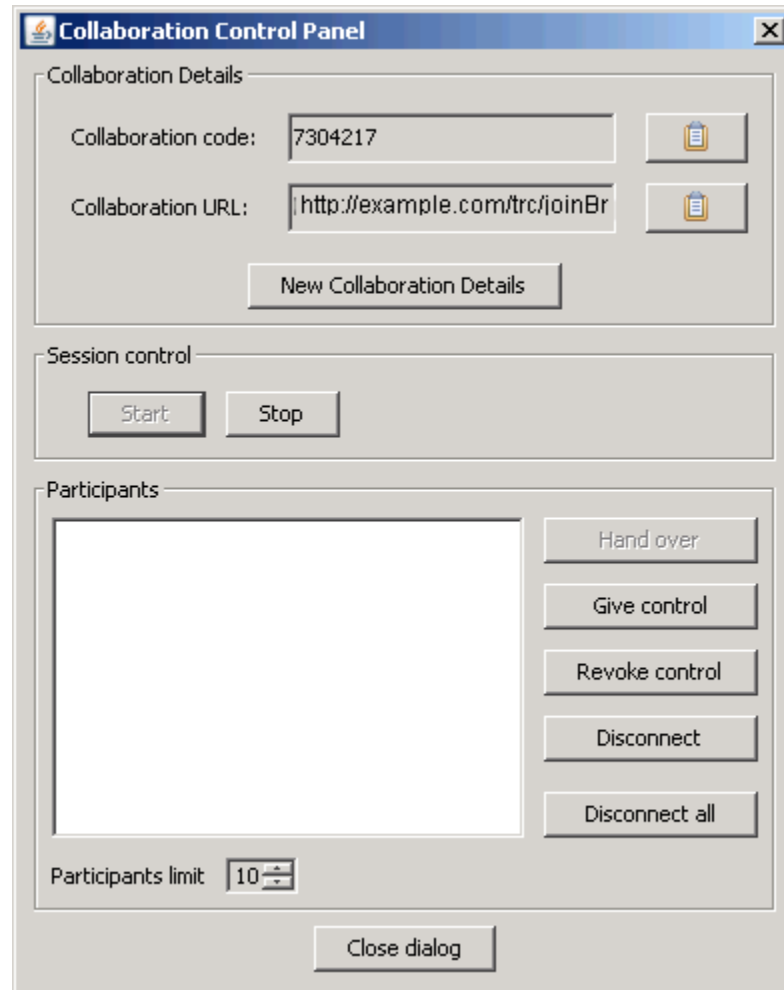
## ブローカー・リモート・コントロール・セッション中のコラボレーションの開始

コラボレーション・セッションを開始して、他のユーザーがセッションに参加できるようにするには、以下のステップを実行して、該当するターゲットとのブローカー・セッションを開始し、マスター・コントローラーになります。

1. ブローカー・リモート・コントロール・セッションを開始します。  
これを行うために必要なステップについては、[ブローカーを使用したリモート・コントロール・セッションの開始](#)を参照してください。
2. セッションが開始されたら、「**複数のコントローラー用にコラボレーション・パネルを開く**」をクリックします。

「コラボレーション制御パネル」が開きます。

図 3. ブローカー経由で接続するコラボレーション・セッションの「コラボレーション制御パネル」



3. 「開始」をクリックします。

コラボレーション・コードと URL が、「コラボレーション制御パネル」の「コラボレーションの詳細」セクションに表示されます。これらの値を、コラボレーション・セッションに参加する必要がある新規コントローラーに通知します。



**注:** クリップボード・アイコンを使用して、接続コードと URL をクリップボードにコピーすることができます。

必要に応じて新規の接続コードと URL を取得するには、「新規コラボレーションの詳細」をクリックします。

これでセッションのマスター・コントローラーになることができました。他のユーザーがセッションへの参加を要求できます。他のユーザーが参加できるようにするための要件について詳しくは、[ブローカー・コラボレーション・セッションへの参加](#)を参照してください。他のユーザーがセッションに参加したら、「コラボレーション制御パネ

ル」内の機能を使用して、セッション内のアクティビティを制御します。詳しくは、[マスター・コントローラーとしてのセッション・アクティビティの制御](#)を参照してください。

## ブローカー・コラボレーション・セッションへの参加

接続の実行にブローカーを使用して開始されたリモート・コントロール・セッションの場合、コラボレーションが開始されているれば、マスター・コントローラーから接続コードまたは URL を取得することで、このセッションに参加できます。



**注:** ターゲットが既にセッションに参加しており、ブローカーを使用して接続されていて、コラボレーションが開始されている場合は、サーバー UI のセッション開始オプションを使用してこのターゲットとのリモート・コントロール・セッションの開始を選択すると、セッションに参加するためのオプションが表示されます。この方法によるコラボレーションの参加について詳しくは、[Remote Control サーバーからのコラボレーション・セッションへの参加](#)を参照してください。

## 接続コードを使用したコラボレーション・セッションへの参加

コラボレーションが開始されているれば、ブローカー・リモート・コントロール・セッション中に、Remote Control サーバー UI から接続コードを使用してこのセッションに参加できます。

セッションに参加するには、コラボレーション・セッションのマスター・コントローラーから接続コードを取得する必要があります。

ブローカー・コラボレーション・セッションへの参加を選択した際にユーザーの受け入れが有効になっていると、セッションへの受け入れが、まずマスター・コントローラーによって決定され、次にターゲット・ユーザーによって決定されます。サーバー・ポリシー「[コラボレーション要求に対するユーザー確認を有効にする](#)」の値によって、ターゲット・ユーザー確認が必要であるかどうかが決まります。

ブローカー・コラボレーション・セッションに参加するには、以下の手順を実行します。

1. 「ターゲット」 > 「ブローカー・セッションへの参加」をクリックします。
2. 接続コードを入力し、「送信」をクリックします。  
コントローラー・コンポーネントが開始されます。



**注:** コードが無効な場合は、メッセージが表示されます。有効なコードを取得して入力してください。

「セッションに参加」ウィンドウで「キャンセル」をクリックすると、前に表示されていたウィンドウに戻ることができます。

リモート・コントロール・セッションが開始すると、セッションへの参加が要求されたことを通知するメッセージがマスター・コントローラーに送信されます。マスター・コントローラーは、「はい」または「いいえ」を選択することによって、要求に応答することができます。

**はい**

マスター・コントローラーが「はい」をクリックすると、コラボレーション・セッションに最終的に受け入れられるかどうかは、ターゲット・ユーザー、およびコラボレーションのユーザー確認が有効になっているかどうかによって決定されます。詳しくは、[リモート・コントロール・セッションへの複数の参加者の招待](#)を参照してください。

### いいえ

マスター・コントローラーが「いいえ」をクリックすると、セッションへの参加は許可されず、拒否のメッセージが表示されます。「OK」をクリックします。

## 接続 URL を使用したブローカー・コラボレーション・セッションへの参加

コラボレーションが開始されていれば、ブローカー・リモート・コントロール・セッション中に、セッションのマスター・コントローラーから取得した接続 URL を使用して、このセッションに参加できます。

セッションに参加するには、コラボレーション・セッションのマスター・コントローラーから URL を取得します。

ブローカー・コラボレーション・セッションへの参加を選択した際にユーザーの受け入れが有効になっていると、セッションへの受け入れが、まずマスター・コントローラーによって決定され、次にターゲット・ユーザーによって決定されます。サーバー・ポリシー「**コラボレーション要求に対するユーザー確認を有効にする**」の値によって、ターゲット・ユーザー確認が必要であるかどうかが決まります。

セッションに参加するには、ブラウザのアドレス・フィールドに接続 URL を入力して、Enter キーを押します。

Remote Control サーバー UI にまだログオンしていない場合は、ログオン・ウィンドウが表示されます。有効な ID とパスワードを使用してログオンします。コントローラー・コンポーネントが開始されます。

リモート・コントロール・セッションが開始すると、セッションへの参加が要求されたことを通知するメッセージがマスター・コントローラーに送信されます。マスター・コントローラーは、「はい」または「いいえ」を選択することによって、要求に応答することができます。

### はい

マスター・コントローラーが「はい」をクリックすると、コラボレーション・セッションに最終的に受け入れられるかどうかは、ターゲット・ユーザー、およびコラボレーションのユーザー確認が有効になっているかどうかによって決定されます。詳しくは、[リモート・コントロール・セッションへの複数の参加者の招待](#)を参照してください。

### いいえ

マスター・コントローラーが「いいえ」をクリックすると、セッションへの参加は許可されず、拒否のメッセージが表示されます。「OK」をクリックします。

## ブローカーが関与するコラボレーション・セッションのハンドオーバー

ブローカーが関与するコラボレーション・セッション中に、他の参加者にセッションの全制御を渡すことができます。

コラボレーション・セッション中に「**ハンドオーバー**」機能を使用して、セッションの完全な制御をセッション内の他のいずれかの承認者に渡します。その承認者がマスター・コントローラーになり、セッションを終了せずにそのままに維持することができます。この機能が使用できるかどうかは、サーバー・ポリシーの「**セッション・ハンドオーバーを許可**」の値によって決まります。

ブローカーが関与するセッションで**ハンドオーバー**機能を使用するためのポリシーとステップについては、[サーバーから開始したコラボレーション・セッションのハンドオーバー](#)を参照してください。

## コラボレーション・セッション・アクティビティーの制御

コラボレーション・セッションが開始されており、複数の参加者がいる場合、様々なアクションを実行できます。マスター・コントローラーは、一時的または完全にセッションの制御を別の参加者に渡すことができ、参加者の接続を切断することもできます。その他の参加者は、セッションの制御を要求できます。

## マスター・コントローラーとしてのセッション・アクティビティーの制御

コラボレーション・セッションを開始して、マスター・コントローラーになった後は、コラボレーション制御パネルの以下のオプションを使用して、セッション・アクティビティーを制御できます。

### ハンドオーバー (HandOver)

このオプションを使用して、セッションの完全な制御を新しいマスター・コントローラーに渡します。

1. 参加者リストから参加者を選択します。
2. 「**ハンドオーバー**」をクリックします。

参加者をリストするコラボレーション制御パネルが新しいマスター・コントローラーのシステム上に開き、元のマスター・コントローラーはセッションの入力を制御できなくなります。新しいマスター・コントローラーの IP アドレスが、元のマスター・コントローラーのセッション・ウィンドウのウィンドウ・タイトルに表示されます。このオプションが使用できるかどうかは、開始されたコラボレーション・セッションのタイプに応じて、サーバー・ポリシーまたはターゲット・プロパティーの値によって決まります。



**注:** このオプションは、接続の作成にブローカーを使用して開始されたコラボレーション・セッションでは使用できません。

### 制御を渡す

このオプションを使用して、参加者を選択し、セッションの制御をその参加者に渡します。要求者がセッションのマスター・コントローラーのままとなります。

1. 参加者リストから参加者を選択します。
2. 「**制御を渡す**」をクリックします。

選択された参加者が、セッションおよびターゲットの制御権を持つようになり、コントローラー・ウィンドウで使用可能なツールおよびアクションを使用できるようになります。また、その参加者は、セッ

セッション・プルダウンからセッション・タイプを選択することにより、セッション・タイプを変更することもできます。



**注:** 自分はセッションの制御権を失い、自分のコントローラー・ウィンドウで、アクションの一部が非アクティブになります。

### 制御を取り消し

このオプションを使用して、いつでもセッションの制御を取り戻すことができます。そのためには、以下のステップを実行します。

1. リストから参加者を選択します。
2. 「**制御を取り消し**」をクリックします。

これで、自分がセッションの制御権を持つことになります。自分のコントローラー・ウィンドウのアクションがアクティブになります。選択された参加者は制御権を失います。

### 切断

このオプションを使用して、いつでも 1 人以上の参加者をセッションから切断することができます。そのためには、以下のステップを実行します。

1. 対象となる 1 人以上の参加者を選択します。
2. 「**切断**」をクリックします。

選択された参加者は、セッションがキャンセルされたというメッセージを受け取ります。それらの参加者が「**OK**」をクリックすると、参加者のセッションは終了します。

### すべて切断

このオプションを使用して、いつでもセッションからすべての参加者を切断することができます。すべての参加者は、セッションがキャンセルされたというメッセージを受け取ります。

### 承認者制限

このオプションを使用して、セッションへの参加を許可される参加者の最大数を設定します。その数は 1 から 10 までの範囲で設定され、コラボレーション・セッションが確立されるたびにデフォルト値として 3 が設定されます。この値は、セッション中にいつでも変更することができます。コントローラーがセッションへの参加を試みたときに、制限に既に達している場合、そのコントローラーは、「参加」をクリックすると以下のメッセージを受け取ります。 `Session rejected because the limit has been reached`



**注:** 接続の作成にブローカーを使用して開始されたコラボレーション・セッションの場合、許可される参加者の最大数は 20 であり、デフォルト値は 10 です。

## 参加者としてのセッション・アクティビティの制御

コラボレーション・セッションの参加者は、セッションの制御を要求することができ、制御をマスター・コントローラーに戻すこともできます。セッションの制御を要求したり戻したりするには、以下のステップを実行します。

1. コントローラー・ウィンドウで「**複数のコントローラー用にコラボレーション・パネルを開く**」をクリックします。  
「コラボレーション制御パネル」が開きます。
2. 必要なオプションをクリックします。

### 制御の要求 (Request control)

このオプションを使用して、コラボレーション・セッションの制御を要求します。マスター・コントローラーは、以下のメッセージを受け取ります。要求を受け入れるか拒否するためのオプションも表示されます。メッセージは「`aaa.aaa.aaa` のユーザー `XXXXX` からのセッション制御取得要求を受け入れますか?

ここで、`XXXXX` は制御を要求している参加者のユーザー ID、`aaa.aaa.aaa` は参加者のマシンの IP アドレスです。

マスター・コントローラーが「はい」をクリックすると、要求者がセッションの制御権を持つことになります。

マスター・コントローラーが「いいえ」をクリックすると、要求者は以下のメッセージを受け取り、セッションの制御は渡されません。メッセージは「セッション制御の要求は拒否されました」です。続行するには、「OK」をクリックしてください。

### 制御を戻す (Return control)

このオプションを使用して、セッションの制御をマスター・コントローラーに戻します。これで、自分はセッションの制御権を失います。



**注:** コラボレーション制御パネルが開いていない場合は、コントローラー・ウィンドウのツールバーで「**複数のコントローラー用にコラボレーション・パネルを開く**」アイコンをクリックします。

## コラボレーション・セッションの終了

コラボレーション制御パネルで「**停止**」をクリックすると、いつでもコラボレーション・セッションを終了させることができます。セッション内のすべての参加者の接続が自動的に切断され、参加者はセッションがキャンセルされたというメッセージを受け取ります。

## 切断時のコラボレーション・セッションの終了

コラボレーションが開始されたセッションを終了するときに、セッションを維持するか、セッションを切断するかを選択できます。

リモート・コントロール・セッションを以下の方法で終了できます。



- ・タスクバーの「接続」アイコンをクリックする。
- ・コントローラー・ウィンドウの右上にある「X」をクリックする。



セッション内でコラボレーションが開始されていると、セッションのマスター・コントローラーに、コラボレーションが進行中であるという警告が出されます。以下のメッセージが表示されます。 コラボレーション・セッションが進行中です。切断すると、セッションが終了します。セッションを開いたままにしますか？

切断してセッションを終了するか、マスター・コントローラーとしてセッションを維持するかのいずれかを選択することができます。

### キャンセル

「キャンセル」をクリックすると、コラボレーション・セッションが続行し、マスター・コントローラーの状態が維持されます。

### セッションの切断

「セッションの切断」をクリックすると、コラボレーション・セッションが終了し、すべての参加者が切断されます。

## コラボレーションおよびハンドオーバー監査イベント

コラボレーション・セッションおよびハンドオーバー・セッションで、以下の監査イベントが報告されます。

### コントローラーから

表 4. コントローラーからのイベント


イベント ID	イベント記述
Audit.handover.request	参加者 {0} へのセッション・ハンドオーバーを要求しました (Requested session handover to participant {0})
Audit.handover.request.granted	セッション・ハンドオーバーが受け入れられました (Session handover accepted)
Audit.handover.request.rejected	セッション・ハンドオーバーが拒否されました (Session handover rejected)
Audit.handover.success	ハンドオーバーが成功しました (Handover was successful.)。参加者 {0} が新しいセッション所有者です (Participant {0} is the new session owner)
Audit.handover.reconnect	参加者 {0} が Remote Control セッションに再接続されました (Participant {0} reconnected to the Remote Control session)

### 対象から

表 5. 対象からのイベント

イベント ID	イベント記述
ibm.trc.audit.0050	コラボレーション要求が拒否されました (Collaboration request rejected.). GUI が実行されていません。proceed==FALSE (GUI is not running and proceed==FALSE.).
ibm.trc.audit.0051	コラボレーション要求が受け入れられました (Collaboration request accepted.). GUI が実行されていません。proceed==TRUE (GUI is not running and proceed==TRUE.).
ibm.trc.audit.0052	コラボレーション要求がユーザー {0} によって拒否されました (Collaboration request rejected by the user {0})
ibm.trc.audit.0053	コラボレーション要求がユーザー {0} によって受け入れられました (Collaboration request accepted by the user {0})
ibm.trc.audit.0054	コラボレーション・セッション・ハンドオーバー要求が設定によって拒否されました (Collaboration Session Handover request rejected by settings)
ibm.trc.audit.0055	コラボレーション・セッション・ハンドオーバー要求が設定によって承認されました (Collaboration Session Handover request approved by settings)
ibm.trc.audit.0056	コラボレーション・セッション・ハンドオーバー要求がユーザー {0} によって拒否されました (Collaboration Session Handover request rejected by user {0})
ibm.trc.audit.0057	コラボレーション・セッション・ハンドオーバー要求がユーザー {0} によって承認されました (Collaboration Session Handover request approved by user {0})
ibm.trc.audit.0058	コラボレーション・セッション・ハンドオーバーがリモート・ユーザー {0} によって要求されました (Collaboration Session Handover requested by remote user {0})
ibm.trc.audit.0059	コラボレーション・セッション・ハンドオーバーが完了しました (Collaboration Session Handover completed.). ユーザー {0} が現在コントロール中です (User {0} is now in control)

## コントローラー・ツール・メニューで使用可能なツール

コントローラー・ツール・メニューは、リモート・コントロール・セッション中に使用できるいくつかの機能を提供します。それらの機能にアクセスするには、「**コントローラー・ツール**」 をクリックします。

使用可能なオプションは次のとおりです。

- クイック・テキスト入力ボックス。
- 画面をキャプチャー
- セッション情報の表示

## リモート・コントロール・セッション中における画面のキャプチャー

「画面をキャプチャー」機能を使用して、ターゲット画面がセッションで表示されるときにその画面のスナップショット画像を取ることができます。キャプチャーされた画像はシステムに保存され、問題解決に役立てることができます。例えば、Eメールに添付して別のサポート・エージェントに送信できます。

ターゲット画面をキャプチャーするには、以下の手順を実行します。

1. 「コントローラー・ツール」をクリックします。
2. 「画面をキャプチャー」を選択します。「画面をキャプチャーしたファイルを保管」ウィンドウが開きます。
3. 「保存先」を使用して、画像を保存する場所にナビゲートします。
4. ファイルの名前を入力するか、指定された名前を受け入れます。
5. 「保存」をクリックします。



**注:** 「キャンセル」をクリックすると、キャプチャーされた画面の画像は保存されません。

## ターゲット画面へのテキストのクイック入力の使用可能化

パス名またはコマンドを入力したり、ファイルにテキストを追加したりするなど、ターゲット画面にテキストを入力する必要がある場合、「クイック・テキスト入力ボックス」を使用して、必要なフルテキストを入力します。Enterを押すと、テキストはターゲット・システムに送信されます。このオプションは、ローカル入力を使用可能になっている場合のみ使用できます。「クイック・テキスト入力ボックス」を選択すると、キーを押すたびにテキスト入力ボックスが開きます。この機能を使用して、コントローラーとターゲットのキーボード・レイアウトの違いを補正することができます。例えば、コントローラーが英語キーボードで、ターゲットがフランス語キーボードである場合があります。「クイック・テキスト入力ボックス」機能を使用するには、以下の手順を実行します。

1. 「コントローラー・ツール」をクリックします。
2. 「クイック・テキスト入力ボックス」を選択します。
3. セッション・ウィンドウで、テキストを入力する場所をクリックし、入力する最初の文字のキーを押します。

「クイック・テキスト入力ボックス」が表示されます。3つの方法を使用して、必要なテキストの入力を続行できます。

### テキストを入力して Enter を押す

必要なテキストを入力して **Enter** を押します。テキストがターゲット画面に入力されます。

### テキストを入力してテキストをお気に入りリストに割り当てる

よく使用するテキスト・ストリングのリストをお気に入りとして保持します。これらはそれぞれ、0 から 9 までの番号を割り当てたスロットに保管されます。テキスト・ストリングをお気に入りリストに割り当てするには、以下の手順を実行します。

- 必要なテキストを入力して **CTRL+SHIFT+n** を押します。ここで *n* は 0 から 9 までの番号です。  
例えば、CTRL+SHIFT+2 を押します。
- **Enter** キーを押します。

テキストは、入力した番号によって定義されるスロットに割り当てられます。



**注:** お気に入りリストは、セッションの期間内に限り保持されます。

### 以前入力したテキストを取得する

以前入力したストリングを取得します。入力ボックスには、最近入力されたテキストの履歴が保持されます。これは 2 つの方法で実行できます。

#### テキスト・ストリングを循環表示する

上矢印または下矢印キーをクリックして、以前入力したテキスト・ストリングを循環表示します。

#### お気に入りからストリングを取得する

お気に入りリストからストリングを取得するには、**CTRL+n** をクリックします。ここで *n* は、ストリングがお気に入りには割り当てられたときに、ストリングに割り当てられたスロットの番号です。例えば、CTRL+2 をクリックすると、スロット 2 に保存されたストリングが取得されます。**ENTER** を押すと、テキストがターゲットに送信されます。



**注:**

1. クイック・テキスト入力では Unicode ストリングを投入し、また接続が遅い場合にテキスト入力に役立つということも意図されています。
2. テキスト入力ボックスは、ターゲットでは見ることができません。

## セッション情報の表示

「**セッション情報の表示**」機能を使用して、接続されているターゲットの特定の IP アドレスと、セッション中に使用されている暗号化タイプを表示します。

セッション情報を表示するには、以下の手順を実行します。

1. 「**コントローラー・ツール**」をクリックします。
2. 「**セッション情報の表示**」を選択します。

「セッション情報」ウィンドウが開き、ターゲットの IP アドレスと、セッション中に使用されている暗号化タイプが表示されます。「クローズ」をクリックします。

## リモート・コントロール・セッションの記録

記録機能を使用して、リモート・コントロール・セッション中のセッション・アクティビティを記録することができます。これは監査および教育の目的に役立てることができます。

2 つのタイプの記録を実行できます。

### 自動記録

管理者によって設定される「**セッション記録を強制**」サーバー・ポリシーの値によって決定されます。現行セッションで「**セッション記録を強制**」が使用可能に設定されている場合は、すべてのセッション・アクティビティはセッションの進行中に記録され、セッションの終了時にサーバーに保存されます。セッションの記録は「**セッション詳細**」画面で再生できます。セッション記録の再生の詳細については、[セッションの詳細の表示](#)を参照してください。サーバー・ポリシーは、セッションがコントローラーまたはターゲットのどちらによって記録されるか、および記録を保存する場所を決定するために使用されます。サーバー・ポリシーの詳細については、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。

### ローカル記録

管理者によって設定される「**ローカル記録機能の許可**」サーバー・ポリシーの値によって決定されます。このポリシーが現行セッションで使用可能に設定されている場合、セッション・アクティビティを記録してシステムに保存できます。サーバー・ポリシーの詳細については、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。

## サーバーからの記録のエクスポートおよびダウンロード

リモート・コントロール・セッションの記録がサーバーに保存された後に、「**セッション記録のエクスポート**」機能を使用して、記録を自分のシステムにエクスポートおよび保存します。

この関数は、以下のような場合に役立ちます。

- セッション中にローカルの記録が作成されなかった場合
- 教育またはトレーニングの目的で記録を使用したい場合

1 つ以上の記録をエクスポートするには、以下のステップを実行します。

1. 「**セッション**」 > 「**ユーザーのセッション履歴**」をクリックします。



**注:** 管理者であれば、「**セッション**」 > 「**すべてのセッション履歴**」をクリックすることもできます。

2. 1 つ以上のセッションを選択してください。

### 3. 「セッション記録のエクスポート」を選択するための適切な方法を選択します。

- 左方のアクション・リストから「セッション記録のエクスポート」をクリックします。
- または、「セッション」>「セッション記録のエクスポート」をクリックします。

保存された記録のリストが表示されます。



**注:** 記録のエクスポート機能がサーバーで使用可能になっていない場合は、以下のメッセージが表示されます。

記録のエクスポート機能は使用不可です。この機能を使用可能にする方法について詳しくは、資料を参照してください。

. 記録のエクスポート機能の使用可能化について詳しくは「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。

### 4. 該当するファイル圧縮を選択します。

#### 可逆

まったく詳細を失うことなくファイルを圧縮します。このオプションの方が、ファイルのサイズは大きくなります。高画質である必要がある場合、または教材を提供するための編集を目的として記録が使用される可能性がある場合は、このファイル・タイプを選択します。このタイプの記録を再生するには、QuickTime コーデックをインストールする必要があります。

#### 圧縮

ファイルを圧縮しますが、その際に、ごく軽微な詳細が失われます。このオプションの方が、ファイルのサイズは小さくなります。表示のみを目的とする記録の場合は、このファイル・タイプを選択します。このタイプの記録を再生するには、Xvid コーデックをインストールする必要があります。コーデックは、[Xvid.org: Home of the Xvid Codec](http://Xvid.org) Web サイトで入手できます。

選択した圧縮手法に応じて、「**ファイル名**」フィールドにファイル名と拡張子が取り込まれます。

#### filename

SSS-*nnnnnnnn* 形式で示します。

#### SSS

セッション ID。

#### *nnnnnnnn*

ターゲットのコンピューター名。

For example, 152-mytarget

#### ファイル拡張子

.mov または .avi です。

#### .mov

ファイル圧縮に「可逆」が選択されている場合に適用されます。

.avi

ファイル圧縮に「圧縮」が選択されている場合に適用されます。

5. 「**記録のエクスポート**」をクリックします。  
記録がエクスポートされると、状況は「エクスポート済み」に変わり、「**ダウンロード**」オプションが使用可能になります。
6. 「**ダウンロード**」をクリックします。
7. 「**保存**」をクリックします。
8. 「**名前を付けて保存**」ウィンドウで、記録ファイルの保存先とする該当のロケーションを参照します。提示された名前を変更するか、またはそのままにして、「**保存**」をクリックすることができます。



**注:** 「**キャンセル**」をクリックした場合、ファイルはダウンロードされません。

BigFix® Remote Control サーバー から記録がエクスポートおよびダウンロードされ、ローカル・システムに保存されました。確実に正しく再生できるようにするには、ステップ 4 に示すように正しいコーデックをインストールする必要があります。



**注:** ®Linux システムの場合は、Xvid コーデックをサポートする MPlayer をダウンロードしてインストールする必要があります。

## ローカル記録の作成

セッション・アクティビティーを記録して、それをローカル・システムに保存するには、以下のステップを実行します。

1. セッション・ウィンドウで、「**セッションを記録**」をクリックします。  
「**ファイルにセッションを保管**」ウィンドウが開きます。
2. 「**保存**」をクリックして、デフォルトのロケーションに記録を保存するか、または必要なディレクトリーを参照してから「**保存**」をクリックします。



**注:** 記録ファイルについては、所定のファイル名および拡張子を受け入れるか、またはその名前および拡張子をユーザー独自の要件に合わせて変更することができます。

「**セッションを記録**」アイコンは、記録が進行中であることを示す正方形アイコンに変わります。記録を停止するには、正方形アイコンをクリックします。



**注:** ローカル記録をサーバーに保存することはできません。

## ローカル記録の再生

Remote Control でのセッション・プレイヤーを使用して、リモート・コントロール・セッションのローカル記録を再生します。

ローカル記録を再生するには、以下のステップを実行します。

1. セッション・プレイヤーをダウンロードします。  
プレイヤーのダウンロードについて詳しくは、「[セッション・プレイヤーのダウンロード](#)」を参照してください。
2. 以下のオプションのいずれかを使用して、セッション・プレイヤーを開始します。
  - `TRCPlayer.jar` をダブルクリックします
  - 「開始」 > 「実行」をクリックし、`TRCPlayer.jar` ファイルを参照します。
3. 「ファイルを開きます」ウィンドウで、保管された記録が格納されているディレクトリーにブラウズします。
4. 記録を選択し、「開く」をクリックします。

記録の再生が始まります。

セッション・プレイヤーで使用可能なボタンおよび機能は次のとおりです。また、スライダーを使用して、記録を特定の時点まで早送りしたり巻き戻したりすることもできます。例えば、40 分の記録のうち開始から 5 分の時点まで記録を早送りするには、時刻が 05:00/40:00 と表示されるまでスライダーを右方向に動かします。

### 再生

選択された記録を再生します。再生ボタンをクリックすると、**一時停止ボタン**に変わります。

### 休止

再生中の記録を一時停止します。一時停止ボタンをクリックすると、**再生ボタン**に変わります。

### 停止

記録を停止し、再生ウィンドウをクリアします。

### ファイルを開く

記録ファイルを再生のために開きます。

- 必要な記録ファイルにブラウズします。
- 必要なファイルを選択し、再生を開始する記録に対して「開く」をクリックします。

### 自動スクロール表示を使用可

記録の表示されていない部分を表示させます。記録の再生時に、マウス・ポインターがプレイヤー・ウィンドウの端に達した場合は、適切な方向に表示域がスクロールします。この機能は、縦方向と横方向の両方に働きます。

### 拡大縮小表示を使用可

記録の表示が再生ウィンドウの内側に完全に収まるように表示を縮小します。



**注:** ターゲットにおいてデフォルトで記録が保管される場所のパスの最上位フォルダーは、隠しフォルダーになっています。この隠しフォルダーの場所は、Windows™ Vista オペレーティング・システム以降に適用されます。ターゲット・ユーザーがレコード・ビューアーをダウンロードして、保管されている記録を開こうとする場合は、隠しフォルダーを表示するように Windows のフォルダー設定を変更する必要があります。ま





または、ビューアーの「**ファイルを開く**」ウィンドウで、**c:\ProgramData** と入力して、記録が保管されているフォルダーに移動することもできます。

## アクティブ・セッション中のファイルの転送

Remote Control のリモート・コントロール・セッション中に、2つの方法でファイルを転送することができます。

- ファイル転送モード・セッションによる
- 「**ファイル転送**」メニューを使用する

「**ファイル転送**」メニュー・オプションを使用して、**アクティブ・セッション**中にファイルを転送します。「**ファイル転送**」メニューで選択可能なオプションは、アクティブ・セッション用に設定されたポリシーによって決定され、以下のものが含まれます。

### ファイルを送信

コントローラーからターゲットにファイルを転送します。このオプションについて詳しくは、[ターゲットへのファイルの送信](#)を参照してください。

### ファイルをプル

ターゲットからコントローラーにファイルを転送します。このオプションについて詳しくは、[ターゲットからのファイルの受け取り](#)を参照してください。

### 転送フォルダーを開く

ファイル転送フォルダーの内容を表示します。このオプションについて詳しくは、[ファイル転送フォルダーを開く](#)を参照してください。

### リモート転送フォルダーを開く

ターゲットのファイル転送フォルダーの内容を表示します。このオプションについて詳しくは、[ターゲットのファイル転送フォルダーを開く](#)を参照してください。

### 転送表示の切り替え

セッション中に転送されたファイルのリストを表示します。このオプションについて詳しくは、[転送されたファイルのリストの表示](#)を参照してください。



注:

1. 「**転送フォルダーを開く**」オプションは、「チャットのみ」、「ガイダンス」、または「モニター」の各セッションでも使用できます。
2. ユーザー確認ポリシーがセッションで有効になっている場合、ターゲット・ユーザーはファイル転送要求を受け入れるか拒否するかの確認を要求される場合があります。ユーザーが拒否した場合、ファイルは転送されません。

## ターゲットへのファイルの送信

「**ファイルの送信**」オプションを使用して、アクティブ・セッション中にコントローラー・システムからターゲット・システムにファイルを転送できます。

ターゲットにファイルを送信するには、以下の手順を実行します。

1. 「**ファイル転送メニュー**」 > 「**ファイルの送信**」をクリックします。  
「**ファイルのクライアントへの送信**」ウィンドウが開きます。
2. 必要なファイルを選択し、「**ファイルの送信**」をクリックします。

ファイルが**ターゲット**上のファイル転送ディレクトリーに転送されるときに、進行状況表示バーが表示されます。

## ターゲットからのファイルの受け取り

「**ファイルをプル**」オプションを使用して、アクティブ・リモート・コントロール・セッション中にターゲット・システムからコントローラー・システムにファイルを転送します。

ターゲットからファイルを受信するには、以下の手順を実行します。

1. 「**ファイル転送メニュー**」 > 「**ファイルをプル**」をクリックします。  
セッションの「**ファイル転送におけるユーザーの受け入れを使用可能にする**」ポリシーが有効になっている場合、ターゲット・ユーザーはファイルを転送する要求を受け入れるか拒否する必要があります。要求を受け入れる場合、「**送信するファイルを選択してください**」ウィンドウが開き、ターゲット・ファイル転送ディレクトリーの内容が表示されます。ユーザーが拒否するか、所定の時間内に応答しない場合、拒否メッセージが表示され、ファイル転送は許可されません。



**注:** ターゲット・ユーザーが所定の時間内に応答せず、「**受け入れタイムアウト時のアクション**」サーバー・ポリシーが PROCEED に設定されている場合、「**送信するファイルを選択してください**」ウィンドウが開きます。

「**ファイル転送におけるユーザーの受け入れを使用可能にする**」が「いいえ」に設定された場合、ターゲット・ユーザーによるユーザー確認は不要で、ファイル転送を続行できます。

2. 必要な場合は別のロケーションに変更するために上矢印をクリックしてください。
3. 必要なファイルを選択し、「**OK**」をクリックします。  
「**宛先にファイルをプルしています**」ウィンドウが開き、ファイル転送ディレクトリーの内容が表示されます。必要な場合、別の場所を選択します。
4. 「**保存**」をクリックします。

ファイルはシステム上のファイル転送ディレクトリーまたは選択された宛先フォルダーに転送されます。

## ファイル転送フォルダーを開く

コントローラー・ウィンドウで「**転送フォルダーを開く**」オプションを使用して、コントローラーのファイル転送ディレクトリーを開き、ターゲットから受信したファイルのリストを表示します。

ファイル転送フォルダーを開くには、「**ファイル転送メニュー**」 > 「**転送フォルダーを開く**」をクリックします。

コントローラーのファイル転送ディレクトリーのコンテンツが表示されます。ターゲット・ユーザーに対しては、このフォルダーは表示されません。

## ターゲットのファイル転送フォルダーを開く

コントローラー・ウィンドウで「**リモート転送フォルダーを開く**」オプションを使用して、ターゲットのファイル転送ディレクトリーを開き、コントローラーから受信したファイルを表示します。

ファイル転送フォルダーを開くには、「**ファイル転送メニュー**」 > 「**リモート転送フォルダーを開く**」をクリックします。

ターゲットのファイル転送ディレクトリーのコンテンツが、セッション・ウィンドウに表示されます。コントローラー・ユーザーとターゲット・ユーザーの両方が、コンテンツを表示できます。


## 転送されたファイルのリストの表示

「**転送表示の切り替え**」オプションを使用して、セッション中に転送されたファイルのリストを表示します。ファイル転送ディレクトリーを開くこともできます。ファイルのリストには、現行セッション中にコントローラーからターゲットに転送されたすべてのファイルと、ターゲットからコントローラーに転送されたすべてのファイルが含まれます。

「ファイル転送」ウィンドウを開くには、「**ファイル転送メニュー**」 > 「**転送表示の切り替え**」をクリックします。

「ファイル転送」ウィンドウが開き、ファイルのリストが表示されます。



**注:** 「**転送フォルダーを開く**」  ボタンを使用すると、ファイル転送ディレクトリーの内容が表示されます。

## ターゲット上のファイル転送ディレクトリー・ロケーションの編集

ターゲット上でファイル転送ディレクトリーとして定義されるディレクトリーは、**TransferDir** プロパティーによって決定されます。このプロパティーは、ターゲット・プロパティーで定義されます。このプロパティーを変更し、新しいファイル転送ディレクトリーのロケーションを設定できます。ターゲット・オペレーティング・システムに該当するステップに従って、ディレクトリーを変更します。



**注:** ターゲット・レジストリーを編集するには管理権限が必要です。

:-

## Windows® システム

1. コマンド・プロンプト・ウィンドウで `regedit` を実行します。
2. `HKEY_LOCAL_MACHINE/SOFTWARE/BigFix/Remote Control/Target` に移動します。
3. **TransferDir** を右クリックします。
4. 「変更」を選択し、必要なロケーションを「値」データ・フィールドに入力します。
5. 「OK」をクリックします。
6. ターゲット・サービスを再起動します。

## Linux® システム

1. `trc_target.properties` ファイルを編集します。
2. **TransferDir** の値に必要なロケーションに変更し、ファイルを保存します。
3. ターゲット・サービスを再起動します。

## コントローラーとターゲットの間のクリップボード情報のコピー

リモート・コントロール・セッション中に、「**クリップボード転送メニュー**」を使用して、コントローラーおよびターゲット・システムにクリップボード情報を送信したり、それらから情報をクリップボードに送信したりします。この機能を使用すると、自分のシステムからテキストをクリップボードにコピーしてから、それをターゲット・システムに貼り付けたり、ターゲット・システムのテキストを自分のシステムへ貼り付けたりすることができます。

「**クリップボード転送メニュー**」では、クリップボード情報を転送するための2つのオプションがあります。

### クリップボードのテキストを送信

このオプションは、コントローラー・システムからターゲット・システムにテキストを送信する場合に使用します。

### クリップボードのテキストをプル

このオプションは、ターゲット・システムからコントローラー・システムにテキストを転送する場合に使用します。

## ターゲットへのクリップボード・テキストの送信

クリップボードを使用することにより、リモート・コントロール・セッション中にターゲット・ユーザーにテキストを送信できます。

セッション中にターゲットへテキストを送信するには、クリップボードを使用して、以下のステップを実行します。

1. 自分のシステムで、ターゲットに送信したいテキストを強調表示します。
2. 右クリックして「**コピー**」を選択するか、「**編集**」 > 「**コピー**」をクリックします。
3. 「**クリップボード転送メニュー**」 > 「**クリップボードのテキストを送信**」をクリックします。

4. ターゲット・システムの、テキストを貼り付けたいロケーションで、「編集」 > 「貼り付け」を選択するか、**CTRL+V** を押します。  
:NONE. 例えば、テキスト・ファイルで貼り付けを実行します。

テキストは、ターゲット・システム上の必要なロケーションに貼り付けられます。

## ターゲットからのクリップボード・テキストの受信

セッション中にターゲットからテキストを受信するには、クリップボードを使用して、以下のステップを実行します。


1. セッション・ウィンドウで、ターゲット・システム上のコピーしたいテキストを強調表示します。
2. 右クリックして「コピー」を選択するか、「編集」 > 「コピー」をクリックします。
3. 「クリップボード転送メニュー」 > 「クリップボードのテキストをプル」をクリックします。
4. 自分のシステム上のテキストを貼り付けたい場所で、「編集」 > 「貼り付け」を選択します。例えば、テキスト・ファイルで貼り付けを実行します。

テキストが、自分のシステム上の必要な場所に貼り付けられます。

## セッション中のスマート・カード・リーダーへの接続

アクティブ・モード・セッション中にターゲット上でスマート・カードのサポートを提供するには、ローカル・カード・リーダーを選択して、ターゲット上に仮想カード・リーダーを作成して、その仮想カード・リーダーに接続します。ご使用のローカルのカード・リーダーが、仮想カード・リーダーに接続されます。セッション中には、ローカルのカードおよびリーダーを、リモート・ターゲット上にある場合と同様に使用することができます。

リモート・コントロール・セッション中にスマート・カード・リーダーに接続するには、以下の手順を実行します。

1. 「スマート・カードの選択」  をクリックします。  
取り付けられているカード・リーダーのリストが表示されます。
2. カード・リーダーを選択します。

選択したカード・リーダーが使用可能になり、ターゲット上の仮想カード・リーダーに接続されます。別のカード・リーダーを選択する場合は、接続したリーダーを選択してその接続を切断した後で、新しいリーダーを選択する必要があります。システムに追加の物理カード・リーダーを接続する場合、またはカード・リーダーを取り外す場合は、「カード・リストの更新」をクリックして必ず最新のリストを表示します。セッション中に、ローカルのカードからの資格情報を使用して、ターゲットに対してアクションを実行したり、ターゲットにログオンしたりすることができます。

セッション中に表示可能なステータス・メッセージについて詳しくは、[スマート・カードのステータス・メッセージ](#)を参照してください。

「スマート・カードの選択」 オプションを使用できるのは、コントローラーおよびターゲットで Windows 7 以降、または Windows Server 2008 R2 以降のオペレーティング・システムが稼働している場合に限られます。また、ターゲット上に、スマート・カード・リーダー・ドライバーがインストールされている必要があります。ターゲットでの

スマート・カード・リーダー・ドライバーのインストールについては、「BigFix® Remote Control インストール・ガイド」を参照してください。

## ネットワーク応答標識

ネットワーク応答標識では、セッション中のネットワークの往復時間を示す表示が提供されます。つまり、ネットワーク・データがコントローラーからターゲットに送信され、その応答がコントローラーに返されるまでに要する時間を示します。

リモート・コントロール・セッションの開始時には、ネットワーク応答標識は緑色のセクションを指し示します。20 秒ごとに ping が送信され、ネットワーク応答標識はネットワークの応答性を表すように変化します。

最初のネットワーク応答が返されると、標識は色分けされたセクションを指し示します。さらに ping が送信されるたびに、標識は更新を続けます。

### 緑



0 から 500 ミリ秒の良好なネットワーク応答を示します。

### 黄



500 から 1000 ミリ秒の適度な応答時間を示します。

### 赤



1 秒を超える劣悪なネットワーク応答時間を示します。

## 複数のターゲット画面の表示

複数のディスプレイで構成されているターゲットでは、セッション中に各画面の切り替えを行ったり、すべての画面を同時に表示したりすることができます。

コントローラー・ウィンドウで、「**画面の選択**」 オプションを使用します。




**注:** 8 ビットのカラー階調の画面を持つターゲットでガイダンス・ツールや描画ツールを使用する場合、描画領域によって画面の内容が見えなくなります。その他のカラー階調では、描画領域が透明になり、画面の内容を見ることができます。

- 「**画面の選択**」をクリックして、ターゲットの各画面を切り替えます。画面が切り替わると、画面番号が表示されます。
- 「**画面の選択**」を右クリックして、画面のメニューを表示します。  
1 つの画面を選択することも、「**すべての画面**」をクリックしてターゲットのすべての画面を表示することもできます。

## セッション中のターゲット画面のスクロール

ターゲットの画面がリモート・コントロール・セッション・ウィンドウよりも大きい場合、スクロール・バーを使用せずにターゲットの画面を表示するには、オートスクロール機能を使用します。「**自動スクロール表示を使用可**」オプションを使用して、この機能を有効にします


スクロール機能を有効にするには、「**自動スクロール表示を使用可**」をクリックします。マウス・ポインターがセッション・ウィンドウの端に達すると、ターゲット・デスクトップの見えない領域がスクロールして表示されます。アイコンを再度クリックすると、この機能が無効になり、画面はスクロールしなくなります。



**注:** この機能は、横方向と縦方向の両方で動作します。オートスクロールは、デフォルトではオフです。

## セッション・ウィンドウ内でのターゲットのフルスクリーン表示

ターゲットをセッション・ウィンドウでフルスクリーン表示するには、「**拡大縮小表示を使用可**」を使用してサイズを縮小します。

拡大縮小機能を使用可能にするには、「**拡大縮小表示を使用可能/使用不可にします**」。コントローラー・ウィンドウのサイズを変更すると、ターゲット・ビューはコントローラー・ウィンドウに合わせてサイズ変更されます。アイコンを再びクリックすると、機能が使用不可になり、ターゲット画面のサイズは変更されなくなります。

処理能力がわずかに増加するという理由から、リモートまたはローカルの解像度によりフルスクリーン表示が禁止される場合のみ、この機能の使用をお勧めします。この機能をオフに切り替えると、コントローラー・ウィンドウの右下にある「@」をクリックして、画面をリモート・システムに合わせてサイズ変更できます。この「画面サイズの一致」ボタンはリモート・システムの解像度と一致するようにコントローラー・ウィンドウのサイズを変更します。つまり、リモート・システムが幅 800 ピクセル、高さ 600 ピクセルの場合、「画面サイズの一致」機能により、UI のリモート・ビュー領域も幅 800 ピクセル、高さ 600 ピクセルになるようにコントローラー・ウィンドウのサイズの変更を試みます。



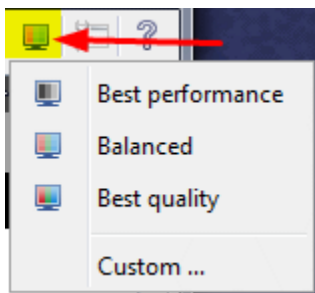
**注:** コントローラー・ウィンドウが最初に開いたとき、拡大縮小モードは使用不可に設定されています。このオプションは、セッション中のあらゆる時点で切り替えることができます。

## セッション・パフォーマンスの向上のためのセッション・ウィンドウのカラー品質の変更

ネットワークが低速の場合に、セッション中に「**パフォーマンス設定**」を使用して、ターゲット・デスクトップの画質を調整し、セッションのパフォーマンスを向上させることができます。カスタム値を設定することもできます。セッションの開始時のデフォルトのパフォーマンス設定は、「**平衡**」モード (8 ビット・カラーを使用し、部分的な画面更新が有効) です。このオプションでは、帯域幅を節約することで、セッション中に接続によって渡されるデータの量を削減します。

その他のカラー・オプションを選択するには、以下のステップを実行します。

1. 「パフォーマンス設定」をクリックして、セッション・パフォーマンスの関連オプションを選択します。



### ベスト・パフォーマンス

ターゲット・デスクトップを、グレースケールで部分的な画面更新を有効にして表示するには、このオプションを選択します。このオプションは、ネットワークが低速のときに使用できます。セッション・ウィンドウでのターゲット・デスクトップの画質よりも、セッションのパフォーマンスの方が重要な場合に、このオプションを使用します。

### 平衡

ターゲット・デスクトップを、8 ビット・カラー・モードで部分的な画面更新を有効にして表示するには、このオプションを選択します。このオプションはデフォルト値です。

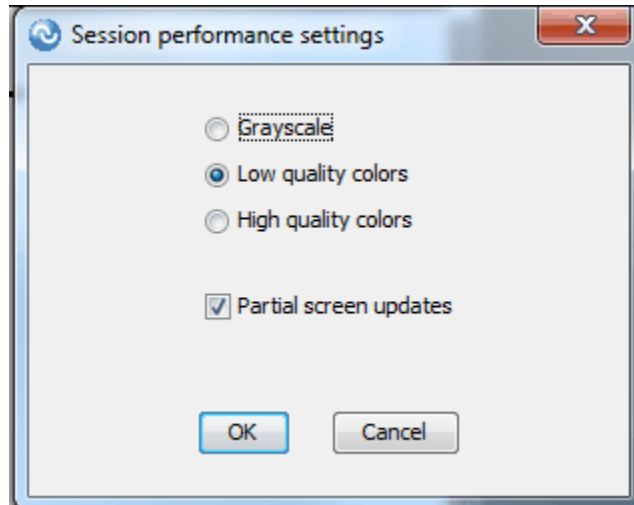
### 最高品質

ターゲット・デスクトップを、24 ビット・カラー・モードで部分的な画面更新を無効にして表示するには、このオプションを選択します。セッション・ウィンドウ内でのターゲット・デスクトップの画質が重要な場合に、このオプションを使用できます。ただし、セッションにより多くの帯域幅が使用されるため、セッション中のアクションに対する応答が低速になります。

### Custom

セッションに独自のパフォーマンス・オプションを設定する場合は、「カスタム」オプションを使用します。部分的な画面更新は、特定のカラー・モードと組み合わせて使用できるわけではありません。例えば、「最高品質」を使用する場合、部分的な画面更新は有効になりません。「カスタム」オプションを使用すると、「**高品質カラー**」(24 ビット・カラー・モード)を選択したうえで、部分的な画面更新を有効にすることができます。





- a. 適切なカラー・モードを選択します。
- b. 画像の更新に従って徐々に画像を表示するには、「部分的な画面更新」を選択します。このオプションをクリアしたときに低速なネットワーク接続があると、更新された画面の画像が表示されるまでに遅延があります。
- c. 「OK」をクリックします。

## コントローラーのローカル構成の作成

コントローラー・コンポーネントをインストールする際にプロパティを構成することができます。構成したプロパティは、コントローラー・インストール・ディレクトリー内の `trc_controller.cfg` ファイルに保存されます。このファイル内のプロパティは、コントローラーが始動されるたびに使用され、すべてのユーザーで同じです。ただし、インストール後にコントローラー UI の「コントローラーの構成」オプションを使用して、ユーザー固有の構成を作成することもできます。

このオプションを最初に使用するときには、`trc_controller.cfg` ファイルに設定されている値が構成ウィンドウに表示されます。構成ウィンドウで新しい値を保存すると、プロパティが `trc.properties` ファイルに保存されます。このファイルは、ホーム・ディレクトリー内の `.trc` ディレクトリーにあります。`trc.properties` ファイルのプロパティ値は、`trc_controller.cfg` ファイルのプロパティ値をオーバーライドします。

グローバル・プロパティで必須プロパティ・オプションを設定すると、ユーザーはそのプロパティを**構成ウィンドウ**で編集できなくなります。必須のグローバル・プロパティは、ローカル・プロパティをオーバーライドします。このオプションは、「全般」タブ内のプロパティにのみ適用されます。

プロパティを必須に設定するには、以下の手順を実行します。

1. `trc_controller.cfg` ファイルを編集します。場合によっては、編集を行うために、ファイルに対する許可の変更が必要となります。
2. 必須にするプロパティのプロパティ名をコピーし、末尾に `.mandatory = true` を追加します。

例えば、「アドレス履歴を使用可能にする」プロパティを必須にして**構成ウィンドウ**で編集できないようにするには、以下のようになります。

**enable.address.history=false enable.address.history.mandatory=true**

3. ファイルを保存します。
4. コントローラー・コンポーネントを停止して開始します。

コントローラー UI でコントローラーのプロパティを構成するには、以下の手順を実行します。

1. 「**コントローラーの構成**」 > 「**構成**」をクリックします。
2. 「**全般**」タブのオプションを構成します。

「**全般**」タブは、P2P セッションのプロパティのみを構成する場合に使用します。構成するプロパティは以下のとおりです。

#### アドレス履歴を使用可能にする、ユーザー履歴を使用可能にする、ドメイン履歴を使用可能にする

P2P セッションを開始するために使用されるターゲット IP アドレス、ユーザー ID、およびドメイン名の履歴を格納するプロパティを選択します。これにより、P2P セッションを開始したときに、「**接続のオープン**」ウィンドウでこれらの項目が選択可能になります。履歴は、ホーム・ディレクトリー内の `trc_history.properties` ファイルにあります。

#### 履歴項目の最大数

履歴に格納する項目の最大数を指定します。

#### RC デフォルト・ポート

セッションを開始したときに**接続ウィンドウ**に表示されるポート番号を指定します。空白のままにすると、デフォルトで 888 が使用されます。

#### コラボレーション・デフォルト・ポート

コラボレーション・セッションに参加するコラボレーターをコントローラーが listen するポートの番号を指定します。空白のままにすると、デフォルトで 8787 が使用されます。

#### コラボレーター参加プロンプトを使用可能にする

新しいコントローラーがコラボレーション・セッションへの参加を要求したことを通知するプロンプトを表示する場合は、このオプションを選択します。

#### フォース v2 セキュリティ・レベル

以前のバージョンのターゲットとの互換性を可能にします。デフォルトは 3 です。コントローラーをさらに古いターゲットに接続する必要がある場合は、それより低いレベルを選択します。

#### チャットの非表示

「**接続のオープン**」ウィンドウに「**チャットのみ**」ボタンを表示しない場合は、このオプションを選択します。



**注:** 「**接続のオープン**」ウィンドウにボタンを表示することはできませんが、BigFix® Remote Control Target for macOS ターゲットではこのセッション・タイプを使用できません。

## ガイダンスの非表示

「**接続のオープン**」ウィンドウに「**ガイダンス**」ボタンを表示しない場合は、このオプションを選択します。



**注:** 「**接続のオープン**」ウィンドウにボタンを表示することはできますが、BigFix® Remote Control Target for macOS ターゲットではこのセッション・タイプを使用できません。

### 3. 「**ツールの実行**」タブのオプションを構成します。

「**ツールの実行**」タブは、リモート・コントロール・セッション中にターゲットで実行できるツールのリストを作成するために使用します。対象のツールは、コントローラー UI の「**ターゲットでのアクションの実行**」メニューにメニュー項目として表示されます。



**注:** 項目を選択する際に「**編集**」と「**削除**」のオプションが表示されない場合は、その項目を変更または削除できません。

**ツールを追加するには、以下の手順を実行します。**

- a. 「**追加**」をクリックします。
- b. ツールの値を入力します。

#### ツール名

ツールの名前を入力します。この名前は、「**ターゲットでのアクションの実行**」メニューにメニュー項目として表示されます(例えば、「**コントロール パネル**」など)。

#### ツール・コマンド

ツールを実行するためのコマンドを入力します。例えば、Windows™ オペレーティング・システムを使用している場合に「**コントロール パネル**」を実行するには、以下のように入力します。

```
[System Folder]control.exe
```

a Linux™ オペレーティング・システムを使用している場合は、以下のように入力します。

```
/usr/bin/gnome-control-center
```

#### ツール・パラメーター

オプション。実行するコマンドのパラメーターを指定します。

#### ツール・ユーザー

オプション。コマンドの実行に使用する特権または資格情報を決定します。ブランクのままにすると、ログオン・ユーザーとしてツールが実行されます。

- c. 「OK」をクリックします。

**ツール・エントリーを編集するには、以下の手順を実行します。**

- a. ツールを選択します。
- b. 「編集」をクリックします。
- c. ツールの値を変更します。
- d. 「OK」をクリックします。

**ツール・エントリーを削除するには、以下の手順を実行します。**

- a. ツールを選択します。
- b. 「除去」をクリックします。

#### 4. 「キー・シーケンス」タブのオプションを構成します。

「キー・シーケンス」タブは、リモート・コントロール・セッション中にターゲットに送信できる特殊キー (多くの場合、繰り返し使用される特殊キーのシーケンス) のリストを作成するために使用します。対象のキー・シーケンスは、コントローラー UI の「ターゲットでのアクションの実行」メニューにメニュー項目として表示されます。



**注:** 項目を選択する際に「編集」と「削除」のオプションが表示されない場合は、その項目を変更または削除できません。

**キー・シーケンスを追加するには、以下の手順を実行します。**

- a. 「追加」をクリックします。
- b. キー・シーケンスの値を入力します。

##### キー・シーケンス名 (Key Sequence name)

キー・シーケンスの名前を入力します。この名前は、「ターゲットでのアクションの実行」メニューにメニュー項目として表示されます (例えば、「Inject F1」など)。

##### キー・シーケンス値

キーのシーケンスを入力します。キーのシーケンスはターゲット・コンピューターに送信されます。例えば、F1 キーを送信する場合は、[F1] と入力します。

- c. 「OK」をクリックします。

**キー・シーケンス・エントリーを編集するには、以下の手順を実行します。**

- a. キー・シーケンスを選択します。
- b. 「編集」をクリックします。

- c. キー・シーケンスの値を変更します。
- d. 「OK」をクリックします。

キー・シーケンス・エントリーを削除するには、以下の手順を実行します。

- a. リストからエントリーを選択します。
- b. 「除去」をクリックします。

5. 構成を `trc.properties` ファイルに保存するには、構成ウィンドウで「OK」をクリックします。



**注:** 独自の構成を作成した後に、ローカル値を `trc_controller.cfg` ファイル内のグローバル値にリセットすることができます。構成ウィンドウで「元に戻す」をクリックすると、グローバル値が表示されます。元に戻した値を `trc.properties` ファイルに保存するには、構成ウィンドウで「OK」をクリックする必要があります。

## ローカル・コントローラー構成でデバッグを有効にする

Remote Control コントローラーのローカル構成でデバッグを有効にするためのプロパティが追加されました。

コントローラーでデバッグを有効にするには、**debug.trace** プロパティを使用します。デバッグを有効にするには、以下の手順を実行します。

1. ホーム・ディレクトリーにある `trc.properties` ファイルを編集します。  
このファイルは、以下のディレクトリーに格納されています。

### Windows システム

`USERHOMEDIR\.trc\trc.properties`。USERHOMEDIR は、ログオンしているユーザーのホーム・ディレクトリーです。

### Linux または macOS システム

`USERHOMEDIR/.trc/trc.properties`。USERHOMEDIR は、ログオンしているユーザーのホーム・ディレクトリーです。

2. `debug.trace=true` を設定します。
3. ファイルを保存し、コントローラーを再始動します。

次回セッションを開始すると、発生したイベントがホーム・ディレクトリー内の `trctrace_XXXXX.log` ファイルに記録されるようになります。ファイル名には、ファイルが作成された日時のタイム・スタンプが含まれています。例えば、`trctrace_20170309_124230.log`

## ヘルプの取得

コントローラー・インターフェースの使用時に、「ヘルプを表示」アイコンを使用して、オンライン文書にアクセスしたり、実行している Remote Control のバージョンを調べたりすることができます。

1. ツールバーで「ヘルプを表示」をクリックします。



2. 必要な項目を選択します。

### ヘルプ

Remote Control のオンライン文書にアクセスします。

### バージョン情報

製品名およびバージョン番号を表示するウィンドウを開きます。ウィンドウをクリックするか、任意のキーを押すと、Remote Control コントローラー・ウィンドウに戻ります。

## セッションの終了

リモート・コントロール・セッションを以下の方法で終了できます。

- タスクバーの「**接続**」アイコンをクリックする。



- コントローラー・ウィンドウの右上にある「**X**」をクリックする。

「はい」をクリックするとセッションが終了します。

セッションは終了し、ターゲット・ユーザーのみが、ターゲットのデスクトップを制御できる状態に戻ります。ターゲット・ユーザーは、キーボードの **Pause** を押すか、接続アイコンをクリックして、セッションを終了することができます。ターゲット・ユーザーがセッションをクローズすると、セッションは即時に終了します。切断時にメッセージが表示される場合があります。

セッション内でコラボレーションが開始されていると、セッションのマスター・コントローラーに、コラボレーションが進行中であるという警告が出されます。以下のメッセージが表示されます。 コラボレーション・セッションが進行中です。切断すると、セッションが終了します。セッションを開いたままにしますか？

切断してセッションを終了するか、マスター・コントローラーとしてセッションを維持するかのいずれかを選択することができます。

### キャンセル

「**キャンセル**」をクリックすると、コラボレーション・セッションが続行し、マスター・コントローラーの状態が維持されます。

### セッションの切断

「**セッションの切断**」をクリックすると、コラボレーション・セッションが終了し、すべての参加者が切断されます。

## コマンド・ラインからのリモート・コントロール・コマンドの使用

リモート・コントロール・セッションをコマンド・ラインから開始するために使用できるツールをインストールできます。これらのツールを使用して、ターゲット上でコマンドを実行し、ご使用のコンピューターでそのコマンドの出力を表示することもできます。

これらの CLI ツールは、BigFix® Remote Control サーバー インターフェースを使用せずにターゲットに接続する場合に役立ちます。これらをスクリプトの一部として使用し、複数のコマンドを実行することもできます。CLI ツールのインストールについて詳しくは、「*BigFix® Remote Control インストール・ガイド*」を参照してください。

使用可能なコマンド・ライン・ツールは 2 つあります。

- `wrc` - リモート・コントロール・セッションを開始します。
- `wrcmdpcr` - ターゲット上でコマンドを実行し、コンピューター上のコマンドからの出力を確認します。

コマンド・ライン・ツールを使用する前に、以下の構成アクションを実行する必要があります。

- サーバーの `trc.properties` ファイルに定義されているサーバー URL が、ターゲット・プロパティの `ServerURL` プロパティに定義されている URL と同じである必要があります。
- コマンド・ライン・ツールのインストール中に定義されるリモート・コントロール・ポートは、コマンド実行元のコンピューターと、ターゲットの設定とで同じである必要があります。
- FIPS 準拠が必須の場合、コマンド実行元コンピューターとターゲットで FIPS を有効化する必要があります。FIPS 準拠の有効化について詳しくは、*BigFix® Remote Control インストール・ガイド*を参照してください。



**注:** コントローラー・ソフトウェアを開始するコンピューターには **JavaHome** レジストリー・キー項目が必要です。**JavaHome** には、コントローラー・ソフトウェアと一緒にインストールされた FIPS 準拠の IBM® JRE のパスが格納されている必要があります。コントローラーをリモート・コンピューター上で開始する場合、リモート・コンピューター上にもレジストリー・キー項目を作成する必要があります。

### Windows® システム

```
C:\Program Files\BigFix\Remote Control\Controller\jre
```

### Linux® システム

`trc_target.properties` ファイルを編集し、**JavaHome** プロパティの値を更新します。

- **INFO** レベルのログである `cli_trace_[suffix].log` が CLI ツール実行元コンピューターに作成されます。`[suffix]` は、LOGROTATION プロパティの値によって決まります。例えば、`cli_trace_Mon.log` です。DEBUG レベルのログを作成するには、LOGLEVEL プロパティの値を 4 に変更します。

### Windows システム

1. ターゲットレジストリを編集して、次の場所に移動します `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\BigFix\Remote Control\Target`



**注:** 64 ビット・システムでは、すべての 32 ビット・レジストリー・キーは WOW6432Node キーの下にあります。例: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\BigFix\Remote Control\Target`

2. 「LogLevel」を右クリックし、「変更」を選択します。
  3. 値を 4 に設定して「OK」をクリックします。
- ターゲット・レジストリーを編集します。

### Linux システム

`/etc/trc_target.properties` ファイルを編集して **LogLevel = 4** を設定し、ファイルを保存します。



**注:** Remote Control ゲートウェイを介して接続を確立する必要があるコンピューター上でリモート・コントローラーまたはコマンドを開始した場合、wrc コマンドと wrcmdpcr コマンドは機能しません。

## コマンド行からのリモート・コントロール・セッションの開始

wrc コマンドを実行して、ターゲットとのセッションを開始できます。

このコマンドを使用して、ターゲットとの間で開始するリモート・コントロール・セッションのタイプを指定します。



**注:** 開始するセッションのターゲットには、ターゲット・ソフトウェアがインストールされている必要があります。

リモート・コントロール・セッションを開始するには、以下の手順を実行します。

1. コマンド・プロンプトで、コマンド・ライン・ツールをインストールしたディレクトリーに移動します。
2. wrc コマンドを入力してセッションを開始します。

コマンドの構文は次のとおりです。 `wrcuser:passwordAction Rctarget[Rccontroller][options]`

**user:password**

BigFix® Remote Control サーバー にログオンするための有効なユーザー ID およびパスワードを指定します。

### アクション

確立するリモート・コントロール・セッションのタイプを定義します。

**rc**

オプション `-S` に割り当てられた値によって決定されるタイプのリモート・コントロール・セッションを開始します。オプション `-S` と共に使用されます。



**filexfer または filetransfer**

ターゲットとの間でファイル転送セッションを開始します。

**active**

ターゲットとの間でアクティブ・セッションを開始します。

**reboot**

ターゲット・コンピューターを再始動します。

**guidance**

ターゲットとの間でガイダンス・セッションを開始します。

**モニター**

ターゲットとの間でモニター・セッションを開始します。

**チャット (chat)**

ターゲットとの間でチャット・セッションを開始します。

**Rctarget**

接続するターゲットのコンピューター名または IP アドレスを指定します。パラメーターの構文は以下のとおりです。

@Endpoint:<computername or ipaddress>

**Rccontroller**

コントローラーを別のコンピューターで実行するには、別のコンピューターのコンピューター名または IP アドレスを入力します。このパラメーターの値を指定しない場合、コントローラーはコマンドの実行元のコンピューターで開始されます。パラメーターの構文は以下のとおりです。

@Endpoint:<computername or ipaddress>

コントローラーを使用してセッションを開始するには、以下の条件が満たされている必要があります。

- コントローラーを実行するコンピューターにターゲット・ソフトウェアがインストールされている必要がある。
- Remote Control でサポートされる Java™ ランタイム環境がコントローラー・コンピューターにインストールされている。
- コマンドを実行するコンピューターが、インストール時に設定されたりモート・コントロール・ポートを使用して、コントローラーを開始するコンピューターに対して TCP 接続を確立できる必要がある。

**オプション****-S**

**rc** アクションと使用します。

**A**

rc アクションが設定されている場合、**-S** を A に設定するとアクティブ・セッションが開始されます。

**M**

rc アクションが設定されている場合、**-S** を M に設定するとモニター・セッションが開始されます。



**注:** rc 以外のアクションと一緒にこのオプションを使用した場合、**Action** パラメーターに設定された値によって、リモート・コントロール・セッションのタイプが決定されます。**-S** の値は無視されます。

## 使用例

ここにリストされている例では、ターゲット IP アドレス **192.0.2.1**、コントローラー・コンピューター名 **testcontroller**、ユーザー ID **newuser1**、およびパスワード **newuser100** を使用しています。

1. 以下のコマンドは、コマンドの発行元のマシンとターゲットの間のガイダンス・セッションをアクティブ化します。

```
wrc newuser1:newuser100 guidance @Endpoint:192.0.2.1
```

2. 以下のいずれかのコマンドは、コマンドの発行元のマシンとターゲットの間のアクティブ・セッションをアクティブ化します。

```
wrc newuser1:newuser100 rc @Endpoint:192.0.2.1 -S:A
```

```
wrc newuser1:newuser100 active @Endpoint:192.0.2.1
```

3. 以下のいずれかのコマンドは、ターゲットとコントローラー testcontroller の間のモニター・セッションをアクティブ化します。

```
wrc newuser1:newuser100 rc @Endpoint:192.0.2.1 @Endpoint:testcontroller -S:M
```

```
wrc newuser1:newuser100 monitor @Endpoint:192.0.2.1 @Endpoint:testcontroller
```

## コマンド・ラインからのターゲット上でのコマンドの実行

wrcmdpcr コマンドを使用してターゲットに接続し、非対話式のコマンド・ラインのコマンドを実行します。

ターゲット上で実行するコマンドを指定することができます。このコマンドからの出力は、コマンド開始元のコンピューター上に表示されます。このコマンドは、BigFix® Remote Control サーバー ユーザー・インターフェースにアクセスできない場合にターゲットをデバッグするのに役立ちます。

ターゲット上でコマンドを開始するには、以下の手順を実行します。

1. コマンド・プロンプトで、コマンド・ライン・ツールをインストールしたディレクトリーに移動します。
2. 以下のコマンドを入力します

```
wrcmdpcr user:password Rctarget command [argument ...]
```

#### **user:password**

BigFix® Remote Control サーバー にログオンするために使用する有効なユーザー ID およびパスワードを指定するために使用します。

#### **Rctarget**

接続してコマンドを実行する場所となるターゲットのコンピューター名または IP アドレスを指定するために使用します。構文は以下のとおりです。

@Endpoint:<computername or ipaddress>

#### **command**

コマンド・ラインから実行するコマンドを指定するために使用します。オペレーティング・システムのシェルに組み込まれており、バイナリー実行可能ファイルを持たないコマンドが対象です。例えば、Windows™ オペレーティング・システムの dir または tree の場合などです。Linux™ オペレーティング・システムの場合、cd または echo です。コマンド・シェル・コマンドも追加する必要があります。

##### **Windows™ システム**

コマンドの前に **cmd /c** と入力する必要があります。詳しくは、『[使用例](#)』を参照してください。

例えば、cmd /c dir

##### **Linux™ システム**

コマンドの前に **sh -c** と入力する必要があります。詳しくは、『[使用例](#)』を参照してください。



#### **注:**

- a. 実行されるコマンドは、ターゲット上で実行中のオペレーティング・システムに固有のものである必要があります。コマンドを Windows™ コンピューターから Linux™ オペレーティング・システムがインストールされているターゲットに対して実行する場合は、Linux™ コマンドを指定する必要があります。
- b. コマンドを、Linux™ コンピューターから Windows™ オペレーティング・システムがインストールされているターゲットに対して入力するときに、引数にパス名を使用する場合は、その引数で二重の円記号を使用する必要があります。例えば、`\\windows` です。
- c. 実行するコマンドは、ターゲットの PATH ステートメント内に存在する必要があります。そうでない場合は、コマンドへの絶対パスを使用する必要があります。

引数 (argument)

ターゲット上で実行するコマンドに対して引数を指定するために使用します。

使用例

ここでリストする例では、対象 IP アドレス **192.0.2.1**、ユーザー ID **newuser1**、およびパスワード **newuser100** を使用しています。

1. 以下のコマンドは、コマンドを発行しているマシンの一時ディレクトリーのディレクトリー・リストを表示します。

```
To display the contents of temp on a windows target

wrcmdpccr newuser1:newuser100 @Endpoint:192.0.2.1 cmd /c dir \temp
```

```
To display the contents of temp on a linux target

wrcmdpccr newuser1:newuser100 @Endpoint:192.0.2.1 ls /temp
```

2. 以下のコマンドは、temp ディレクトリーのファイルを Windows ターゲットの match ディレクトリーにコピーします。コマンド全体を 1 行で入力してください。

```
wrcmdpccr newuser1:newuser100 @Endpoint:192.0.2.1 cmd /c
copy c:\temp\1.csv c:\match
```

3. 以下のコマンドは、Windows ターゲットのネットワーク統計を表示します。

```
wrcmdpccr newuser1:newuser100 @Endpoint:192.0.2.1 cmd /c netstat
```

wrc および wrcmdpccr コマンドのエラー・メッセージ

wrc または wrcmdpccr コマンドを実行したときにエラーが発生した場合、以下のエラー・コードがプログラム終了コードとして返され、対応するメッセージが表示されます。

表 6. wrc コマンドのエラー・メッセージ

終了 コード	メッセージ	理由	適用先
1	無効な引数です。誤った形式の ユーザー: パスワード  無効な引数です。不明なアクション	無効なパラメーターがコマンドに渡されました。コマンド・ライン内のパラメーターが有効であり、期待されるコマンド構文に従っていることを確認してください	both

表 6. wrc コマンドのエラー・メッセージ (続く)

終了 コード	メッセージ	理由	適用先
	無効な引数です。ターゲット・エンドポイントの定義: {0}		
	無効な引数です。コントローラー・エンドポイントの定義: {0}		
	引数用のメモリーの予約中にエラーが発生しました		
	無効な引数です。不明なオプションです: {0}		
2	エラー: サーバー URL の設定が見つかりませんでした	サーバー URL 設定がレジストリーまたはプロパティ・ファイルにありません。構成が正しいこと、およびサーバー URL 構成フィールドにリモート・コントロール・サーバー用の正しい URL があることを確認してください。	both
3	エラー {0} (RC_SERVER_CONN_ERROR): サーバーに接続できません	構成サーバーに接続できません。構成が正しいこと、およびサーバー URL 構成フィールドにリモート・コントロール・サーバー用の正しい URL があることを確認してください。	both
4	エラー {0} (RC_LOGIN_ERROR): 指定された資格情報を使用してサーバーにログインできません	コマンド・パラメーターに指定された資格情報を使用して Remote Control サーバーにログインできません。正しいユーザー資格情報がコマンド・ラインに入力されているか確認してください。	both
5	エラー {0} (RC_CREATE_SESSION_ERROR): RC セッションを作成できません	コマンドを起動するためのリモート・コントロール・セッションを作成できません。通常の原因は、ユーザーが許可を持たないことや、ターゲットが見つからないことです。	both
6	エラー {0} (RC_LOCAL_LAUNCH_ERROR): Java™ Web Start コントローラーを起動できません	Java™ Web Start Remote Control コントローラーをローカル・マシン上で起動できません。このことの一般的な原因は、Java™ Web Start アプリケーションを正しく処理するための、サポートされる JRE がインストールおよび設定されていないことです。	wrc
7	エラー: FIPS サポート・ライブラリーをロードできませんでした	設定では FIPS モードが指定されていますが、必要なライブラリーをロードできません。これは、インストールされたファイルが破損していることが原因である可能性があります。	both

表 6. wrc コマンドのエラー・メッセージ (続く)

終了 コード	メッセージ	理由	適用先
8	エラー: OpenSSL サポート・ライブラリーをロードできませんでした	OpenSSL ライブラリーのロードでエラーが発生しました。これは、インストールされたファイルが破損していることが原因である可能性があります。	both
10	エラー {0} (RC_REMOTE_CONNECT_ERROR): リモート・コントローラーに接続してセッションを起動することができません	リモート・コントローラーとの接続を確立できません。指定されたリモート・コントローラー・エンドポイント上でターゲット・ソフトウェアが実行中であること、およびそのリモート・コントローラー・エンドポイントへのリモート・コントロール・セッションを確立できることを確認してください。	wrc
10	エラー {0} (RC_REMOTE_CONNECT_ERROR): ターゲットに接続できません	ターゲット・エンドポイントとの接続を確立できません。指定されたターゲット・エンドポイント上でターゲット・ソフトウェアが実行中であること、およびそのターゲット・エンドポイントへのリモート・コントロール・セッションを確立できることを確認してください。	wrcmdpcr
16	エラー {0} (RC_REMOTE_LAUNCH_ERROR): リモート・マシン上でコントローラーを起動できません	ターゲットへの接続後、コントローラーの起動に失敗しました。このことの一般的な原因は、Java™ Web Start アプリケーションを正しく処理するための、サポートされる JRE がインストールおよび設定されていないことです。	wrc
16	エラー {0} (RC_REMOTE_CMD_EXEC_ERROR): リモート・マシンでコマンドを起動できません	ターゲットへの接続後、指定されたコマンドを実行できませんでした。コマンドが正しいこと、対話式でないこと、およびターゲット・マシン上でローカルに実行できることを確認してください。	wrcmdpcr
17	エラー {0} (RC_REMOTE_CMD_TERM_ERROR): リモート・コマンドが異常終了しました	ターゲットに接続してコマンドを正常に起動した後、コマンドが異常終了しました。コマンドが正しいこと、対話式でないこと、およびターゲット・マシン上でローカルに実行できることを確認してください。	wrcmdpcr
20	エラー {0} (RC_UNKNOWN_TARGET): 指定されたターゲットは に登録されていません Remote Control	指定されたエンドポイントは登録済みのリモート・コントロール・ターゲットではありません。このエラーは、指定されたターゲット・エンドポイントまたはコントローラー・エンドポイントに該当することがあります。ホスト名または IP アドレスが正しいこと、およびこれらが属し	both

表 6. wrc コマンドのエラー・メッセージ (続く)

終了 コード	メッセージ	理由	適用先
21	エラー {0} (RC_UNREACHABLE_TARGET): 指定されたターゲットは オフラインであるか、接続情報が関連付けられていません。	<p>ているマシンに、正しく登録されたリモート・コントロール・ターゲットがあることを確認してください。</p> <p>指定されたエンドポイントは登録済みのリモート・コントロール・ターゲットですが、そのエンドポイントに接続情報がないか、接続を確立できません。このエラーは、指定されたターゲット・エンドポイントまたはコントローラー・エンドポイントに該当することがあります。リモート・コントロール・ターゲットが実行中であって、現行の詳細な接続情報をリモート・コントロール・サーバーに報告していること、およびそのターゲットとの間にリモート・コントロール・セッションを確立できることを確認してください。</p>	both
22	エラー {0} (RC_NO_PERMISSIONS): 選択されたモードでセッションを開始する許可がありません。	指定されたエンドポイントは登録済みのリモート・コントロール・ターゲットですが、コマンド・ラインで指定されたユーザーは、指定されたエンドポイントのリモート・コントロール・ターゲットに接続することが許可されていません。このエラーは、指定されたターゲット・エンドポイントまたはコントローラー・エンドポイントに該当することがあります。リモート・コントロール管理者に連絡を取って、許可について確認してください	both
23	エラー {0} (RC_TARGET_TOO_OLD): リモート・マシン上のターゲットが古すぎます。更新する必要があります。	CLI ツールが接続しようとしているエンドポイントにインストールされているリモート・コントロール・ターゲット・ソフトウェアのバージョンが古すぎます。このエラーは、指定されたターゲット・エンドポイントまたはコントローラー・エンドポイントに該当することがあります。エンドポイントのターゲット・ソフトウェアをアップグレードしてください。	both
24	エラー {0} (RC_TARGET_IS_BUSY): リモート・マシン上のターゲットは既にセッションに参加しています	CLI ツールが接続しようとしているエンドポイントは、リモート・コントロール・セッションに既に参加しているため、CLI ツールによる接続を処理できません。このエラーは、指定されたターゲット・エンドポイントまたはコントローラー・エンドポイントに該当することがあります。ターゲットが解放されたら、CLI コマンドを再試行してください。	both

## グローバル・コントローラー・プロパティの構成

`trc_controller.cfg` を編集して、グローバル・コントローラー・プロパティを作成および構成します。これらのプロパティは、Remote Control コントローラー・コンポーネントが P2P リモート・コントロール・セッション中に使用します。プロパティの値は、コントローラーを実行するすべてのユーザーに対して同じです。

管理対象リモート・コントロール・セッションのグローバル・コントローラー・プロパティの構成について詳しくは、*BigFix® Remote Control* 管理者ガイド でプロパティ・ファイルの編集に関するセクションを参照してください。

ユーザーは、コントローラー UI の「**コントローラーの構成**」機能を使用することで、ローカルで一連のプロパティを設定することもできます。ローカルのプロパティ値は、グローバル・プロパティ値をオーバーライドします。ローカル・プロパティの構成方法について詳しくは、[コントローラーのローカル構成の作成](#)を参照してください。

グローバルのプロパティ値を施行するため、ユーザーがコントローラー UI の**構成ウィンドウ**でプロパティを編集できないように、プロパティを *mandatory* に設定できます。*mandatory* のグローバル・プロパティは、ローカル・プロパティをオーバーライドします。

コントローラー・プロパティを構成するには、以下のステップを実行します。

1. `trc_controller.cfg` ファイルを編集します。



**注:** ファイルを編集するには、コントローラー・コンポーネントのインストール先システムで管理者権限を保持している必要があります。

### Windows® システム

```
[controller install dir]\trc_controller.cfg
```

ここで、`[controller install dir]` はコントローラーがインストールされているディレクトリーです。

### Linux® システム

```
opt/bigfix/trc/controller/trc_controller.cfg
```

2. 該当するプロパティを追加または構成します。

プロパティを *mandatory* に設定するには、プロパティ名をコピーし、末尾に `.mandatory = true` を追加します。

例えば、「**アドレス履歴を使用可能にする**」プロパティを *mandatory* にして**構成ウィンドウ**で編集できないようにするには、以下のようにします。

**enable.address.history=false enable.address.history.mandatory=true**

3. ファイルを保存します。
4. コントローラー・コンポーネントを停止して開始します。



コントローラーがターゲットと開始するすべての新しい P2P セッションに、新しいプロパティ値が反映されます。

## P2P セッション中のターゲット上でのツールの実行

コントローラー・プロパティを作成および構成して、リモート・コントロール・セッション中にターゲット・コンピューターで特定のツールを実行することができます。

構成されたプロパティは、コントローラー・ウィンドウの「**ターゲットでのアクションの実行**」メニューのメニュー項目として、アルファベット順で表示されます。



**注:** 「**ターゲットでのアクションの実行**」メニューに追加される項目が多すぎると、メニュー内の最後の項目は画面の最下部を超えてしまう可能性があります。この問題は、メニューのスクロールはサポートされていないため、特に小さいサイズの画面で見られます。

セッション中に表示されるのは、対応するコマンドがターゲット・コンピューター上に存在するツール・エントリーだけです。セッションの開始時に、コントローラーは、すべての構成済みツールを記載したリストをターゲットに送信します。ターゲットは、各コマンドが存在するかどうかを検証し、すべての使用可能なコマンドを記載したリストをコントローラーに送り返します。セッションのアクション・メニューに、使用可能なツールの情報が取り込まれます。




**注:** Linux™ オペレーティング・システムがインストールされているターゲットの場合、ツールが存在するかどうかの検証に加え、ターゲットにこれらのツールを実行する権限があるのかも確認されます。

各ツールは、コントローラー・プロパティ・ファイルのいくつかのエントリー (一部はオプション) を使用して定義できます。同じツールに属するエントリーのプレフィックスは、すべて同じにする必要があります。事前構成された 7 個のツールがデフォルトで用意されており、必要に応じて変更することができます。空白のツールもデフォルトで 3 個用意されています。P2P セッション用のプロパティ・ファイルの編集について詳しくは、[グローバル・コントローラー・プロパティの構成](#)を参照してください。管理対象セッション用のプロパティ・ファイルの編集について詳しくは、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。プロパティは、以下の形式で作成および構成します。

プロパティ名	デ フォ ルト 必須値	説明
prefix.ToolName	は N/A 「 <b>ターゲットでのアクションの実行</b> 」メニューで使 い れる表示名。	
prefix.ToolName.\$lang\$	い N/A 表示名の翻訳。\$lang\$ は ISO 言語コードです。 い え	

プロパティ名	デフォルト値		説明
	必須	値	
prefix.ToolCommand	はい	N/A	パラメーターを除いた、ツールを実行するためのコマンド。
prefix.ToolParameters	はい	N/A	実行するコマンドのオプション・パラメーター。
prefix.ToolUser	はい	<ブランク>	コマンドの実行に使用する特権または資格情報を決定します。
	え	<ブランク>	ログオン・ユーザーとしてツールを実行します。

 **注:** Windows™ のバージョンによっては、UAC プロンプトが出されることがあります。

管理者

特権を昇格するための UAC プロンプトを使用してツールを実行します。

必須プロパティの定義

prefix.ToolName=	
変更可能フィールド	prefix.ToolName
フィールドの説明	「ターゲットでのアクションの実行」メニューで使用される表示名。定義する各ツールのプレフィックスは、それぞれ異なっている必要があります。
有効な値	ユーザー定義。例えば、以下のようになります。  wincmd.ToolName=Command Prompt  テキスト「 <b>Command Prompt</b> 」が「ターゲット内のアクションを実行」メニューに表示されます。
値の定義	
prefix.ToolCommand=	

変更可能フィールド	<b>prefix.ToolCommand</b>
フィールドの説明	パラメーターを除いた、ツールを実行するためのコマンド。
有効な値	<p>ユーザー定義。</p> <p>ツール・コマンドは、完全修飾パス、またはファイル名のみで指定することができます。例えば、<code>wincmd.ToolCommand=cmd.exe</code> と <code>wincmd.ToolCommand=[SystemFolder]\\cmd.exe</code> は同じです。</p> <p> <b>注:</b> パスで円記号 () を使用する場合は、円記号 () を 2 つ入力する必要があります。</p> <p>ファイルは、ログインしているユーザーの PATH 環境変数上に存在している必要があります。実行可能ファイルの他、実行可能ファイルの関連ファイルも指定できます。パスまたはファイル名にスペースが含まれている場合でも、引用符は使用しないでください。</p> <p>例えば、<code>services.msc</code> は <b>mmc.exe</b> (Microsoft™ 管理コンソール) に関連付けられています。</p> <p>以下の例はすべて同じものを表しています。</p> <pre>prefix1.ToolCommand = services.msc</pre> <pre>prefix2.ToolCommand = [SystemFolder]services.msc</pre> <pre>prefix3.ToolCommand = [SystemFolder]mmc.exe</pre> <pre>prefix3.ToolParameters = [SystemFolder]\\services.msc</pre> <p>Windows™ システムでツール・パラメーターを定義する場合は、以下のフォルダー・プロパティを使用できます。ターゲットは、これらのプロパティをターゲット・システム上の実際のパスに置き換えます。</p> <p><b>[WindowsFolder]</b></p> <p>ターゲットは、以下のパスを使用してツールを実行します。</p> <pre>[WindowsVolume]\\Windows</pre> <p><b>[SystemFolder]</b></p> <p>ターゲットは、以下のパスを使用してツールを実行します。</p> <pre>[WindowsFolder]\\System32</pre> <p>フォルダー・プロパティは、Linux™ ターゲットでは使用できません。</p> <pre>lnxcontrol.ToolCommand = /usr/bin/gnome-control-center</pre>
値の定義	

## 事前構成されたツール

tool01.ToolName = Control Panel tool01.ToolCommand = [SystemFolder]\\control.exe tool01.ToolParameters =  
tool01.ToolUser =

tool02.ToolName = Command Prompt tool02.ToolCommand = [SystemFolder]\\cmd.exe tool02.ToolParameters =  
tool02.ToolUser =

tool03.ToolName = Administrator Command Prompt tool03.ToolCommand = [SystemFolder]\\cmd.exe  
tool03.ToolParameters = tool03.ToolUser = admin

tool04.ToolName = Task Manager tool04.ToolCommand = [SystemFolder]\\taskmgr.exe tool04.ToolParameters =  
tool04.ToolUser =

tool05.ToolName = Windows™ Explorer tool05.ToolCommand = [WindowsFolder]\\explorer.exe  
tool05.ToolParameters = tool05.ToolUser =

tool06.ToolName=Terminal tool06.ToolCommand=/usr/bin/gnome-terminal tool06.ToolParameters =  
tool06.ToolUser =

tool07.ToolName=Control Panel tool07.ToolCommand=/usr/bin/gnome-control-center tool07.ToolParameters =  
tool07.ToolUser =

## リモート・コントロール・セッション中のキー・シーケンスのターゲットへの送信

コントローラー・プロパティを作成および構成して、特殊キー (多くの場合、繰り返し使用される特殊キーのシーケンス) を、リモート・コントロール・セッション中にターゲットに送信することができます。

構成されたプロパティは、コントローラー・ウィンドウの「**ターゲットでのアクションの実行**」メニューのメニュー項目として、アルファベット順で表示されます。



**注:** 「**ターゲットでのアクションの実行**」メニューに追加される項目が多すぎると、メニュー内の最後の項目は画面の最下部を超えてしまう可能性があります。この問題は、メニューのスクロールはサポートされていないため、特に小さいサイズの画面で見られます。

これらのメニュー項目は、コントローラーが参加するすべてのセッションで使用可能です。キー・シーケンスは、コントローラーのプロパティ・ファイルで定義します。各キー・シーケンスは、プロパティ・ファイルのいくつかのエントリ (一部はオプション) を使用して定義できます。同じキー・シーケンスに属するエントリのプレフィックスは、すべて同じにする必要があります。P2P セッション用のプロパティ・ファイルの編集について詳しくは、[グローバル・コントローラー・プロパティの構成](#)を参照してください。管理対象セッション用のプロパティ・ファイルの編集について詳しくは、「BigFix® Remote Control 管理者ガイド」を参照してください。プロパティは、以下の形式で作成します。

## プロパティ定義

```
prefix.KeySequenceName=
```

変更可能フィールド	<b>prefix.KeySequenceName</b>
フィールドの説明	「ターゲットでのアクションの実行」メニューで使用される表示名。定義する各キー・シーケンスのプレフィックスは、それぞれ異なっている必要があります。
有効な値	ユーザー定義。例えば、以下のようになります。  <code>injectF1.KeySequenceName = Inject F1</code>  「Inject F1」というテキストが「ターゲット内のアクションを実行」メニューに表示されます。
値の定義	

```
prefix.KeySequenceName.language=
```

変更可能フィールド	<b>prefix.KeySequenceName.language</b>
フィールドの説明	表示名の翻訳です。このプロパティはオプションです。
有効な値	ユーザー定義。例えば、以下のようになります。  <code>injectF1.KeySequenceName.es = Inyectar F1</code>
値の定義	

```
prefix.KeySequenceValue=
```

変更可能フィールド	<b>prefix.KeySequenceValue</b>
フィールドの説明	マクロ・シーケンス。ここで定義されたキーのシーケンスが、ターゲット・コンピューターに送信されます。
有効な値	ユーザー定義。例えば、以下のようになります。  <code>injectF1.KeySequenceValue = [F1]</code>
値の定義	

## 構成ファイルのエントリーの例

```
injectF1.KeySequenceName = Inject F1 injectF1.KeySequenceName.es = Inyectar F1 injectF1.KeySequenceValue = [F1]
```

injectCTRLALTS.KeySequenceName = Inject CTRL+ALT+S injectCTRLALTS.KeySequenceValue = [CTRL ALT S]

injectCTRLALT.X.KeySequenceName = Inject CTRL+ALT+X injectCTRLALT.X.KeySequenceValue = [CTRL+][ALT+]x[ALT-]  
[CTRL-]

injectALTF.KeySequenceName = File Menu injectALTF.KeySequenceValue = [alt+]f[alt-]

以下の説明は、使用する任意のマクロに使用できます。Ctrl キーは例として使用されています。

Ctrl キーを押して離す場合は、[CTRL] キーを使用 Ctrl キーを押したままにする場合は [CTRL+] を使用 Ctrl キーを離す場合は [CTRL-] を使用

## 使用できるマクロ

CMD	CTRL	CTRL	CTRL	ALT	ALT	ALT
SHIFT	SHIFTL	SHIFTR	META	METAL	METAR	SPECIAL
F1	F2	F3	F4	F5	F6	[F7]
[F8]	[F9]	F10	[F11]	F12	F13	F14
F15	F16	F17	F18	F19	F20	F21
F22	F23	F24	F25	F26	F27	F28
F29	F30	CAPS	SCROLL	NUM	BACKSPACE	タブ
UP	DOWN	RIGHT	LEFT	PGDN	PGUP	ホーム
END	ENTER	ESC	INS	DEL	MENU	PAUSE
BREAK	SYSRQ	PRTSC	CLEAR	UNDO	REDO	CUT
COPY	PASTE	KPSLASH	KPSTAR	KPMINUS	KPLUS	KPENTER
KPINS	KPDEL	KPEND	KPDOWN	KPPGDN	KPLEFT	KPRIGHT
KPCENTER	KPUP	KPPGUP	ALTGR	システム要求	SLEEP	APPS
ZOOM	STOP	CANCEL	PROPS	FRONT	開く	FIND
VOLUP	VOLDN	MUTE	POWER	CONTRAST_UP	CONTRAST_DN	BRIGHT_UP
BRIGHT_DN	DEGAUSS					

## P2P セッションで以前使用されたログオン資格情報の保持

P2P セッションを開始するために使用されるターゲット IP アドレス、ユーザー ID、およびドメイン名の履歴を格納するためのコントローラー・プロパティを構成することができます。

これにより、コントローラー・ユーザーが P2P セッションを開始したときに、「接続のオープン」ウィンドウでこれらの項目が選択可能になります。履歴は、コントローラー・ユーザーのホーム・ディレクトリーにある `trc_history.properties` ファイルに格納されます。 `trc_controller.cfg` ファイルを編集して、これらのプ

ロパティを構成します。プロパティの構成については、[グローバル・コントローラー・プロパティの構成](#)を参照してください。

## プロパティ定義

```
enable.address.history=
```

変更可能フィールド	<b>enable.address.history</b>
フィールドの説明	最近 P2P セッションの開始時に使用された IP アドレスの履歴を、コントローラーが保存するかどうかを決定します。セッションが正常に開始された場合、その開始のために使用された IP アドレスは、すべて IP アドレス履歴に格納されます。履歴は <code>trc_history.properties</code> という名前のファイルに格納されます。デフォルト値は true です。
有効な値	True または False
値の定義	<p><b>True</b></p> <p>P2P セッションを開始するときに、IP アドレス履歴が接続ウィンドウで使用可能になります。リストから必要な IP アドレスを選択します。</p> <p><b>False</b></p> <p>IP アドレス履歴は、接続ウィンドウで使用可能になりません。</p>

```
enable.user.history=
```

変更可能フィールド	<b>enable.user.history</b>
フィールドの説明	最近 P2P セッションの開始時に使用されたユーザー ID の履歴を、コントローラーが保存するかどうかを決定します。セッションが正常に開始された場合、その開始のために使用された ユーザー ID は、すべて IP アドレス履歴に格納されます。履歴は <code>trc_history.properties</code> という名前のファイルに格納されます。デフォルト値は false です。
有効な値	True または False
値の定義	<p><b>True</b></p> <p>P2P セッションを開始するときに、ユーザー履歴が接続ウィンドウで使用可能になります。リストから必要なユーザー ID を選択します。</p> <p><b>False</b></p> <p>ユーザー履歴は、接続ウィンドウで使用可能になりません。</p>

```
enable.domain.history=
```

変更可能フィールド	<b>enable.domain.history</b>
フィールドの説明	最近 P2P セッションの開始時に使用されたドメイン名の履歴を、コントローラーが保存するかどうかを決定します。セッションが正常に開始された場合、その開始のために使用されたドメイン名は、すべてドメイン履歴に格納されます。履歴は <b>trc_history.properties</b> という名前のファイルに格納されます。デフォルト値は true です。
有効な値	True または False
値の定義	<p><b>True</b></p> <p>P2P セッションを開始するときに、ドメイン履歴が接続ウィンドウで使用可能になります。リストから必要なドメイン名を選択します。</p> <p><b>False</b></p> <p>ドメイン履歴は、接続ウィンドウで使用可能になりません。</p>

```
history.max.items=
```

変更可能フィールド	<b>enable.address.history</b>
フィールドの説明	IP アドレス、ユーザー ID、およびドメインの履歴リストのサイズに制限を設定します。リストが <b>history.max.items</b> の制限に達していても新しい項目を追加する必要がある場合は、履歴リストで最も古い項目が削除されます。
有効な値	0 - 20
値の定義	20 を超える値を指定しても、接続ウィンドウ内のリストのみで最大項目数は 20 となります。0 の値を指定すると、履歴リストは使用不可となります。

## マスター・コントローラーの受け入れウィンドウの非表示化

コラボレーション・セッションのマスター・コントローラーは、新しい参加者それぞれについて、コラボレーション・セッションに受け入れるかどうか決定するよう求められます。P2P リモート・コントロール・セッションでコラボレーションを開始する場合は、コントローラー・プロパティを作成して、受け入れプロンプトが表示されないように構成することで、その都度受け入れを行う必要をなくすることができます。

受け入れプロンプトが表示されないようにするには、以下のステップを実行します。

1. **trc\_controller.cfg** ファイルを編集します。
2. 以下のエントリーを追加します。  
**enable.join.collab.prompt=false**
3. ファイルを保存します。



ユーザーが新しくコラボレーション・セッションへの参加を要求したときに、要求を受け入れてセッションを共有するかどうかの決定を求められることがなくなります。受け入れプロンプトを再度有効化するには、**enable.join.collab.prompt=true** と設定します。コントローラー・プロパティについて詳しくは、[グローバル・コントローラー・プロパティの構成](#)を参照してください。



**注:** セッションの全制御を新しいマスター・コントローラーに引き継ぐ場合は、そのコントローラーのプロパティ・ファイルで定義されたプロパティが反映されます。

## リモート・セッション中のターゲットにおけるツールの実行の有効化と無効化

リモート・セッション中にターゲット上のツールの実行を有効化および無効化する方法について説明します。

ターゲット・マシンでツールが、コントローラー・ウィンドウの「**ターゲットでのアクションの実行**」メニューから実行されないようにするために、新しいプロパティが `trc_controller.cfg` と `controller.properties` に追加されています。この機能を有効にすると、「**ターゲットでのアクションの実行**」メニューのコマンド・エントリーが削除されます。

プロパティ名	必須	デフォルト	説明\n
allow.user.commands	はい	True	「 <b>ターゲットでのアクションの実行</b> 」メニューにあるコマンド・エントリーを表示/非表示にします。

コントローラー・プロパティを構成するには、以下のステップを実行します。

### 手順

#### P2P セッション

1. `trc_controller.cfg` ファイルを編集します。

##### Windows システム

```
[controller install dir]\trc_controller.cfg
```

ここで、`[controller install dir]` はコントローラーがインストールされているディレクトリーです。

##### Linux システム

```
opt/bigfix/trc/controller/trc_controller.cfg
```

2. true または false を設定して、プロパティを構成します。
3. ファイルを保存します。

#### 管理済みセッション

1. サーバー・コンソールから `controller.properties` を編集します。
2. `true` または `false` を設定して、プロパティを構成します。
3. ファイルを保存します。

## 監査

セッションに対して **AuditToSystem** ポリシーが有効になっている場合は、リモート・コントロール・セッション・イベントが監査目的で保存されます。

コントローラー・コンピューターで、ログ・ファイル内のイベントを表示できます。P2P セッションの場合、`trcaudit.log` ファイルを開きます。管理対象セッションの場合、`trcaudit_[ipaddress]_[token].log` を開きます。ここで、`[ipaddress]` はターゲットの IP アドレス、`[token]` はセッション・トークンの値です。いずれのログ・ファイルも、ユーザーのホーム・ディレクトリーにあります。

ターゲット・コンピューターでもイベントを表示できます。

Linux のターゲット・コンピューターでは `messages` ログ・ファイル、Windows ターゲットではアプリケーション・イベント・ログを使用できます。

Windows のアプリケーション・イベント・ビューアーにアクセスするには、「スタート」>「コントロール パネル」>「管理ツール」>「イベント ビューアー」>「アプリケーション」をクリックします。リストが表示されます。**Remote Control - ターゲット**を選択します。右クリックして、「プロパティ」を選択します。「情報のプロパティ」ウィンドウが開きます。

以下の情報が表示されます。

- 引き継ぎの日付
- 引き継ぎの時刻
- 引き継がれるコンピューター
- 引き継ぎを開始する IP アドレス
- MAC アドレス
- 説明セクション

オンデマンド・ターゲットを使用している場合、監査ログはターゲット上のテキスト・ファイルに書き込まれます。`trcaudit_date_time.log` ファイルが作成されます。`date_time` はセッションが発生した日時です。例えば、`trcaudit_20130805_132527.log` です。このファイルは、現在ログオンしているユーザーのホーム・ディレクトリーに作成されます。

## ユーザーの受け入れの監査イベント

以下の監査イベントは、リモート・コントロール・セッションの開始時に、ユーザーの受け入れプロセスによってトリガーされます。

対象のセッション監査ログでは、セッションが受け入れられたことを示すイベントと同じイベントが示されていました（セッションが受け入れられました。理由: 許可されたユーザー）。セッションがユーザーによって受け入れられたのか、別の理

由で自動的に受け入れられたのかを監査イベントから判別することは不可能でした。監査を改善するために、以下の監査イベントは非推奨になり、4つの新しい監査イベントで置き換えられました。

表 7. 非推奨の監査イベント

イベント ID	イベント記述
ibm.trc.audit.0003	セッションが受け入れられました (Session Accepted)。理由: {\0}



表 8. 新規監査イベント

イベント ID	イベント記述	コメント
ibm.trc.audit.0046	セッションが {0} によって受け入れられました (Session Accepted by {0})	セッションはターゲット・システム上のユーザーによって受け入れられました。{0} は現在のユーザーのユーザー ID に置き換えられます。
ibm.trc.audit.0047	セッションがタイムアウト後に自動的に受け入れられました (Session accepted automatically after timeout)	<b>「受け入れ猶予時間」</b> ポリシーの有効期限が切れる前にユーザーがユーザー確認プロンプトに応答せず、セッションは自動的に受け入れられました。 <b>「受け入れタイムアウト時のアクション」</b> ポリシーが続行するように設定されています。
ibm.trc.audit.0048	「ログイン時に接続」が許可されているため、セッションが自動的に受け入れられました (Session accepted automatically because connect at logon is allowed)	対象システム・コンソールにログオンしているユーザーがおらず、 <b>「ログイン時に接続」</b> が有効になっていて「はい」に設定されているため、セッションは自動的に受け入れられました。
ibm.trc.audit.0049	セッションが受け入れられました (Session accepted)。ユーザー確認は無効です (User acceptance is disabled)。	ユーザー確認が有効になっていないため、セッションが自動的に受け入れられました。



**注:** ユーザー確認を無効にするには、「着信接続におけるユーザー受け入れを使用可能にする」ポリシーを使用します。ただし、このポリシーが有効になっていて「はい」に設定されている場合、他の理由によってユーザー確認を無効にすることができます。**「受け入れ猶予時間」** ポリシーが 5 秒未満に設定されている場合は、ユーザー確認は自動的に無効になります。これは、ユーザー確認プロンプトに反応するのに十分な時間が対象ユーザーに与えられないためです。対象がグラフィカル・ユーザー・イ

表 8. 新規監査イベント (続く)

イベント ID	イベント記述	コメント
		 インターフェースを開始できない場合にも常に、ユーザー確認は自動的に無効になります。
		 <b>注:</b> ユーザーの受け入れウィンドウに表示される、以下のユーザー ID の値に注意してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>セッションがリモート・コントロール・サーバーから開始された場合は、Remote Control サーバーに認証するためにコントローラーが使用するユーザー ID が表示されます。</li> <li>スタンドアロン・コントローラー・コンソールを実行することでセッションが開始された場合は、ローカル・システムにログオンするためにコントローラー・ユーザーが使用するユーザー ID が表示されます。</li> </ul>

## 監査イベントの認証

以下の監査イベントは、ターゲット・システムに対してユーザー ID およびパスワードの認証を要求する P2P リモート・コントロール・セッションに対してトリガーされます。

つまり、対象となるのはターゲット・プロパティ **CheckUserLogin** が有効になっているセッションです。セッション拒否監査イベントが改善され、十分に詳細に認証を監査できるようになりました。監査を改善するために、以下の監査イベントは非推奨になり、新しい監査イベントで置き換えられました。

表 9. 非推奨の監査イベント

イベント ID	イベント記述
ibm.trc.audit.0002	セッションは {0} によって拒否されました (Session Rejected by{0})

表 10. 新規監査イベント

イベント ID	イベント記述
ibm.trc.audit.005A	システム・ログオンを使用して、ユーザー ID {0} を認証します (Authenticating user ID {0} using system logon.)。許可されるグループ: {1}
ibm.trc.audit.005B	ユーザー ID またはパスワードが正しくないため、セッションが拒否されました (Session rejected because the user ID or password is incorrect)
ibm.trc.audit.005C	ユーザーが許可グループのメンバーではないため、セッションが拒否されました (Session rejected because the user is not a member of an allowed group)。

表 10. 新規監査イベント (続く)

イベント ID	イベント記述
ibm.trc.audit.005D	セッションが {0} によって拒否されました (Session rejected by {0})
ibm.trc.audit.005E	セッションが {0} 秒後に自動的に拒否されました (Session rejected automatically after {0} seconds)
ibm.trc.audit.005F	セッション・トークンが無効であるため、セッションが拒否されました (Session rejected because the session token is invalid)
ibm.trc.audit.0060	セッション・トークンの有効期限が切れているため、セッションが拒否されました (Session rejected because the session token has expired)
ibm.trc.audit.0061	セッション・トークンが異なる対象用のものであるため、セッションが拒否されました (Session rejected because the session token is for a different target)
ibm.trc.audit.0062	不明な理由 {0} のため、セッションがサーバーによって拒否されました (Session rejected by the server for unknown reason {0})
ibm.trc.audit.0063	{0} モードが許可されないため、セッションが拒否されました (Session rejected because {0} mode is not allowed)
ibm.trc.audit.0064	接続エラーのため、セッションが拒否されました (Session rejected due to a connection error)

コントローラーによって、以下の監査メッセージが監査ログに書き込まれます。このメッセージは、ターゲット・コンピューターにログインしているユーザーと、このユーザーが Remote Control にログインしてこのセッションを制御するのに使用しているユーザー ID を示します。

表 11. 新規コントローラー監査イベント

イベント ID	イベント記述
Audit.logged.user	ユーザー {0} はコントローラー・マシンに {1} としてログインしました (User {0} is logged in as {1} in the controller machine)

## スマート・カード監査イベント

スマート・カード認証が有効化されている場合に、リモート・コントロール・セッション中にトリガーされる可能性のある監査イベントは、以下のとおりです。

## コントローラーのスマート・カード監査イベント

表 12. コントローラーのスマート・カード監査イベント

イベント ID	イベント記述	コメント
Audit.SMC.connectreader	リーダー {0} に接続しています (Connecting reader {0})	コントローラーは、「 <b>スマート・カードの選択</b> 」メニューで選択したスマート・カード・リーダーに接続しています。{0} はカード・リーダー名で置き換えられます。
Audit.SMC.connectreader.failed	リーダー {0} をマウントできません。 (Unable to mount reader {0}.)	仮想ドライバーの初期化中にエラーが報告されました。
Audit.SMC.disconnectreader.1	システムがリーダー {0} を切断しています (System disconnecting reader {0})	コントローラー・ユーザーが物理カード・リーダーをシステムから取り外しました。 {0} はカード・リーダー名で置き換えられます。
Audit.SMC.disconnectreader.2	リーダー {0} を切断しています (Disconnecting reader {0})	コントローラー・ユーザーが、「 <b>スマート・カードの選択</b> 」メニューで接続済みのリーダーを選択して切断しました。{0} はカード・リーダー名で置き換えられます。
Audit.SMC.cardinserted	リーダー {0} にカードがあります (Card present in reader {0})	コントローラー・ユーザーがスマート・カード・リーダーにカードを挿入しました。{0} はカード・リーダー名で置き換えられます。
Audit.SMC.cardremoved	リーダー {0} にカードがありません (Card not present in reader {0})	コントローラー・ユーザーがスマート・カード・リーダーからカードを取り外しました。 {0} はカード・リーダー名で置き換えられます。

## ターゲットのスマート・カード監査イベント

表 13. ターゲットのスマート・カード監査イベント

イベント ID	イベント記述	コメント
ibm.trc.audit.00C0	仮想スマート・カード・デバイスが接続されました (Virtual smart card device connected)	ターゲットが仮想スマート・カード・リーダーに接続しました。
ibm.trc.audit.00C1	仮想スマート・カード・デバイスを接続できません	ターゲットが仮想スマート・カード・リーダーに接続できません。

表 13. ターゲットのスマート・カード監査イベント (続く)

イベント ID	イベント記述	コメント
	でした (Virtual smart card device failed to connect)	
ibm.trc.audit.00C2	仮想スマート・カード・デバイスが切断されました (Virtual smart card device disconnected)	ターゲットと仮想スマート・カード・リーダーとの接続が切断されました。コントローラー・ユーザーが「 <b>スマート・カードの選択</b> 」メニューで接続済みのリーダーを選択して、そのリーダーを切断したときに報告されます。
ibm.trc.audit.00C3	仮想スマート・カード・デバイスを切断できません でした (Virtual smart card device failed to disconnect)	ターゲットが仮想スマート・カード・リーダーとの接続を切断できませんでした。
ibm.trc.audit.00C4	エラーが発生したため、仮想スマート・カード・デバイスが切断されました (Virtual smart card device disconnected due to an error)	予期しないエラーが発生したため、ターゲットと仮想スマート・カード・リーダーとの接続が切断されました。

## 現在のデータが報告されるようにする

BigFix® Remote Control サーバー でレポートが生成されると常に、必要なデータを取り出して画面に表示するための照会が、データベースに対して実行されます。このデータは、次に同じレポートが実行されるときのために一時的なロケーションに保持されており、データが画面に表示されるまでの時間が短縮されるようになっています。レポート・データが最後に表示されたとき以降に発生した更新があればそれもすべて含めて、最新のデータが画面に報告されるようにするには、画面の右側の「**更新**」をクリックします。変更または更新によってレポート・データが更新されて、画面に表示されます。

例えば、新規ユーザーを作成したが、そのユーザーの詳細が「**すべてのユーザー**」レポートに表示されない場合は、「**更新**」をクリックして、新規エントリによってレポートを更新します。

## エラーメッセージ

多くの場合、Remote Control で生じる接続上の問題は、周囲のネットワーク・インフラストラクチャーに関係しています。Remote Control でのエラー・メッセージは、これらの問題を特定する際に役立ちます。

以下のリストのエラー・メッセージが、コントローラー・ユーザーに対して表示されることがあります。

タイムアウトが原因で <IP> に接続できません：

このエラーの一例として、コントローラーがターゲットへの基本的な接続を確立できなかったか、あるいは接続の受け入れまたは拒否の前に接続エラーが生じた場合が挙げられます。

ターゲットがセッションを拒否しました：

このエラーの例として、ユーザーの受け入れポリシーが有効であるときに、サーバーがセッション試行の妥当性検査を行わなかったか、ターゲット・ユーザーがセッション要求を拒否した場合が挙げられます。

セッション前に実行するスクリプトが見つからないか、またはタイムアウトしたため、セッションは拒否されました：

このエラーの例としては、「**スクリプトをセッション前に実行するポリシー**」が設定されているが、スクリプトが見つからないか、または事前スクリプトがタイムアウトして、事前スクリプト/事後スクリプトの失敗時の操作が「**中断**」に設定されている場合が挙げられます。

セッション後に実行するスクリプトが見つからないため、セッションは拒否されました：

このエラーの例としては、「**スクリプトをセッション後に実行するポリシー**」が設定されているが、スクリプトが見つからないか、または事後スクリプトがタイムアウトして、事前スクリプト/事後スクリプトの失敗時の操作が「**中断**」に設定されている場合が挙げられます。

事前セッション・スクリプトに障害が起こり次のエラー・コードが出されたため、セッションがリジェクトされました：< X >：

このエラーは、「セッション前に実行するスクリプトが見つからないか、またはタイムアウトしたため、セッションは拒否されました」というエラーに似ています。ただし、このエラー・メッセージでは、前スクリプトが失敗した場合、そのスクリプトが返したエラー・コードも表示されます。

クライアントが許可限度に達したためセッションは拒否されました：

このエラー・メッセージは、具体的にはコラボレーション・セッションに参加する際、既にセッション内の参加者の数が、許可されているコントローラーの制限に達しているときに使用されます。

提示された信任状が無効なためセッションは拒否されました：

このエラー・メッセージは、P2P セッションを開始しているときに無効なユーザー名およびパスワードが入力された場合に使用されます。

ファイル転送が拒否されました。現在の構成ではターゲットにログオンしているユーザーが必要です：

このエラー・メッセージは、P2P ファイル転送セッションを確立するときに、ターゲットにログオンしているユーザーがいない場合に表示されます。

提示された信任状の有効期限が切れているためセッションは拒否されました：



P2P セッションの開始に Windows™ オペレーティング・システムの ユーザー ID およびパスワードが必要とされる場合に、ID またはパスワードが期限切れであると、このメッセージが表示されます。

許可時間を過ぎたためセッションは拒否されました：

このエラー・メッセージは、セッションが許可された時間内に開始されない場合に使用されます。

セッションを確認するためにログインしているユーザーが存在しないため、セッションは拒否されました：

このエラー・メッセージは、「**ログイン時に接続**」ポリシーが「はい」に設定されているが、セッションを受け入れることができるユーザーがターゲットにログオンしていない場合に使用されます。

ターゲットは、別のセッションで使用されているか、または異なるポートを `listen` している可能性があります。{0} のターゲットに対するセッション・ハンドシェイクでエラーが発生しました。：

このエラー・メッセージは、コントローラーがネットワーク接続を確立できるが、Remote Control データを交換できない場合に表示されます。この問題は通常、既にそのターゲット上にアクティブなリモート・コントロール・セッションが存在しているか、または Remote Control ターゲット以外のサービスがそのポートを `listen` しているために発生します。{0} はターゲットの IP アドレスで置き換えられます。

FIPS 認定のローカル暗号プロバイダーの初期化中にエラーが発生しました。{0} に対するセッションを確立できません。：

このエラー・メッセージは、FIPS 準拠がコントローラーで正しく設定されていない場合に使用されます。コントローラーは、FIPS 対応の Java™ ランタイム環境で実行されていません。{0} はターゲットの IP アドレスで置き換えられます。

FIPS 認定の暗号化がターゲットでサポートされません。{0} に対するセッションを確立できません。：

このエラー・メッセージは、FIPS 準拠がターゲットでサポートされていない場合に使用されます。{0} に対するセッションを確立できません。{0} はターゲットの IP アドレスで置き換えられます。

受け入れタイムアウトのためにセッションは拒否されました：

このエラー・メッセージは、該当のセッションが「**受け入れ猶予時間**」ポリシーによって指定された時間内にターゲット・ユーザーによって受け入れられず、さらに「**受け入れタイムアウト時のアクション**」が「**中断**」に設定されている場合にも使用されます。

{0} へのネットワーク接続がタイムアウトになりました：

このエラー・メッセージは、ネットワーク接続の試行がタイムアウトにより失敗した場合に使用されます。この問題は通常、拒否した接続試行に対してどのような応答も返さないように構成されているファイアウォールによって、接続が停止された場合に発生します。{0} はターゲットの IP アドレスで置き換えられます。

{0} へのネットワーク接続が拒否されました：

このエラー・メッセージは、ネットワーク接続の試行が、拒否されたために失敗した場合に使用されます。この問題は通常、ホストがそのポートで接続を listen していないか、またはファイアウォールが接続を遮断しており、そのポートへの接続を明示的に拒否するように構成されている場合に発生します。



**注:** この問題は、Remote Control セッション拒否 (基本的なネットワーク接続が確立されると発生する) には関係していません。

ホスト {0} のアドレスを解決できません：

このエラー・メッセージは、接続の詳細で指定されたホスト名を、IP アドレスに解決できない場合に使用されます。

{0} への接続に失敗しました：

このエラー・メッセージは、汎用の接続失敗メッセージです。コードによって、接続が失敗した理由を明らかにできず、この汎用失敗メッセージ以外の情報を表示することができない場合にのみ表示されます。

着信接続を listen できません：

このエラーは、コントローラーが、コラボレーション・モードで他のコントローラーとの接続の listen を開始できない場合に表示されます。

## ブローカーを使用して接続されたセッションのセッション回復力

ブローカーを使用して接続されたリモート・コントロール・セッション中に接続の失敗が検出された場合、自動的にセッションへの再接続が試行されます。セッション接続で発生している事象は、さまざまなメッセージ・ウィンドウを通して、コントローラー・ユーザーおよびターゲット・ユーザーに通知されます。

ユーザーに表示されるメッセージは、どの参加者がセッションとの接続を失ったかによって異なります。

### コントローラーがセッションから切断する場合

コントローラーとセッションの接続が切れた場合、コントローラーはブローカーと通信できません。例えば、ネットワークの問題が原因で起こります。コントローラー・コンピューターに、次のメッセージが表示されます。

セッションの再確立を試行しているので、しばらくお待ちください

ブローカーへの接続が切れました。接続をリカバリーしようとしています。

コントローラーが再接続するまで、30 秒ごとに接続が試行されます。この間に、「**セッション再接続のキャンセル**」をクリックして、セッションを終了することができます。コントローラーが 10 分経っても接続しない場合、接続の試行が終了します。

再接続の試行中、コントローラーがブローカーに再接続しようとしている間に、ターゲット・コンピューターに以下のセッション中断のメッセージが表示されます。ターゲット・ユーザーは、「**セッションの終了**」をクリックすることができます。

コントローラーからの接続が切れたため、セッションは一時的に中断しています。

コントローラーが再接続を試行する間お待ちください。

コントローラーがブローカーに再接続するとき、接続中のメッセージがコントローラーに表示されます。セッションでユーザーの受け入れが有効になっている場合、ターゲットにユーザー確認メッセージが表示されます。ターゲット・ユーザーは、セッションを受け入れるか、拒否する必要があります。ただし、コントローラーが再接続したときにターゲットとブローカーの接続が切れていると、コントローラーに次のメッセージが表示されます。

セッションの再確立を試行しているので、しばらくお待ちください

ブローカーに再接続しました。エンドポイントへの再接続を試行しています。

ターゲットが再接続するまで、30 秒ごとに接続が試行されます。ターゲットが 10 分経っても再接続しない場合、セッションは終了します。

### ターゲットがセッションから切断する場合

ターゲットとブローカーの接続が切れた場合、コントローラー・コンピューターに、次のメッセージが表示されます。

セッションの再確立を試行しているので、しばらくお待ちください

エンドポイントへの接続が切れました。ブローカー経由の接続はまだアクティブです。

接続をリカバリーしようとしています。

ターゲットがブローカーに再接続しようとしている間に、ターゲット・コンピューターにセッション中断のメッセージが表示されます。ターゲットが再接続するまで、30 秒ごとに接続が試行されます。セッションでユーザーの受け入れが有効になっている場合、ターゲットが再接続すると、ターゲットにユーザー確認メッセージが表示されます。ターゲット・ユーザーは、セッションを受け入れるか、拒否する必要があります。ターゲットが再接続しようとしている間に、コントローラーは「**セッション再接続のキャンセル**」をクリックして、セッションを終了することができます。セッション終了メッセージが表示されます。コントローラー・ユーザーは、「**はい**」をクリックしてセッションを終了できます。ただし、ターゲットはまだブローカーに接続しようとしているため、この時点で再接続した場合、ターゲットに次のメッセージが表示されます。

セッションが終了しているため、接続を再確立できません。

新しい接続コードで再試行しますか？

ターゲット・ユーザーは、「**OK**」をクリックして新しいセッションを開始するか、または「**キャンセル**」をクリックして終了することができます。

複数の参加者が存在するセッションの場合

複数の参加者が存在するリモート・コントロール・セッション中に、マスター・コントローラー・ユーザーがブローカーとの接続を失うと、次のメッセージが表示されます。このメッセージは、マスター・コントローラーに表示されます。

セッションの再確立を試行しているので、しばらくお待ちください

ブローカーへの接続が切れました。セッションをリカバリーしようとしています。

これと同時に、セッションに存在するその他のすべての参加者に対して、次のメッセージが表示されます。

セッションの再確立を試行しているので、しばらくお待ちください

エンドポイントへの接続が切れました。ブローカー経由の接続はまだアクティブです。

セッションをリカバリーしようとしています。

コントローラーが3分以内に再接続せず、自動ハンドオーバー・ポリシーが有効になっている場合、セッション制御は自動的に別のコントローラーに渡されます。ただし、ユーザーの受け入れが有効になっている場合、ターゲット・ユーザーは新しいマスター・コントローラーを受け入れるか、拒否する必要があります。元のマスター・コントローラーが再接続した場合、新しいマスター・コントローラーが参加の要求を受け入れると、元のマスター・コントローラーはそのセッションに参加できます。元のマスター・コントローラーは、参加者としてセッションに再度参加し、マスター・コントローラーではなくなります。

スマート・カードのステータス・メッセージ

スマート・カード認証が有効化されているリモート・コントロール・セッション中に、コントローラーに表示される可能性のあるステータス・メッセージを以下に示します。一部のメッセージ・ウィンドウには、「非表示」ボタンが表示されます。「非表示」をクリックすると、メッセージ・ウィンドウを最小化してセッションを続行できます。

表 14. コントローラーに表示されるスマート・カードのステータス・メッセージ

ステータス・メッセージ	コメント
コントローラーのスマート・カード・サブシステムを初期化しています ( <i>Initializing controller smart card subsystem</i> )	セッションの開始時に表示されます。挿入されているスマート・カードをコントローラーが照会しています。
仮想カードを作成して接続しています ( <i>Creating Virtual card and connecting</i> )	コントローラーのユーザーがカード・リーダーを選択したときに表示されます。ターゲットは、現在、仮想カード・リーダーを作成して、コントローラーの物理カード・リーダーに接続しようとしています。
接続されているスマート・カード・リーダーのリストを取得しています ( <i>Getting list of attached smart card readers</i> )	コントローラーのユーザーが、「スマート・カードの選択」メニューで「カード・リストの更新」を選択したときに表示されます。
仮想スマート・カードを切断しています ( <i>Disconnecting Virtual smart card</i> )	コントローラーのユーザーが、既に選択されているカード・リーダーを選択して、そのカード・リーダーを切断するときに表示されます。

表 14. コントローラーに表示されるスマート・カードのステータス・メッセージ (続く)

ステータス・メッセージ	コメント
リモート仮想ドライバーの作成中にエラーが発生しました。 ( <i>Error creating remote virtual driver.</i> ) ターゲットのログを確認してください ( <i>Please check the target log</i> )	ターゲットが仮想リーダーを作成しようとしたときにエラーが返された場合に表示されます。
スマート・カード・サブシステムをリセットしています ( <i>Resetting the smart card subsystem</i> )	セッション終了時にカード・リーダーを切断したときに表示されます。

## のキーボード・ショートカット BigFix® Remote Control Target for macOS

BigFix® Remote Control Target for macOS でのリモート・コントロール・セッション中に、以下のキーボードショートカットを挿入できます。ショートカットは、コントローラー UI の「ターゲットでのアクションの実行」メニューに表示されます。

表 15. で使用できるキーボード・ショートカット BigFix® Remote Control Target for macOS

コントローラー・メニューの表示名 (macOS)	コントローラー・メニューの表示名 (Windows™ コントローラー)	機能
⌘ Q キーを挿入	Command + Q キーを挿入	選択したアプリケーションを終了します。
挿入 ⌥ ⌘ ⌫	Option + Command + Escape キーを挿入	アプリケーションを強制終了します。「強制終了」メニューが開きます。
挿入 ⌘ ␣	Command + スペース・キーを挿入	Spotlight 検索フィールドを表示または非表示にします。
挿入 ⌘ ⇧	Command + Tab キーを挿入	ターゲットでアクティブなアプリケーションを切り替えます。
⌘ ` キーを挿入	Command + 低アクセント・キーを挿入	アクティブなアプリケーションの最後に使用されたウィンドウに切り替えます。

## プロキシのオーバーライド

コントローラーは、デフォルトでシステム・レベルで定義されたプロキシを使用します。いくつかの条件では、これは望ましくない場合があります。コントローラー・インストール・フォルダーに「override.proxy」という名前のファイルを作成すると、デフォルトの動作が変更され、システム・プロキシは無視されます。

## Notices

This information was developed for products and services offered in the US.

HCL may not offer the products, services, or features discussed in this document in other countries. Consult your local HCL representative for information on the products and services currently available in your area. Any reference to an HCL product, program, or service is not intended to state or imply that only that HCL product, program, or service may be used. Any functionally equivalent product, program, or service that does not infringe any HCL intellectual property right may be used instead. However, it is the user's responsibility to evaluate and verify the operation of any non-HCL product, program, or service.

HCL may have patents or pending patent applications covering subject matter described in this document. The furnishing of this document does not grant you any license to these patents. You can send license inquiries, in writing, to:

*HCL*

*330 Potrero Ave.*

*Sunnyvale, CA 94085*

*USA*

*Attention: Office of the General Counsel*

For license inquiries regarding double-byte character set (DBCS) information, contact the HCL Intellectual Property Department in your country or send inquiries, in writing, to:

*HCL*

*330 Potrero Ave.*

*Sunnyvale, CA 94085*

*USA*

*Attention: Office of the General Counsel*

HCL TECHNOLOGIES LTD. PROVIDES THIS PUBLICATION "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. Some jurisdictions do not allow disclaimer of express or implied warranties in certain transactions, therefore, this statement may not apply to you.

This information could include technical inaccuracies or typographical errors. Changes are periodically made to the information herein; these changes will be incorporated in new editions of the publication. HCL may make improvements and/or changes in the product(s) and/or the program(s) described in this publication at any time without notice.

Any references in this information to non-HCL websites are provided for convenience only and do not in any manner serve as an endorsement of those websites. The materials at those websites are not part of the materials for this HCL product and use of those websites is at your own risk.

HCL may use or distribute any of the information you provide in any way it believes appropriate without incurring any obligation to you.

Licensees of this program who wish to have information about it for the purpose of enabling: (i) the exchange of information between independently created programs and other programs (including this one) and (ii) the mutual use of the information which has been exchanged, should contact:

*HCL*

*330 Potrero Ave.*

*Sunnyvale, CA 94085*

*USA*

*Attention: Office of the General Counsel*

Such information may be available, subject to appropriate terms and conditions, including in some cases, payment of a fee.

The licensed program described in this document and all licensed material available for it are provided by HCL under terms of the HCL Customer Agreement, HCL International Program License Agreement or any equivalent agreement between us.

The performance data discussed herein is presented as derived under specific operating conditions. Actual results may vary.

Information concerning non-HCL products was obtained from the suppliers of those products, their published announcements or other publicly available sources. HCL has not tested those products and cannot confirm the accuracy of performance, compatibility or any other claims related to non-HCL products. Questions on the capabilities of non-HCL products should be addressed to the suppliers of those products.

Statements regarding HCL's future direction or intent are subject to change or withdrawal without notice, and represent goals and objectives only.

This information contains examples of data and reports used in daily business operations. To illustrate them as completely as possible, the examples include the names of individuals, companies, brands, and products. All of these names are fictitious and any similarity to actual people or business enterprises is entirely coincidental.

#### COPYRIGHT LICENSE:

This information contains sample application programs in source language, which illustrate programming techniques on various operating platforms. You may copy, modify, and distribute these sample programs in any form without payment to HCL, for the purposes of developing, using, marketing or distributing application programs conforming to the application programming interface for the operating platform for which the sample programs are written. These examples have not been thoroughly tested under all conditions. HCL, therefore, cannot guarantee or imply reliability, serviceability, or function of these programs. The sample programs are provided "AS IS," without warranty of any kind. HCL shall not be liable for any damages arising out of your use of the sample programs.

Each copy or any portion of these sample programs or any derivative work must include a copyright notice as follows:

© (your company name) (year).

Portions of this code are derived from HCL Ltd. Sample Programs.

## Trademarks

HCL Technologies Ltd. and HCL Technologies Ltd. logo, and hcl.com are trademarks or registered trademarks of HCL Technologies Ltd., registered in many jurisdictions worldwide.

Adobe, the Adobe logo, PostScript, and the PostScript logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States, and/or other countries.

Java and all Java-based trademarks and logos are trademarks or registered trademarks of Oracle and/or its affiliates.

Microsoft, Windows, Windows NT, and the Windows logo are trademarks of Microsoft Corporation in the United States, other countries, or both.

Linux is a registered trademark of Linus Torvalds in the United States, other countries, or both.

UNIX is a registered trademark of The Open Group in the United States and other countries.

Other product and service names might be trademarks of HCL or other companies.

## Terms and conditions for product documentation

Permissions for the use of these publications are granted subject to the following terms and conditions.

### **Applicability**

These terms and conditions are in addition to any terms of use for the HCL website.

### **Personal use**

You may reproduce these publications for your personal, noncommercial use provided that all proprietary notices are preserved. You may not distribute, display or make derivative work of these publications, or any portion thereof, without the express consent of HCL.

### **Commercial use**

You may reproduce, distribute and display these publications solely within your enterprise provided that all proprietary notices are preserved. You may not make derivative works of these publications, or reproduce, distribute or display these publications or any portion thereof outside your enterprise, without the express consent of HCL.

### **Rights**

Except as expressly granted in this permission, no other permissions, licenses or rights are granted, either express or implied, to the publications or any information, data, software or other intellectual property contained therein.

HCL reserves the right to withdraw the permissions granted herein whenever, in its discretion, the use of the publications is detrimental to its interest or, as determined by HCL, the above instructions are not being properly followed.



You may not download, export or re-export this information except in full compliance with all applicable laws and regulations, including all United States export laws and regulations.

HCL MAKES NO GUARANTEE ABOUT THE CONTENT OF THESE PUBLICATIONS. THE PUBLICATIONS ARE PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, NON-INFRINGEMENT, AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

# 索引

## 記号

画面データ

更新

20

画面の選択

86

開始

66

拡大縮小表示

使用可能

87

使用不可

87

監査

117

改善

セッションの拒否

116

セッションの受け入れ

114

既にセッションに参加しているターゲットへの接続

44

記録

セッション・プレイヤーの開始

23

強調表示ツール

使用

37

高品質カラー

無効化

87

高品質カラー色

有効化

87

切断時のコラボレーション・セッションの終了

72

複数の画面

表示

86

平衡

87

## D

debug.trace

93

## N

Num アイコン

51

## P

P2P コラボレーション・セッションへの参加

63

P2P セッション

開始

40

参加

44

切断

44

P2P セッションで以前使用されたログオン資格情報の保持

110

## T

trc プレイヤーのダウンロード

23

## W

wrc コマンド

使用

96

wrc コマンドの

エラー・メッセージ

100

wrc の

例

98

wrcmdpcr コマンド

使用

98

wrcmdpcr の

例

100

## あ

アクセス要求	ツール
作成	35
13	ドロー・ツール
登録済みユーザー	37
13	マウス・ツール
表示	38
15	強調表示ツール
アクティブ・セッション	37
変更先	指示のクリア
50	38
<b>え</b>	変更先
エラー・メッセージ	51
wrc コマンド	ガイダンス・ツール
100	シンボルとアクション
<b>お</b>	36
オートスクロール	使用
無効化	35
87	<b>き</b>
有効化	キーボード・ショートカット
87	Mac ターゲット
オプション・メニュー	125
データのエクスポート	<b>く</b>
21	クイック・テキスト入力
デフォルト・ホーム・ページ・レポートにリセット	使用可能化
20	75
結果を最新表示	クリップボード・メニュー
20	テキストの受信
現行のレポートをホーム・ページとして設定	85
19	テキストの送信
出力	84
21	グレースケール
お気に入りターゲット・リスト	87
ターゲットの削除	<b>こ</b>
8	コマンド・ライン・ソフトウェア
作成	ダウンロード
7	Linux
表示	27
8	Windows
<b>か</b>	25
ガイダンス・セッション	コマンド・ライン・ツール
ガイダンス・ツール	wrc コマンド
35	96

wrcmdpcr コマンド	73
98	参加者の制限
使用	70
95	参加者の切断
コマンド・ラインからのリモート・コントロール・コ	70
マンドの使用	受け入れプロンプト
95	非表示
コラボレーション	112
ブローカー・セッション	終了
URL を使用した参加	72, 72
69	制御
サーバーからの参加	70
68	制御の取り消し
参加	70
68	制御の要求
開始	72
66	制御を渡す
接続 URL	70
69	制御を戻す
コラボレーション・セッション	72
P2P	コントローラー
61	セッションの確立
ハンドオーバー	29
64	ヘルプ
開始	93
61	コントローラー・インターフェース
参加	46
63, 64	「チャット・ウィンドウ」をオープン
サーバー UI の使用	56
57	オートスクロールの有効化/無効化
ブローカー	87
65	キャプチャー画面
ハンドオーバー	75
69	コントローラ・ツール
開始されたサーバー	74
ハンドオーバー	ターゲットでのアクションの実行
59	52
開始	パフォーマンス設定
57	87
参加	拡大縮小表示の使用可能/使用不可
59	87
監査イベント	コントローラー・インターフェース・

クリップボード・メニュー	19
84	セッション・メニュー
コントローラー・ソフトウェア	16
ダウンロード	ターゲット・メニュー
Linux	5
25	ツール・メニュー
Windows	22
24	ユーザー・メニュー
コントローラー・プロパティ	15
enable.address.history	レポート・メニュー
110	18
enable.domain.history	ログオフ
110	5
enable.user.history	ログオン
110	4
history.max.items	サーバー・インターフェース
110	アクセス
キー・シーケンスの送信	4
108	サーバーからコラボレーション・セッションへの参加
ターゲット上でのツールの実行	59
105	サーバーへのログオン
構成	4
104	し
コントローラー・プロパティの構成	システム情報
104	取得
コントローラー・ユーザーとしての	55
Remote Control	したターゲット・メニュー
の使用	最近アクセス
46	8
コントローラーからターゲットへのディレクトリーの	す
転送	ステータス・メッセージ
31	スマートカード
コントローラーからターゲットへのファイルの転送	124
31	スマート・カード
コントローラーの構成	コントローラー・オプション
89	85
コントローラー構成	スマート・カード・リーダーの選択
ローカル	85
89	スマート・カード・リーダー
さ	選択
サーバー Web インターフェース	85
オプション・メニュー	スマートカード

監査	セッション詳細
117	記録の再生
セ	17, 17
セッション	表示
検索	17
16	セッション中のキー・シーケンスのターゲットへの送
再接続	信
122	108
セッション・タイプ	セッション履歴
アクティブ	表示
29	9, 16
ガイダンス	た
34	ターゲット
チャット	アクセス要求の表示
30	15
変更	システム情報の取得
50	55
セッション・プレーヤー	ブラウザ
ダウンロード	6
23	リブート
起動	38
23	一時アクセスの要求
セッション・メニュー	匿名ユーザー
16	14
セッション詳細	一時アクセス要求
17	要求アクセス
ユーザーのセッション履歴	13
16	一時的アクセスの要求
検索	セッション開始時
16	13
セッションの記録	画面のキャプチャー
エクスポートとダウンロード	75
77	検索
セッションへの参加またはセッションの切断	7
44	表示
セッション応答	6
標識	ターゲット・ソフトウェア
86	ダウンロード
セッション回復力	Linux
122	24
セッション記録	Windows
77	23

ターゲット・ポリシー	
表示	
10	
ターゲット・メニュー	
5	
アクセス要求	
11	
お気に入りから削除	
8	
お気に入りの表示	
8	
お気に入りへの追加	
7	
すべてのターゲット	
6	
セッションの開始	
10	
セッション履歴	
9	
ターゲットをブラウズ	
6	
ブローカー・セッションの開始	
6	
ブローカー・セッションへの参加	
6	
検索	
7	
有効なポリシーの表示	
10	
ターゲットからコントローラーからへのディレクト	
リーの転送	
31	
ターゲットからコントローラーへのファイルの転送	
31	
ターゲットでのツールの実行	
リモート・セッション	
有効化および無効化	
113	
ターゲットの Num lock LED	
状態の設定	
51	
ターゲットへの一時アクセス	

要求	
11	
ターゲットメニュー	
ターゲット状況	
9	
ターゲット画面へのテキスト入力	
75	
ターゲット上でのツールの実行	
105	
ターゲット状況	
表示	
9	
ダウンロード	
Remote Control プレイヤーの起動	
23	
エージェント・ダウンロード	
23	
ち	
チャット・セッション	
変更先	
50	
つ	
ツール・メニュー	
ダウンロード	
22	
て	
データのエクスポート	
21	
デバッグ・プロパティ	
コントローラー	
93	
と	
トラブルシューティング	
監査	
114	
現在のデータの表示	
119	
トラブルシューティングに関する付録	
エラー・メッセージ	
119	
ドロー・ツール	
使用	

37	コントローラーからターゲットへ
ね	31
ネットワーク応答標識	ターゲットからコントローラーへ
86	31
は	ファイルの削除
パスワード	33
パスワードを忘れたとき	ファイルの転送
5	コントローラーからターゲットへ
変更	31
15	ターゲットからコントローラーへ
パスワードの変更	31
15	転送されたファイル・リストの表示
ふ	34
ファイル	ファイル転送ディレクトリー
ファイルの受信	ロケーションの変更
82	83
ファイルの送信	ファイル転送メニュー
82	ファイルの受信
ファイル転送ディレクトリーの変更	82
83	ファイルの送信
転送	82
81	リモート転送フォルダーを開く
ファイルの転送	83
31	転送フォルダーを開く
ファイル転送	83
コントローラーのファイル転送ディレクトリーを開く	転送表示の切り替え
83	83
ターゲットのファイル転送ディレクトリーを開く	ブローカー・コラボレーション・セッションへの参加
83	68
転送リストの表示	ブローカー・セッション
83	66
列の同期化	コラボレーション
32	65, 66
列の非表示	開始
32	42
列の表示	ブローカー・セッションの開始
32	42
ファイル転送セッション	ブローカーが関与するコラボレーション・セッション
ディレクトリーの作成	69
33	プロキシのオーバーライド
ディレクトリーの転送	125
	へ



ベスト・パフォーマンス	表示
87	15
ヘルプ	り
93	リモート・コントロール・セッション
サーバー	P2P
27	28
ヘルプ・メニュー	アクティブ・セッション
サーバー	29
27	ガイダンス・セッション
ほ	34
ホーム・ページ	コラボレーション・セッション
リセット	56
20	タイプ
設定	29
19	リモート・コントロール・セッション
ま	ブローカー
マウス・ツール	28
有効化	開始
38	10, 28, 39
マスター・コントローラー	確立
受け入れプロンプト	29
非表示	管理対象
112	28, 39
め	記録
メッセージ	77
スマート・カード	再起動
124	38
も	終了
モニター・セッション	94
変更先	複数の参加者の招待
50	56
ゆ	リモートセッション
ユーザー・グループ	ファイル転送
表示	31
16	リモート制御セッション
ユーザー・メニュー	チャット・セッション
15	30
マイ・グループ	れ
16	レジストリ・キー
詳細	値の検索
15	52
ユーザーの詳細	表示

52

レポート

カスタム

実行

19

標準

実行

18

レポート・メニュー

18

ろ

ローカル記録

再生

79

作成

79

ローカル入力

無効化

51

有効化

51

ログオフ

5

ログオン

パスワードを忘れたとき

5